

要目の取扱を適切にするやうにと實施上の注意に於ても望まれてゐる。

本科の要目は中小商業の現情に鑑み其の經營上適切なる事項を選択され、且つ其の教材の排列に就ては商業實務の順序及生徒理解の程度を考慮し、努めて総合的に授くるやうに排列したるものであるが、第三年以上には複式簿記を課する上より商事要項と簿記とを區分して授くるやうに示されてゐるのであるが、此の要目は主として男子の要目として制定されたもので、女子の實施要目は、此の要目に準據し、其の學校生徒の實務生活情況、教授及訓練時數などに鑑みられて、適切に取捨選擇して之を定むるやうに致されたい。

次に要目を示すべければ、對炭して之を研究せらるるやうに致されたい。

商 業

- 一 本要目は我が國の商業に須要なる知識の修得と實務の練達とを主眼とし商業の國家的意義を體得せしむることを期したり
- 二 普通科に在りては商業の基礎的事項を選び本科に在りては中小商業の現情に鑑み其の經營上適切なる事項を選択したり
- 三 本要目に於ては青年學校の實情に鑑み男女の別を設けず教授及訓練時數を配當せずして制定したり

- 四 教材は綜合して商業實務の順序及生徒の理解の程度を考慮して排列したり但し高年に於ては複式簿記に習熟せしむる必要上之が教材を分離せり
- 五 重要なる事項は反覆して之を掲げ年齢經驗の進むに應じて次第に會得せしむることとなしたり

普通科

題 目	要 項	備 考
第一年		
一 商人	職業 商人の務 良き商人	
二 店員	店の繁榮 店主と店員 良き店員	
三 通貨	通貨の種類 金錢の取扱方	
四 度量衡	メートル法と尺貫法 計量器の取扱方	一公正なる計量に就き知らしむること

五 商品

良き商品  
陳列・保管

六 電話

電話の掛け方・話し方  
通話事項の記録

七 書狀・電報

認め方  
整理・保存

八 荷造・配達

包装・荷造の仕方  
良き包装・荷造

商品の配達

種類・仕方

種類・料金

利用の仕方

- 一 書信を電報に書き改むる練習をなさしむること
- 一 電報の規則に就ても知らしむること
- 一 郵便の規則に就ても知らしむること

第二年

一 商業

商店

生産者より消費者まで

- 一 實例に依り商品の配給組織を知らしめ商業の職能を明かならしむること

二 代金

現金賣・掛賣  
通帳

三 廣告

請求・領收  
廣告の種類

廣告の利用

傳票の見方

帳簿の見方

- 一 請求書・領收書の認め方の練習をなさしむること
- 一 實例に依り授くること
- 一 記入例を示し記入及計算の練習をなさしむること

現金出納帳・仕入帳・賣上帳

五 小賣商

小賣商と百貨店  
小賣商の特徴

小賣商と卸商

卸商の特徴

會社の種類

會社の資本  
會社の長所・短所

- 一 協同精神の肝要なることを知らしむること

六 卸商

七 會社

- 八 商業の發展
  - 商業の昔と今
  - 内國商業
  - 外國貿易
  - 我が國と商業
  - 商業者の使命
- 九 商業者の使命

一 商業の助成機關に就ても知らしむること

本科

第一年

- 一 商業
  - 産業
  - 商業の職能
  - 商業の種類
  - 營業の種類と店舗
  - 設備
  - 店舗設置に必要な手續
  - 商號の選定
- 二 店舗

備

考

三 帳簿

- 開店の引露
- 店舗の清掃美化
- 帳簿の必要
- 帳簿の種類
- 記入上の心得
- 傳票
- 開業取引の記帳

一 開店披露文を作らしむること

一 單式簿記の帳簿に就き授くること

一 現金出納帳に資本元入並に建物・什器・帳簿・文房具類の買入を記帳せしむること

一 資本に就き記帳に必要な程度に於て知らしむること

(以下各種の帳簿に於ける記帳は各回引續き連續せるものとして取扱ふこと)

四 商業書狀

- 商業書狀の必要
- 讀み方・認め方
- 整理・保存
- 商品
- 仕入の要件

一 品質・數量・代價等に關し賣買手續上必要な事項に就き授くること

五 商品の仕入

需要の測定・採算・仕入先の選擇

注文の仕方

一口頭・電話・電報・郵便等に依る注文の手續を知らしむること

引取手續

一注文書類を作成せしむること

仕入代金

一送狀並に注文書類と現品との突合せに就き知らしむること

掛及現金仕入の記帳

一入荷通知狀を作成せしむること

賣價の見積

一掛及現金仕入に就き授くること

注文の引受

一仕入帳・現金出納帳・掛買日記帳・掛買元帳に記帳せしむること

販賣の仕方

一注文請求書を作成せしむること

賣上代金

一荷造・發送・運賃等に就て知らしむること

掛及現金賣の記帳

一掛及現金に就き授くること

通貨

一領收書・入金通知狀を作成せしむること

郵便爲替

一賣上帳・現金出納帳・掛賣日記帳・掛賣元帳に記帳せしむること

振替貯金

一取組の依頼と受取方との練習をなさしむること

其他

一拂込と拂出との練習をなさしむること

代金決済の記帳

一種類を擧ぐるに止むること

營業費の必要

一現金出納帳・掛買日記帳・掛買元帳・掛賣日記帳・掛賣元帳に記帳せしむること

營業費の種類

一現金出納帳に記帳せしむること

營業費と家事費との區別

一決算の手續を練習せしむること

商品の賣價と營業費

帳簿の締切

決算の必要

棚卸表・財産目録・決算表

帳簿の締切

損益計算書の作成

營業成績の判定

營業成績の判定

七 代金支拂の方

法

八 營業費

九 決算

通貨	帳簿の締切
郵便爲替	棚卸表・財産目録・決算表
振替貯金	損益計算書の作成
其他	營業成績の判定
代金決済の記帳	
營業費の必要	
營業費の種類	
營業費と家事費との區別	
商品の賣價と營業費	
營業費支拂の記帳	
決算の必要	
決算の手續	
帳簿の締切	
棚卸表・財産目録・決算表	
損益計算書の作成	
營業成績の判定	

一〇 記帳

第一例題

開業

掛及現金仕入

掛及現金賣

買掛金の支拂

賣掛金の回収

營業費の支拂

決算

第二例題

第三例題

一 現金出納帳・仕入帳・賣上帳・掛買日記帳・掛買元帳・掛賣日記帳・掛賣元帳に記帳せしむること

一 第一例題に準ずること

一 第二例題に連続すること

一 賣買契約書を作成せしむること

一 見積書を作成せしむること

一 賣上計算書・買付計算書を作成せしむること

第二年

一 賣買の方法

相對賣買

競争賣買

入札・糶糶賣買

委託賣買

販賣委託・買付委託

取引記帳(一)

一 開業取引・相對賣買・販賣委託・受託販賣の取引を記帳せしむること

一 積送品記入帳・受託販賣記入帳に就き授くること

一 仕入帳・賣上帳・現金出納帳・積送品記入帳・受託販賣記入帳・掛買日記帳・掛買元帳・掛賣日記帳・掛賣元帳に記帳せしむること

一 現金出納帳に當座預金の欄をも設け置かしむること

一 商慣習に關聯して尺貫法に就ても授くること

一 前回の記帳に買付委託及受託買付の取引を加へ記帳

二 商品の品質

三 商品の數量

四 取引値段

品質決定の必要

品質決定の方法

數量の表示

度量衡

度量衡の計算

相場と取引値段

相場表の見方

取引値段の定め方

取引記帳(二)

五 代金の決済

決済の時期  
 決済の方法  
 小切手  
 銀行爲替  
 爲替手形  
 約束手形  
 當座振込  
 交互計算  
 取引記帳(三)

せしむること  
 一 受託買付記入帳に就き授くること  
 一 前回の使用帳簿に受託買付記入帳を加へ記帳せしむること

一 小切手・爲替手形・約束手形を作成せしむること

一 前回の記帳に手形取引及其他の代金決済取引を加へ記帳せしむること  
 一 受取手形記入帳・支拂手形記入帳に就き授くること  
 一 現金出納帳の當座預金の欄に就き授くること  
 一 前回の使用帳簿に受取手形記入帳・支拂手形記入帳

六 商品の受渡

受渡の時期  
 受渡の場所  
 受渡の注意  
 受渡に關する書狀  
 保管の必要

を加へ記帳せしむること

一 商品の破損竝に品質・數量等の相違せる場合の處置に就き授くること

七 商品の保管

保管の方法  
 倉庫の利用  
 火災保險  
 發送方法の決定  
 荷造・荷印  
 發送手續

一 小包郵便・鐵道便・自動車便の手續に就き知らしむること

一 代金引替に就ても知らしむること

八 商品の發送

海上保險・運送保險  
 荷爲替  
 取引記帳(四)

一 前回の記帳に商品の返送及戻入・仕入値引・賣上値引

九 小賣業

小賣業と卸賣業との區別  
店舗と設備

仕入

販賣

廣告

店舗と設備

仕入

販賣

一〇 卸賣業

營業成績判定の必要  
手持品の精査

賣掛代金の整理

帳簿の整理

經營の合理化

運賃及保險料の支拂・荷爲替取組依頼の取引等を加へ記帳せしむること

一前回迄の記帳に就き決算手續をなさしむること

第三年

一 資金の調達

商業金融機關  
商業資金の調達方法

手形

證書

當座勘定

其他

遊資の運用方法

銀行預金

有價證券

其他

利息

鐵道便

鐵道便の特色

託送手續

貨物引換證

運賃

一 對人信用・對物信用に就ても説明すること

一 利息及割引料の計算をなさしむること

一 運賃の計算をなさしむること

二 商品の託送

三 商品の寄託

- 運送取扱店の利用
- 引取手續
- 汽船便
- 汽船便の特色
- 託送手續
- 船荷證券
- 運賃
- 運送取扱店の利用
- 引取手續
- 自動車便
- 自動車の特色
- 倉庫の種類
- 普通倉庫の利用
- 寄託手續
- 倉庫證券
- 出庫手續
- 保管料

一 運賃の計算をなさしむること

一 保管料の計算をなさしむること

四 危険の分擔

- 保險と協同
- 火災保險・海上保險
- 保險金額
- 契約期間
- 契約手續
- 保險料
- 保險證券
- 保險金受取の手續

一 協同の精神を力説すること

一 共同海損に就ても説明すること

第四年

一 外國貿易

- 我が國と外國貿易
- 外國貿易
- 種類
- 施設
- 取引方法
- 國際貸借
- 外國爲替



二 商品の配給

- 種類
- 相場
- 信用状
- 市場
- 農産物の配給
- 製造品の配給
- 配給機能
- 配給組織
- 配給費
- 卸商と小賣商
- 卸商と生産者
- 卸商の種類
- 中央卸賣市場
- 小賣商と消費者
- 小賣商の種類
- 消費組合
- 日用品小賣市場

- 一 商人の使命を強調すること
- 一 卸商の社會的使命を明かにすること

三 卸商

四 小賣商

五 取引所

六 仲介商人

七 商業助成機關

八 商業の組織

- 取引所の種類と組織
- 取引の種類
- 取引の方法
- 取引の決済
- 取引の委託
- 問屋
- 仲立人
- 代理商
- 商工會議所
- 同業組合
- 商業興信所
- 商品陳列所
- 商工相談所
- 其他
- 個人商人
- 會社
- 組合

- 一 掛繋に就ても説明すること
- 一 卸商と區別して商法上の問屋に就き説明すること

九 商業の經營

公企業  
 産業組合  
 カルテル・トラスト  
 資本の調達と其の運用  
 商業使用人  
 營業の施設  
 會計

一 豫算統制に就ても知らしむること

第五年

一 單式簿記と複式簿記

單式簿記と複式簿記との比較  
 單式簿記より複式簿記への轉換  
 簿記演習  
 貨幣の職能  
 我が國の貨幣制度

二 貨幣と物價

一 題目の順序は土地の情況に依り變更し得ること  
 一 土地の情況に依り特殊應用簿記をも授くること  
 一 各自の營業に適切なる簿記を工夫せしむること

三 金融

外國の貨幣制度  
 物價  
 價格と物價  
 物價の變動  
 物價の調節  
 物價指數  
 事業と資金  
 商業金融  
 中小商業者の金融  
 其の他の金融  
 金利

一 我が國と經濟上關係の密接なる國に就き授くること

四 經濟調査と統計

調査事項  
 調査方法  
 統計表の作成  
 食料品  
 米・麥・砂糖等  
 衣料品

一 郷土産業又は各自の營業に關聯する事項に就き調査をなさしむること

五 重要商品

一 我が國の經濟政策との關聯に留意して取扱ふこと  
 一 代用品に就ても知らしむること

生絲・綿・羊毛・人造絹絲  
及ニテール・アルファイパー  
等

燃料

石炭・石油等

金屬

鐵・銅等

林産物

木材・ゴム・紙等

化學工業品

ガラス・セメント・肥料・  
硫酸・ソーダ等

貿易雜貨

種類と組織

設立の手續

事業

共同施設

一協同の精神を力説すること

一商業組合による配給の合理化を強調すること

六 商業組合

七 海外經濟事情

一我が國と經濟上關係の密接なる國に就き授くること

八 産業

統制

指導・研究・調査

金融

管理

特典・監督

聯合組織

一般的事情

主要産業狀況

外國貿易

産業と國力

我が國の産業

我が國の資源

商業者の使命

簿記  
第三年

一 會計整理

商業の經營と會計

第二章 各科目の教授及訓練要目

會計と簿記

簿記と應用簿記

單式簿記と複式簿記

應用簿記の種類

財産と資本

財産と資本との關係

財産計算と資本計算

取引

交換取引

損益取引

混合取引

勘定

簿記の記録と勘定

勘定記入法

貸借の平均

一 資産と負債との差額を簿記上の資本として説明すること

一 取引は凡て勘定に分ち特有の形式に依り記録せらるべきことを説明すること

一 資産・負債・資本の三勘定に分ち丁字型の形式に依り説明すること

一 財産計算・資本計算を行ふこと、凡ての取引を勘定

勘定記入の練習(一)

損益の計算

資本増減の原因

損益の計算と營業成績の判定

損益の計算法と勘定記入法

勘定記入の練習(二)

財産及資本の残高計算

残高の計算法

残高の表示法

に依り記録することとが複式簿記の基本的特徴たることを説明し其の結果貸借の平均が生ずることを知らしむること

一 開業及其他の取引を丁字型の勘定に記入せしめ貸借の平均を具體的に知らしむること

一 練習(一)に引續き少數の損益取引を勘定に記入せしめ各損益の勘定残高を損益勘定に集めて純損益を算出し損益と資本との關係を知らしむること

一 残高の一覽表を貸借對照表と稱することを知らしむること

三 帳簿

勘定記入の練習(三)

一 貸借対照表の項目及金額を勘定に記入せしめ各勘定の残高を算出して貸借対照表及損益勘定を作成せしめ以て複式簿記の仕組を會得せしむること

主要簿

仕譯帳

取引の仕譯

仕譯帳の記入

元帳

仕譯帳と元帳

元帳の記入

記入練習

補助簿

補助簿と主要簿

補助簿の種類

勘定科目の設定  
財産勘定

一 練習(三)の取引に依り仕譯帳・元帳の記入をなさしむること  
一 仕入帳・賣上帳・現金出納帳・受取手形記入帳・支拂手形記入帳に就き知らしむること  
一 掛貸借は人名勘定によること

四 勘定科目

五 記帳  
六 決算

資産の諸勘定  
負債の諸勘定

資本勘定

資本の諸勘定

損益の諸勘定

第一例題

營業成績及財政状態の判定

元帳記録の誤記及脱漏の検査

査

試算表による検査

試算表の種類と機能

元帳記録の修正

棚卸

棚卸表の作成

修正の仕方

帳簿の締切

一 商品勘定は混合勘定として授けること

一 仕譯帳及元帳のみを使用せしむること

一 賣掛金回収不能の場合並に手持商品の相場下落の場合に就き授けること  
一 第一例題の記帳に就き締切をなさしむること

貸借對照表の作成  
損益計算書の作成  
財産目錄の作成

第二例題

一 財産目錄と貸借對照表並に棚卸表との相違に就き知らしむること

一 使用帳簿は第一例題と同一なること

七 記帳

第四年

一 掛貸借

賣掛金勘定と賣掛金元帳  
買掛金勘定と買掛金元帳  
掛貸借取引の仕譯練習

二 手形取引

一般手形取引  
受取手形勘定  
支拂手形勘定  
取引仕譯法  
手形の讓渡・割引  
割引料勘定  
取引仕譯法

一 荷爲替に就ても授くること

三 商品勘定の分割

手形取引の仕譯練習  
手形記入帳の記帳練習  
仕入・賣上・繰越商品の三勘定記入法  
賣買損益の計算法  
商品勘定の分割記入練習

一 賣上勘定と賣上帳・仕入勘定と仕入帳との關係を説明すること

一 合名會社・合資會社・組合事業の資本金に就ても知らしむること

一 各種積立金の必要と過當配當の不可なることを力説すること

四 株式會社の資本金・利益金の處分

株式會社の資本金勘定と個人商店の資本金勘定  
利益金・缺損金の處分  
前期損益勘定  
法定積立金勘定  
別途積立金勘定  
配當金勘定  
役員賞與金勘定  
前期繰越金勘定  
缺損金勘定

五 記帳 第一例題

六 仕譯帳の分割

七 資産の評価・損益の整理

- 株式會社の記帳として取扱はしむること
- 一 主要簿は仕譯帳及元帳・補助簿は仕入帳・賣上帳及現金出納帳を使用せしむること
- 一 商品勘定は分割記帳せしむること
- 仕譯帳分割の利便
- 特別仕譯帳
- 現金出納帳
- 賣上帳
- 仕入帳
- 普通仕譯帳
- 仕譯帳の分割記帳練習
- 資産の評価
- 貸倒の豫想
- 減價の償却
- 損益の整理
- 未經過費用・前受利益の控除・未拂費用・未收利益

- 一 資産の評価と損益の整理とは健全なる事業經營上極めて重要なことを力説すること
- 一 貸倒引當金勘定を説明し積立金勘定との相違を明かにすること

八 精算表

九 記帳

- の計上
- 作成の時期・目的
- 作成の練習
- 第二例題

實施上の注意

- 一 殘高式元帳を使用せしむること
- 一 棚卸整理事項を取り入るゝこと
- 一 精算表を作成せしむること

- 一 本要目の實施に當りては修身及公民科と聯絡を保ち商業を通じて徳性を涵養することに力むべし
- 二 本要目の教授は土地の情況・教授及訓練時數の多少・男女の別に依り精粗其の取扱を適切ならしむべし
- 三 本科男子の教授及訓練期間を四年となしたる場合には第五年の教授を適宜第三年及第四年の増課教材として配當し又は研究科に於て授くることを得べし
- 四 本科女子の教授は本科第一年乃至第四年の要目中適切なるものを選びて之を授くべし
- 五 研究科及専修科の教授は本要目を參酌し土地の情況に依り適切に之を定むべし
- 六 本要目は實踐に重きを置き生徒の實生活を指導することを眼目として之を取扱ふべし
- 七 本要目の實施に當りては地方産業との聯絡を密にし努めて指導の適切を期すべし
- 八 地方産業に關する事項に就ては努めて研究調査を行はしめ之が工夫改善に力めしむべし
- 九 書類の作成及記帳に當りては常に文字の指導に留意すべし

珠算

第二章 各科目の教授及訓練要目

普通科に於ては姿勢の整正・指頭の運用・算盤の取扱方等に留意し正確なる運珠法を授け以て基本的算法に習熟せしむべし

- 一 第一年に在りては主として二位三位の加減算及法數二位迄の乗除算の算法に習熟せしむること
  - 二 第二年に在りては主として二位乃至四位の加減算及法數三位迄の乗除算の算法に習熟せしむること
- 本科に於ては正確なる運珠法に留意し一層計算に習熟せしめ高年に進むに従ひ實務上の各種計算問題を處理し得る能力を養ふに力むべし
- 一 第一年に在りては主として二位乃至四位の加減算及法數三位迄の乗除算の練習を行ひ併せて簡易なる應用問題を授くること
  - 二 第二年に在りては主として二位乃至五位の加減算及法數二位乃至四位の乗除算の練習を行ひ併せて賣買に關する計算問題等を授くること
  - 三 第三年に在りては主として二位乃至六位の加減算及法數二位乃至四位の乗除算の練習を行ひ併せて洋合・利息・運賃・保險料・保管料等の計算問題を授くること
  - 四 第四年及第五年に在りては複雑なる加減乗除の計算を練習せしめ併せて外國爲替・租稅等に關する計算問題を授くること
- 尙普通科及本科を通じて適宜暗算を課するものと

## 五 水 産

1 女子青年學校の水産 女子青年學校に於て水産を課する趣旨は、水産業に須要なる知識技能の修練と、水産業の國家的意義を體得せしむることを期してゐるのであるが、従來は適切なる教科書等もなく、専任教員も少かつた關係上、水産の教育は適切に行はれてゐなかつたが、此の度文部省より水産の要目が示されたのであるから、漁村の青年學校に於ては、之を研究して其の地方に於ける漁業の態様、經濟更生計畫、並に其の學校に於ける教授及訓練の多少等を鑑み適切なる実施要目を作成して、之を授くるやうに努められたい。

併せて尙申したいことは、我が國の漁村の實情は、女子は漁業を助くる傍ら、漁村の耕地を耕し農業を營んでゐるところが多いのである。即ち殆んど男子の手を借らずに農業をしてゐるのであるから、漁村青年學校の女子には水産を授くるの外農業を授くることの適切なる場合が少くない。かかる場合には、水産及農業の要目中より適切なる事項を選んで其の職業科實施要目を選んで之を授くるやうに致されたい。

2 水産の要目 この度文部省より他の職業科の要目と共に水産の要目が示されたが、この要目は青年學校に農業、商業、工業等を課すると同様の趣旨にて制定されたものである。次にこの要目の活用上に關して二三の注意を述べてを見ようと思ふが、要目と對照して之を研究せられたい。



普通科の要目は、水産業の基礎的事項を選んで示されたのであるから、妄りに之を省略することなきやうに致されたいが、其の地方の水産業の情況、教授及訓練の多少等によつては教材の内容に精粗の斟酌を加へて、適宜に之を授くることは無論望ましいことであるから、次に示したる要目の實施上の注意に於ても、之を注意されてゐるのである。

本科の要目は、漁業は農業と同じやうに、地方に依つて同一でないから、便宜海洋、漁業氣象、水産生物、漁船、漁撈、増殖、製造、漁村等に区分し、女子の水産教育上必要と認めらるる事項を選択したのである。故に地方の水産青年學校に於ては、其の地方に於ける漁業の態様漁村經濟更生計畫並に其の學校に於ける教授及訓練時數の多少等に依り、示されたる要目中より適宜必要なる事項を選び、適宜なる實施要目を作成し、地方水産業の改善を主眼とし、努めて生徒の體驗に基き實驗實習を重んじて之を授くるやうに致されたい。

次に要目を示すにつき、以上述べたることと對照して之を研究せられるやうに望む次第である。

**水 産**

- 一 本要目は我が國の水産業に須要なる知識の修得と實務の練達とを主眼とし水産業の國家的意義を體得せしむることを期したり
- 二 普通科に在りては水産業の基礎的事項を選び本科に在りては水産業經營の實際に須要なる事項

を選択することに力めたり

- 三 普通科の教材は男子に在りては百二十時女子に在りては四十時を豫定して分量を定め本科の教材は教授及訓練時數を豫定せず水産業の各部門に就き重要なる事項を擧げたり
- 四 教材の排列は青年學校の實情に鑑み普通科に於てのみ之を行ひ本科に於ては之を行はず便宜海洋・漁業氣象・水産生物・漁船・航海・運用・漁撈・増殖・製造・漁村等に区分して之を示したり
- 五 本要目に準據して實施要目を作成すべし尙實施要目作成の参考に資せんが爲沿岸漁業を主とする場合及遠洋漁業を主とする場合の本科男子五年制の要目を例示せり

**普通科(男子)(略す)**

**普通科(女子)**

題 目	時 數	要 項	備 考
一 我等の水産業	二	水産業の概要 水産業の尊さ	
二 氣象と漁業	二	氣象と漁業 氣象と海洋 天氣豫報・暴風警報	一 其の地方の天氣の特徴をも知らしむること

三 浮游生物	二 食餌としての浮游生物	一 水中生産の根源なることを知らしむること
四 水産動物	六 種類 習性 棲息場・食餌・蕃殖・其 の他	一 各類中重要なもののみを授くること
五 水産植物	二 種類 形態	一 各類中重要なもののみを授くること
六 漁撈	六 蕃殖・適地 漁業の種類 漁具 漁船	一 編網等の實習をなさしむること
七 水産増殖	四 蕃殖保護 魚介・藻類の養殖	一 蕃殖保護に就ては漁業取締の趣旨を明かに すること
八 水産製造	一〇 腐敗と貯藏 製造法	一 主なる水産製造品を知らしむること
九 水産物の販賣	二 販賣方法 販賣路	

一〇 我が町村の水産業	二 沿革 現況	
一一 我等の漁村	二 漁村生活の現状 漁村の更生	一 漁村の更生には特に女子の力に俟つところ 多きを知らしむること

本科 (男子) (略す)  
本科 (女子)

一 我が町村の海	潮汐 潮流 海流	要項	備考
二 海況と漁況	水族の分布 (水平・垂直) 魚類の洄游・移動 漁況の變化		
三 水産動物	形態 食餌 産卵		

四 水産植物

成長  
棲息場

移動

形態

分布

蕃殖

日本附近の低氣壓

颶風近接の兆候

天氣豫報

大いさ

日本型漁船

發動機

漁具各部の名稱

漁具の保存法

漁法

漁場

漁期

一其の地方の主なる漁業に就き知らしむること

七 漁撈

五 氣象

六 漁船

八 水産増殖

漁獲物の處理

増殖の必要

増殖の方法

事業の種類

原料の種類

原料の成分

製造法の種類

調理・處理

乾燥

保存

調理

鹽藏

保存

調理

煮熟

骨拔・繕ひ

焙乾

一其の地方の主なるもの及將來有望なるものに就き知らしむること

一櫻乾に就ても知らしむること

一鹽辛に就ても知らしむること

九 水産製造

一〇 乾製品

一一 鹽藏品

一二 節類

一三 佃煮

一四 煉製品

一五 罐詰

肉詰 脱氣 密封 殺菌 外裝 貯藏庫 氷藏 冷蔵 原料 採油 精製 用途 重要成分 製造法 漁業制度の概要 漁業組合

一九 漁業制度

一八 肥料・魚糧

一七 魚油

一六 低溫貯藏

第二章 各科目の教授及訓練要目

一 修身及公民科との關聯に留意すること

二〇 漁場

獎勵施設

漁場の協同利用

漁場の愛護

漁村の使命

漁村更生計畫

漁村婦人の任務

一 蕃殖保護・漁業取締にも説き及ぼすこと

二一 漁村

(例の二) (男子) 略す

實施上の注意

- 一 本要目の實施に當りては修身及公民科と聯絡を保ち水産業を通じて徳性を涵養することに力むべし
- 二 本要目中普通科の教授は妄に之を省略することなく地方水産業の情況・教授及訓練時數の多少等に依り精粗其の取扱を適切ならしむべし
- 三 本科の教授は其の地方に於ける漁業の態様・經濟更生計畫並に其の學校に於ける教授及訓練時數の多少等に依り男女夫々本要目中より適宜必要なるものを選び適切なる實施要目を作成すべし
- 四 研究科及専修科に在りては本科の要目に準じて適切に實施要目を定めしむべし
- 五 常に生徒の體驗に基き實際生活に即して教授及訓練を施し進んで地方水産業の改善に基き考究せしむるやう力むべし
- 六 本要目の實施に當りては町村役場・産業・團體水産業者等との聯絡を密にし指導の適切を期すべし
- 七 教授及訓練に當りては特に實驗實習を重んじ研究的態度を樹立せしむることに力むべし

四 體 操 科

體操科教授及訓練要目

體操科要目も前要目同様、文部省に於て調査委員會を設けて得られた成案に基き、修身及公民科の要目と同時に公布せられたものである。其の中に就き女子の要目を示さう。

- 一 體操科の教材は青年學校の特質に鑑み簡明にして運動量多く興味深き種目を選び且運動の分類を簡單にせり
- 二 體操科の教材は青年學校規程第八條の時數に準據し主として基本的なるものを選択したり故に教授及訓練時數多き場合に在りては之を反覆練習せしむるものとす
- 三 體操科の教材は男子には鍛鍊的種目を女子には保健整容的種目を多く配當し以て男女の特質を發揮せしむるに力めたり
- 四 體操の教材は生徒の職業等による固癖を矯正する必要上多く伸展運動を採擇せり
- 五 青年學校生徒の境遇に鑑み各年の教材中より夫々一聯の體操を組立て以て日常生活の中に實行を容易ならしめんことを期せり
- 六 教練は團體訓練に必要な基本的教材を選び主として正確敏捷なる動作を修練せしめんとす
- 七 競技の教材は走・跳・投の中より適當なるものを選び兼ねて運動能力検査に資せしめんとす

八 遊戯は主として我が國在來の運動種目中體育的效果大にして青年の志氣を鼓舞するに足るもの  
を採擇するに力めたり

九 唱歌遊戯及行進遊戯は教育的にして興味深く且個人的にも團體的にも行ひ得るものを選択せり

普通科 (女子)

體操 (其ノ一)

下 肢	頸	上 肢	第 一 年	第 二 年
臂脚前後舉振 臂側舉振屈膝舉股 臂前(側)舉振舉踵屈膝	頭前後(側)屈 頭側轉 頭廻旋	臂前上舉振 臂側斜上舉振 臂前舉側開 臂前後廻旋	手腰開脚 手腰開脚 手腰開脚	臂脚前後舉振 臂斜上舉振屈膝舉股 臂前上舉振舉踵屈膝 頭前後(側)屈 頭側轉 頭廻旋
		臂前上舉振 臂側斜上舉振 臂前舉上伸 臂前舉側開上舉振 臂前後廻旋	手腰開脚 手腰開脚 手腰開脚	

胸	懸 垂	體 側	腹 及 背	走及歩
臂斜上舉胸後屈 臂側斜上舉振胸後屈	懸垂臂屈伸跳 懸垂跳上 懸垂 後下 前廻下	片臂側開體側轉 臂前舉片臂側開體側轉 片臂上舉體側屈 臂側片臂上舉體側屈	臂上舉體後屈 臂上舉體前後屈 體前屈前倒臂側開 體廻旋	正常歩(走) 急歩(走)
臂上舉胸後屈 足側出臂斜上舉胸後屈	懸垂跳上 懸垂 懸垂移行	足側出片臂側開體側轉 足側出臂前舉片臂側開體側轉 足側出片臂上舉體側屈 足側出臂側片臂上舉體側屈	臂上舉體前後屈 臂後廻旋體前後屈 體前屈前倒臂上舉振 體廻旋	正常歩(走) 急歩(走)
開脚 開脚		開脚 開脚 開脚 開脚	開脚 開脚 開脚 開脚 手腰開脚	開脚 開脚 開脚 開脚

體操 (其ノ二)		跳	躍	呼吸
第一	第一	足側前出跳 屈膝舉股跳 兩腳跳 跳越 跳上下		臂上舉 臂斜上舉胸後反
第二	第二	足側前出跳 屈膝舉股跳 臂前上(側上)舉兩腳跳 跳越 臂立跳上下 臂立側跳越		臂上舉 臂上舉胸後反
第一	第一			一 臂側舉振屈膝舉股 二 臂脚前後舉振 三 頭前後屈側轉 四 頭廻旋 五 臂前舉側閉 六 臂前後廻旋 七 臂斜上舉胸後屈
第二	第二			一 臂斜上舉振屈膝舉股 二 臂脚前後舉振 三 頭前後屈側轉 四 頭廻旋 五 臂前舉側閉上舉振 六 臂前後廻旋 七 足側出臂斜上舉胸後屈
第一	第一			一 臂前舉片臂側閉體側轉 二 臂前舉振舉踵屈膝 三 片臂側閉上側轉 四 片臂上舉體側屈 五 臂上舉體前後屈 六 體廻旋 七 臂前舉振舉踵屈膝 八 體前屈前倒臂側閉 九 足側前出跳 一〇 臂前前後舉振
第二	第二			一 足側出臂前舉片臂側閉體側轉 二 足側出臂側片臂上舉體側屈 三 臂前舉振舉踵屈膝 四 足側出片臂側閉體側轉 五 足側出片臂上舉體側屈 六 臂後廻旋體前後屈 七 臂體廻旋 八 臂前上舉振舉踵屈膝 九 體前屈前倒臂上舉振 一〇 足側出屈膝舉股跳 一一 臂前上舉振舉踵屈膝 一二 臂前舉側閉 一三 臂斜上舉胸後反

體操		跳	躍	呼吸
第一	第一	足側前出跳 屈膝舉股跳 兩腳跳 跳越 跳上下		臂上舉 臂斜上舉胸後反
第二	第二	足側前出跳 屈膝舉股跳 臂前上(側上)舉兩腳跳 跳越 臂立跳上下 臂立側跳越		臂上舉 臂上舉胸後反
第一	第一			一 臂側舉片臂側閉體側轉 二 臂前舉振舉踵屈膝 三 片臂側閉上側轉 四 片臂上舉體側屈 五 臂上舉體前後屈 六 體廻旋 七 臂前舉振舉踵屈膝 八 體前屈前倒臂側閉 九 足側前出跳 一〇 臂前前後舉振
第二	第二			一 足側出臂前舉片臂側閉體側轉 二 足側出臂側片臂上舉體側屈 三 臂前舉振舉踵屈膝 四 足側出片臂側閉體側轉 五 足側出片臂上舉體側屈 六 臂後廻旋體前後屈 七 臂體廻旋 八 臂前上舉振舉踵屈膝 九 體前屈前倒臂上舉振 一〇 足側出屈膝舉股跳 一一 臂前上舉振舉踵屈膝 一二 臂前舉側閉 一三 臂斜上舉胸後反

戲遊進行及戲遊歌唱			種 各	技 球	投	跳
戲遊	行	習練本基				
花すみれ	蜜柑船 故郷の空	基本歩法 基本態勢 應用態勢	圓陣鬼 送球競争	圓形避球 搬球 簡易排球 簡易手球	手球投	走 高跳 繩跳
ゆりかご	胡蝶 月見草	基本歩法 基本態勢 應用態勢	轉球競争 投順送球	圓形避球 搬球 排球 簡易手球	手球投	走 高跳 繩跳

走	競技及遊戯	教 練	
		第 一 年	第 二 年
百米疾走 置換競争		集合及解散 番號 整頓 右(左)(後)向 半右(左)向 縱隊行進 駢步 止レ 足踏 伍伍右(左) 連歩間右(左)(後)向	集合及解散 番號 整頓 右(左)(後)向 半右(左)向 縱隊行進 駢步 止レ 足踏 伍伍右(左) 連歩間右(左)(後)向 橫隊行進 方向ヲ換へ 駢歩間右(左)(後)向 駢歩ヨリ連歩



本科 (女子三年制)

體操 (其ノ一)

胸	肢上	頸	肢下	第一	第二	第三
足後出臂斜上舉胸後屈 足側出臂上舉胸後屈	臂前側上舉振 臂上舉上伸 臂前舉前屈側開 臂內外廻旋	頭前後(側)屈 頭側轉 頭廻旋	手腰開脚 手腰開脚 手腰開脚	臂前側前舉振 臂斜上舉振屈膝舉股 臂前上舉振舉踵屈膝 臂上舉上伸舉踵	屈膝臂前側前舉振 臂斜上舉振屈膝舉股 臂前上舉振舉踵屈膝 臂側斜上舉振舉踵屈膝	臂前側前舉振 臂前上舉振舉踵屈膝 臂側廻旋舉踵屈膝
足後出臂上舉胸後屈 足前出臂斜上舉胸後屈	臂前側上舉振 臂上舉上伸 臂前舉前屈側開上舉振 臂內外廻旋	頭前後(側)屈 頭側轉 頭廻旋	手腰開脚 手腰開脚 手腰開脚	臂前側前舉振 臂上舉上伸 臂前舉前屈側開上舉振 臂內外廻旋	足後出臂上舉胸後屈 足前出臂斜上舉胸後屈	足前出臂上舉胸後屈
足後出臂斜上舉胸後屈 足側出臂上舉胸後屈	臂前側上舉振 臂上舉上伸 臂前舉前屈側開上舉振 臂側廻旋	頭前後(側)屈 頭側轉 頭廻旋	手腰開脚 手腰開脚 手腰開脚	臂前側前舉振 臂上舉上伸 臂前舉前屈側開上舉振 臂側廻旋	足前出臂上舉胸後屈	足前出臂上舉胸後屈

跳	走及歩	背及腹	側體	垂懸
臂上脚後舉振跳 足側出屈膝舉股跳 臂前上舉兩脚跳 跳越	正常歩(走) 急歩(走)	足側出臂上舉體前後屈 臂後廻旋體前後屈 體前屈前倒臂上舉振 臂體廻旋	足側出片臂側開體側轉 足側出臂前舉片臂側開體側轉 足側出片臂上舉體側屈 足側出臂側片臂上舉體側屈	懸垂跳上 懸垂振 懸垂移行
脚前(後)伸跳 跳越 臂立跳上下	正常歩(走) 急歩(走)	足後出臂上舉體前後屈 臂上舉體斜前後屈 臂前後廻旋體前後屈 體前屈前倒臂上舉振 臂體廻旋	足側(前)出臂(前)舉片臂側開體側轉 足側出片臂上舉體側屈	
脚前(後)伸跳 跳越 臂立跳上下	正常歩(走) 急歩(走)	足前出臂上舉體前後屈 臂前後廻旋體前後屈 體前屈前倒臂上舉振 臂體廻旋	足側(前)出臂前舉片臂側開體側轉 足側出片臂上舉體側屈	

躍	立跳上下 臂立側(正面)跳越
呼	臂上舉 臂上舉胸後反
吸	臂上舉 臂上舉胸後反

體操 (其ノ二)

第一	第二	第三
一 臂前舉振舉踵屈膝 二 臂前側前舉振 三 頭前後屈—側轉 四 頭廻旋 五 臂前舉前屈側開 六 臂內外廻旋 七 足側出臂上舉胸後屈 八 足側出臂前舉片臂側開體側轉 九 足側出臂側片臂上舉體側屈 二 臂斜上舉振屈膝舉股	一 臂前舉振舉踵屈膝 二 臂前側前舉振 三 頭前後屈—側轉 四 頭廻旋 五 臂前舉前屈側開上舉振 六 臂內外廻旋 七 足側出臂上舉胸後屈 八 足側出臂前舉片臂側開體側轉 九 足側出臂側片臂上舉體側屈 二 臂斜上舉振屈膝舉股	一 臂前舉振舉踵屈膝 二 臂前側前舉振 三 頭前後屈—側轉 四 頭廻旋 五 臂前舉前屈側開上舉振 六 臂內外廻旋 七 足前出臂上舉胸後屈 八 足前出臂前舉片臂側開體側轉 九 足側出臂側片臂上舉體側屈 二 臂斜上舉振舉踵屈膝

教線

第一	第二	第三
三 足側出片臂側開體側轉 二 足側出片臂上舉體側屈 一 臂後廻旋體前後屈 二 臂體廻旋 三 臂上舉上伸舉踵屈 四 膝體前屈前倒臂上舉振 五 足側出屈膝舉股跳 六 臂前上舉振舉踵屈膝 七 臂上舉胸後反	二 足側出片臂側開體側轉 三 足側出片臂上舉體側屈 一 臂前後廻旋體前後屈 二 臂體延旋 三 臂前上舉振舉踵屈膝 四 體前屈前倒臂上舉振 五 脚前—後伸跳 六 臂前側前舉振 七 臂上舉胸後反	三 足側出片臂側開體側轉 二 足側出片臂上舉體側屈 一 臂前後廻旋體前後屈 二 臂體廻旋 三 臂前上舉振舉踵屈膝 四 體前屈前倒臂上舉振 五 脚前—後伸跳 六 臂前側前舉振 七 臂上舉胸後反

第一	第二	第三
氣ヲ著ケ 休メ 集合及解散 番號 整頓 右(左)(後)向 半右(左)向	氣ヲ著ケ 休メ 集合及解散 番號 整頓 右(左)(後)向 半右(左)向	氣ヲ著ケ 休メ 集合及解散 番號 整頓 右(左)(後)向 半右(左)向

練	第一 年	縱隊行進 駢步 止レ 足踏 伍伍右(左) 速歩間右(左)(後)向 横隊行進 方向ヲ換へ 駢歩間右(左)(後)向 駢歩ヨリ速歩
	第二 年	縱隊行進 駢步 止レ 足踏 伍伍右(左) 速歩間右(左)(後)向 横隊行進 方向ヲ換へ 駢歩間右(左)(後)向 駢歩ヨリ速歩
	第三 年	縱隊行進 駢步 止レ 足踏 伍伍右(左) 速歩間右(左)(後)向 横隊行進 方向ヲ換へ 駢歩間右(左)(後)向 駢歩ヨリ速歩

競技及遊戯

跳	第一 年	三回跳 細跳
	第二 年	三段跳
	第三 年	
走	第一 年	百米疾走 置換競争
	第二 年	百米疾走 置換競争 競歩
	第三 年	百米疾走 置換競争 競歩

投	球	技	各 種	戲遊進行及戲遊歌唱		
				戲遊進行	戲遊歌唱	習練本基
				田毎の月	日の御旗	基本歩法 基本態勢 應用態勢
手球投	手球	圓形避球 撥球 簡易排球	追羽根 圓陣鬼	基本歩法 基本態勢 應用態勢	基本歩法 基本態勢 應用態勢	基本歩法 基本態勢 應用態勢
				順送球 送球競争	圓形避球 簡易手球 排球	手球投
				轉球競争 投順送球	方形避球 手球 排球	手球投
手球投	手球	排球	轉球競争 投順送球	基本歩法 基本態勢 應用態勢	基本歩法 基本態勢 應用態勢	基本歩法 基本態勢 應用態勢
				菊	なぎさ	ひなげし
				寧樂の都		

實施上の注意

體操科の教授及訓練は克く生徒の身體及精神の情況に應じて適切なる指導を爲すと共に生徒に體育運動の必要を自覺せしめ不斷に之を行ふ習慣を養ふことに力むべし

第二章 各科目の教授及訓練要目

- 二 體操科の教●及訓練は徒に技術の末に走ることなく體育上の効果を多からしむると共に精神的修練に留意すべし
- 三 體操科の體操・教練・競技及遊戯は各特長を有し互に相倚りて體操科の目的を達成するものなるを以て其の一部に偏せざるやう留意すべし
- 四 職業に因る身體の固癖は其の職業の種類に依りて異なるものあるべきを以て體操教授中より特に其の固癖の矯正に適切なるものを選び一般的修練に附加して課することに力むべし
- 五 體操科の教●及訓練は之を屋外に於て實施するを本體となすも屋内に於て行ふ場合にありては採光換氣に留意すると共に努めて清潔を保たしむべし
- 六 一聯の體操は機會ある毎に努めて之を實施し生徒をして習熟せしむると共に日常生活の中に於ても自ら行ふやう導くべし
- 七 男子の體操に在りては其の鍛練的效果を高むる爲屢數箇の體操器械等を組合はせ綜合的障礙競争を行はしむべし
- 八 競技及遊戯の指導は準備運動より始め整理運動を以て終るやう體育的に實施すべし
- 九 唱歌遊戯及行進遊戯は基本練習に重きを置き且歌曲の理解と相俟ち反覆練習して其の効果を擧ぐるやう留意すべし
- 十 女子に就ては其の心身の特性に鑑み指導の方法を適切にし且容儀に留意すべし
- 十一 各年に配當したる教●の外に保健的體操中より適當なるものを選びて正課時間内に課するを妨げず
- 十二 本要目に掲げたる教●の外土地の情況に應じて男子に在りては劍道・柔道・弓道・水泳等女子に在りては弓道・薙刀・水泳等適當なる運動を適宜課することを得るものとす

- 十三 體操科の教授及訓練は克く土地の情況・季節・天候・設備等を考慮して之を適切ならしむべし
- 十四 器械器具を使用する運動に在りては特に傷害豫防に留意すべし
- 十五 本科女子に於ける教授及訓練期間を二年と爲したる場合に在りては本要目中本科女子第一年及第二年の教材を以て之に充當すべし

## 2 體操科教授訓練及要目取扱上の注意

本要目の調査委員の一人であつた栗本文部省體育官が、本要目取扱上の注意に就て「青年と教育」誌上に發表されたものがあるから左に要點を摘録して參考とする。

本要目調査員が本要目制定に當り、特に體操科指導上一般中等學校等と異なる條件を擧げたものが次の通りで、之が又青年學校の特殊性とも云ふことになる。

一、指導の對象たる青年學校生徒の大部分は職業を有ち生業に従事してゐる者である關係から、其の職業の内容に依つては、身體を過勞に陥れるやうな過激な勞働もあれば身體の一部を特に使用して遍頗なる發達を遂げたるものもあれば、坐業等の如く、身體を使ふこと尠く、運動不足に陥りつゝあるもの等もあつて、身體的條件に著しく差異があること。

二、一定の成績や、詮衡に依つて、或は身體的に、精神的に一定の標準に依つて入學せしめる中等學校等とは違つて、大衆青少年を力めて入學せしめる青年學校では、身體の發育狀況に於て、既に相

當差のあることは言ふまでもなく、又、精神的成長の程度に於ても、相當隔りあるものを、一樣に包含してゐることをも豫定せねばならぬこと。

三、體操教授の實施に當り、地方の狀況に依り、又、生徒數の如何によつては、數個學年を一緒にしたり、普通科、本科を同時に行つたり、男女合同等の合併授業が實施されたりすることも考慮せねばならぬこと。

四、教育する時季や、時間が地方の狀況に依り、夜間教授、晝間教授とか、農閑期等とか全體時數については規定されてゐるも、其の點は區々であり、又、學校の性質上、轉、入學の自由に取扱はれることなども考慮すること。

五、指導者は、現状に於ては、特別に體育を専門的に指導する者が僅少にして、寧ろ他學科と共に小學校教員、又は教練指導員が兼務で指導に當る場合が多いこと。

六、青年學校として、独自の體育施設を有する學校尠く、他の營造物、備品等を利用し殊に小學校の設備たる機械、器具、場所等を使用してゐる現況たること。

七、發育旺盛にして、活動慾に燃え、競争本能の強い此の期の青少年に對し、單に體育的效果より見ることなく、其の欲求を満足せしめると共に、健全なる趣味、娛樂乃至は慰安と云ふ意味も或程度まで考慮すべきこと。

八、青年の自尊心を傷けることなく、自負心を増す爲、一般中等學校と比肩し得る如き教材を取扱ふこと。

以上が青年學校體操科教授及訓練要目を作製制定するに當り、一般中等學校等と比較して特に考慮を拂はねばならぬ青年學校の特殊性の中の重要な點であつて、之を基礎條件として、九條に亘る體操科教授及訓練の選擇の方針に就いての原則が採擇されたのである。

一、體操科の教材は青年學校の特質に鑑み、簡易明瞭に、運動量多く、興味深き種目を選び、且つ運動の分類を簡單にせり。

青年學校の體操指導上に於て、特に考慮すべき性質に就いては前述した通りであるが、其等の事情に鑑み、特に教材は簡明なるものを選ばねばなるまい。簡明とは、簡單にして直截明瞭であつて、はつきりしてゐると言ふ意味である。即ち、その動作にしても、號令にしても、又、競技、遊戲等の審判規則等にしても、簡單明瞭にして、習熟に餘り長時間を要せず、手つ取り早く實施し得るもので、後から入つて來たものも、上手は上手で、下手は下手ながらに夫々興味をもつて一緒にやれ、而も準備等にしてもそれ程大袈裟な準備をしたり、用意の爲には時間を要したりすることなく、其の場で簡單に、寧ろ準備なくして實施出来ると言ふやうな教材が必要である。それから、運動量が多いと云ふことは、此の期の青少年には絶對的必要な條件でなくてはならぬ。随つて技巧的な、そして技術本位

なものや、部分的の教材よりも、活動的なそして全身的綜合的運動を多くし、潑刺たる青年の活動慾を十分に満足せしめる教材を多くし、その取扱の上に於ても、技術の巧拙よりも寧ろ身體の鍛鍊に力を注がねばなるまい。運動量が多いと云ふことは、一面興味を興へると云ふことにもなるが、此の興味と云ふことは實に大切なことである。興味あるから面白く自づと運動に親しみ、その結果として體育の効果も上るのである。殊に青年學校の特質に鑑み緊張とか感激とか喜悅とかいふことは極めて大切なことで興味ある教材を多く取扱ふ必要のあることは論ずるまでもなく、水を飲ませるには本當に咽喉が渴いてゐねばならぬことが條件であるが、眞に飲ませるには渴いてゐる者に眞に渴を醫すだけの清涼な水がなければならぬと思ふ。次に興味を持たせると同時に此の期の青年には自尊心を認める必要が相當にあるのではあるまいか、従つて教材の範圍を高等小學校に採るよりも、寧ろ女學校なり中學校の初學年の教材を夫々持つて來た方が適切ではないか。斯く考へて、さうした方面から教材を多く擇んだのであつた、而して青年學校の特質に鑑みて運動の分類を簡明にし、運動の種類を精選した次第である。殊に今迄の中學校、女學校等の體操と多少分類を異にした點を申せば、平均運動が省略されたことである。之は短い時間中に相當の準備を要するからである。寧ろ下肢の運動や其の他の運動に結合して實施せしめる程度に止め平均運動と云ふ一項を擧げないことにしたのである。それから「腹の運動」と「背の運動」を一つの項とし、之を「腹及背の運動」と簡單に、「跳躍」と

「倒立及轉廻」を一類として「跳躍、倒立及轉廻」となし、そして教材の精選を期した次第である。「體操科の教材は青年學校規程第八條の時數に準據し主として基本的なるものを選択したり故に教授及訓練時數多き場合に在りては之を反覆練習せしむるものとす」

青年學校規程第八條の各教授及訓練時數の規定するところに従へば體操科は男子普通科各年四十四時、女子普通科並本科は各年共三十時を以て最低限度と示されてゐるが、教材の學年配當の分量と範圍を決定する爲、此の規定時數を基礎として其の時間中で必ず實施せしむるに適當なる教材内容を掲げたわけである。而し乍ら男子に於ては大體五十時間から六十時間位を實施してゐる學校多く、女子に於ても四十時間は一般に課してゐるやうであるが、そんな場合は配當された基本的な之等の教材を充分に反覆練習し、更に高い要求を掲げて深さを増し應用的なものにまで導いてゆくと云ふ考へ方である。

又土地の情況等に依りては男子に劍道・柔道・弓道・水泳・スキー・スケート等を加へ、女子には弓道・薙刀・水泳・スキー・スケート等も適當な指導者があり、設備があり以て教育的に實施が出来る場合は、正課中に指導することも差支なく、尙其の他に保健的體操たるラヂオ體操、建國體操、男女青年體操等の如きものを正課の時間中に取扱ふことも妨げないといふやうに、青年學校の特質に則し、教材採用の範圍を可なり廣く考へてゐるのであつて、此のことは制定の方針に明示されてはゐな

いが、要目實施上の注意中の十一、十二がそれである。

十一 各年に配當したる教材の外に保健的體操中より適當なるものを選びて正課時間内に課するを妨げず

十二 要目に掲げたる教材の外土地の情況に應じ男子に在りては劍道柔道弓道水泳等適當な運動を適宜課することを  
を得るものとす

二 體操科の教材は男子には鍛鍊的種目、女子には保健整容的種目を多く配當し、以て男女の特質を發揮せしむることに力めたり

かく男女の特質を考慮し、其の教材の配當に、又は教材の取扱ひの上に工夫を凝す必要のあることは言ふまでもなく、先年改正を見たる學校體操教授要目に於ても、此の點に就いては明瞭に指示せられてゐる。

青年學校教授及訓練科目要旨の第三項に、特に青年學校に於ては「鍛鍊を旨とし鞏固なる意志と強健なる身體とを育成すべし」と心身の鍛鍊を強調せられてゐるのであつて、殊に男子にあつては、身體を鍛鍊し、之を強壯ならしめると共に耐久力を養ひ、氣力、氣魄等の精神力を涵養するところに重點を置いて教材を考へねばならぬのである。此の點から體操の教材中、跳躍、懸垂等を、比較的多く採擇せられたるは勿論、實施上の注意の七項に「男子の體操に在りては其の鍛鍊的效果を高むる爲屢々數箇の體操器械を組合せ、綜合的障礙競争を行はしむべし」とあるやうに、一通り體操を實施したる後は、其の時間中に取扱はれた器械器具を使用して、跳躍・懸垂・競走・轉廻等の運動を綜合した

る障礙競争を加へて、鍛鍊的に導くことになつてゐるのである。競技の教材中にも「千米走」と言ふ相當持久力を必要とする教材をあげ、速力は兎も角として、青年學校の生徒の總てをして千米を駆けさすやうになつてゐるのである。千米の距離を課すならば、寧ろ千五百米を加ふる方が可ならんとの意見もあるが、オリンピックシステムの種目に依らず、スパイク等を用ふることなく、運動靴で、又は裸足で總ての生徒に千米を要求してゐる所に青年學校の種目としての特徴を考へてゐるのである。運搬競争の内容には人運び、俵差し、力試し等を加へ、球技の攻撃球手球を始め其他棒押棒引相撲等も敢へて技巧を要することなく、運動量の多い鍛鍊的な教材であることは言ふまでもない。

女子の教材は、男子の如く強き筋力等を要求するよりも、寧ろ保健、整容等を目標として、抵抗力のある一時的の力は無くとも、總和的には粘り強い、強靱な體質の均齊のとれた整つた身體を作るには適當したる教材を採擇することが當然である。そこで、女子に適したる教材として、唱歌遊戲、行進遊戲を重要視し、跳躍の如きも徒らに高い跳臺を使用して、ドタン／＼跳ばせたりするよりも、寧ろ低い跳箱を輕快に優美に、そして律動的に數多く跳ばせることを原則とし、尙徒手の跳躍の如き、之をリズム的に、或は音楽に合せ或はポーズの美しさを考慮して動作せしめる必要がある。競技、遊戲等にありても女子は男子の如く思ひ切つた速さとか力を要求するよりも、動作に優美さと氣品とを加味し、殊に青年學校の實情から考へて、服裝等にも充分の顧慮を拂つて教材の制定に當つた次第で

ある。

### 三 體操科の教材は生徒の職業等に因る固癖を矯正する必要上、多く伸展運動を採擇せり

體操はそれ自體矯正的要素を多分に有つてゐるものである。特に青年學校生徒の身體情況を考慮して、矯正的教材を多く取り入れたのである。即ち勤勞に従事してゐる青年學校生徒は、その職業や生活環境等に依つて身體に少なからざる固癖があり、又偏頗な發育を遂げてゐるもので程度の差こそあれこの癖を持つてゐるものが相當に多いのである。例へば、樽を造る職人達は殆んど一様に膝が曲つてゐる。之は坐り込んで膝を曲げた儘で仕事をしてゐるから、自然にそうした癖が生じたわけである。背を圓くして生業をやつてゐる者には猫背と云つて、ひどく背の前屈したのもや、頸が前に出た者が多く、婦人等で不良姿勢で裁縫編物等を行ふ方にも、背の圓くなつた、頸の前傾した癖の出來てゐる者が多いのである。重い荷物を擔ふ者の中には、左右の肩に高低の差があつたり、強い筋肉勞働を爲す者で兎角不整な身體發達を遂げた者が多く、又所謂關節が硬いとか、骨が固いなど、一般に稱せられる關節の運動域の妙いものや、關節の充分伸び切らない者が、青年學校生徒の中に相當に多いのであつて、之等を矯正し發育不良の筋肉に刺戟を加へる爲、伸展運動を多く取扱ひ、即ち屈筋を伸長し、伸筋を拮抗せしめ胸後屈の運動を多くしたる運動、即ち體の後屈、體の側屈、體の捻轉運動等はその代表的な教材である。もとより職業に依る身體の固癖は其の職業の種類に依つて自ら異なることは、前

述の通りであるから、體操教材より特に生徒の固癖の矯正に適切なるものを選び、之を一般的修練に、更に附加して課することに努むべきである。

教材選擇の五は、青年學校生徒の境遇に鑑み、各年の教材中より夫々一聯の體操を組立て、以て日常生活の中に實行を容易ならしめんことを期したることである。元來青年學校の生徒は勤勞青年であつて、自己の教養を高め、その健康を増進せんが爲、寸暇を惜しみ寸蔭を盗んで通學するものが大部分である。然も青年學校に於ける正規の教授及訓練時數は僅少にして、之を以てして彼等の身體を強壯にせんとすることは、それ程期待出來ぬことで、寧ろ正課に一つの智識とし、或は簡單な要領なり方法なりを會得せしめ、之を如何に家庭に於て行ふべきかを授け置き、彼等が日常生活の中に、或は勞働に従事してゐる時に於て、或は作業の合間々々の時間を利用するとか、或は起床時、就寢前とか、或は又風呂から上つた時とかに、絶えず、容易に實行すると云ふことによつて、その効果の一層擧るものである。一聯の體操は、其の目的を課する爲各年に配置された個々の教材中より代表的教材を取り出して組合せ、排列の順序を指導の階級に従ひて、一聯の體操として組立てたものである。而して、之が指導は個々の運動を取扱ふ際に、併用して考へてもよく、又個々の教材の指導に於て一通り練習の済んだ時に、纏めて一聯の體操のみをやるといふ方法でも何でも宜しいのである。例へばラヂオ體操や、建國體操を覚えさせるやうに、學校を卒へる毎に、其の學年に配當された一聯の體操が生徒に



習得されると云ふことになるのである。尙、合併等の教授及訓練の場合、例へば一・二年一緒にして取扱はれるやうな場合は、一年の教材を最初の一年に取扱ひ、二年目には二年の教材を適宜指導するといふことになつても宜しいのである。

教練教材は、團體訓練に必要な基本的教材を選び、主として正確敏捷なる動作を修練せしめると云ふことが、教練の教材採擇の方針である。時間數の尠い關係もあるが、教材の範圍を比較的狭くし團體的、部隊的行動をなすに必要な基礎的基本動作たる各個教練の教材を徹底せしめ、正確に、而も敏捷に之が日常生活に於ても全く自己のものとして、自然に節動ある動作の出来ることを期待してゐるのである。不充分や未熟の程度に於て徒らに間口を廣くするよりも、基本的なものを精選して、之をしつかり物にして日常生活の中に活し、男子にありては本科に進級して、其の基本的なものが早速役立ち、高い程度の教練教材もその基礎の上に打ち立てるやうにせねばならないのである。最近に於て、男子の本科の教練に對しても、軍部の一般的意向は必ずしも専門的な智識や、六ヶ難しい技術の修練を要求するよりも、癖のない、抵抗力の強い強靱な身體と、それに勇氣果敢の精神力や氣力の旺盛なる、而も純眞な青年を要求せられるやうである。普通科及女子の體操科中の教練は、かゝる意味に於て、教材は簡單容易なものを徹底的に實施せしめると共に其の精神的態度の養成に重きを置いた次第である。

競技教材に於て「競技の教材は、走、跳、投の中より適當なるものを選び、兼ねて運動能力検査に資せしめんとす」運動能力検査が明記せられてゐる事は、注目に値する處である。即ち、運動能力検査とは、走・跳・投・懸垂等、その他の運動に依り運動の速度、力、正確度、持久性、敏捷性、巧緻性等の運動能力を試験して、一定の標準に照合して、其の結果、自己の持つ運動能力の程度を認識すると共に、練習に依る進歩發達の過程を反省することが出来、其處に深い興味を興へると共に、進んでは運動の實施上に、重要な一つの指針を興へることになるもので、斯種の検査は眞に必要なことである。

斯る目的のもとに、將來全國青年學校に競技検査等を実施する場合、直ちに之を應用出来ることを豫想して、此の度の競技教材を選擇したのである。

即ち、男子の教材中、百米競走を以て、走技中の短距離代表のものとし、千米を以て中距離長距離走と一緒にして持久走の代表的種目のものとなし、跳躍に於ては、跳走幅、走高跳、三段跳を擧げ、投の代表として砲丸投を取り入れたのである。

女子では普通科及本科を通じて百米疾走、置換競争、走幅跳、走高跳、三段跳を以て走跳の代表的なものとして擧げ、投には手球投を以て代表せしめたのである。

青年學校に於ては練習時間が僅少である關係上、一聯の體操に於て述べた如く競投検査等の如く正

課時以外に實施の出来る運動とを合せて之を考へ、正課時に於ける指導は其の運動の方法なり要領なりを指導すると共に、當時の練習の結果を驗す機會に充てる様になし日常機會ある毎に競投検査の種目について興味をもつて練習せしめんとするのである。

遊戯の教材は我が國に於て在來行はれてゐた運動種目の中から體育的效果の大なるものを選び出し男子では特に青年の志氣を鼓舞するやうな教材を多く選擇したのである。從來學校體操教授要目中に取扱はれてゐた教材の外に、更に我が國在來の運動種目の中で現に全國各地方に實際に行はれてゐる運動の種目の中一般青年に興味を有たれたもので體育的效果大にして又教育的効果の多いものを遊戯教材中に相當多く選擇したものである。例へば攻城球、俵運び、俵差し、重荷擧げ、棒押、棒引き、相撲等、全國各地方共一般に青年が行つてゐた運動種目であつて、女子に於ても其の數は多くはないが、繩跳、追羽根等の教材を加へたのである。

球技では餘り種目多く多岐に亘る種目の中から精選を爲して、何か一つ纏つたものを中心教材として、最後に作り上げたい考へのもとに、男子には手球（ハンドボール）を選び、女子では排球（ヴァレーボール）をその主要球技として取扱つたわけである。

唱歌遊戯及行進遊戯は、教育的にして興味深く且つ個人的にも團體的にも行ひ得るといふ點を考慮して選擇したのである。此處に教育的と言ふのは、運動に依り身體を修練し又矯正運動等を施して之

を強壯に導く身體的陶冶の外に、特に女子に大切な意志や感情等の陶冶をも併せ考へたのである。單に運動量のこと許りでなく、歌詞歌曲は勿論、その動作の如きも高雅にして品位あり且つ一般女子青年の愛好する興味あるものでなくてはならぬのである、然るに往々にして此の年齢の女子には感傷的なものや卑俗的なものが、一般に喜ばれる一面の傾向のあるもので、而も之等の歌詞歌曲動作等が一つの氣分を作り、青年の生活態度にも影響するものである事を考へ、飽く迄眞面目な品格のある教材を採擇することに腐心した次第である。又青年學校の特質に鑑み、一人でも我は數人でも又は學年の異つた者の合併授業等に於ても、指導上敢て支障を來たさざるやうな條件も考慮に入れて採擇に當つたものである。採用の歌詞歌曲は、女學校並に高等小學校の教材とそれに青年學校唱歌の中から生徒の一般に愛唱される教材を選んだもので言ふまでも無く文部省認可済みのもの許りである。

以上は此度の青年學校體操科教授及訓練要目制定の方針の説明であり、同時に新材採擇の原則的條件を詳説した次第である。青年學校體操科の關係者はよく叙上の趣旨を了得せられ、新要旨の教材の研究演練をなすと共に、實施上の注意の十五ヶ條についても之を熟讀翫味せられ、以て本要旨の徹底を期し、總て社會の第一線に奮闘せんとする我が國勤勞男女青少年五百萬人の體育の爲に努力せられ廣義に於ける國防の充實と人的資源の擴充に努力せられんことを衷心より切望する次第である。

### 第三章 女子青年學校の教材取扱方

#### 第一節 其の學校各科目の教授及訓練要目並に 細目の作成

1 実施要目の作成 女子青年學校に於ける各科目の各教材は、青年學校の特質上、地方の事情を參酌し、將來の歸趨を考へ、各科目共に其の地方生活に適切なるものであり、且女子青年の生活に即したるものでなければならぬ。之が爲に文部省より示された要目に基き、地方實際の調査により、之を取捨して其の學校生徒の教育上適切なる教材を選択し、以て其の學校の實施要目を作成して置かねばならぬ。要目は一般の通弊として、文部省より示されたままのものであつたり、又は教科書本位になつたり、或は何處かの要目を其の儘採用したりして、其の地方的特色の織り込まれたるものが少なく、地方の實際生活に即せず、其の學校の要目としては當を缺くと云ふ嫌があるものがある。此の點深き注意を要する。

更に注意を要することは、青年學校は時間の少ない學校であるから、要目の分量が教授及訓練時數

に對して、過當ならざる様にすることである。教材選擇の實際に當つては、教師の熱心なる老婆心から、あれも必要これも捨てられぬと言つた風に、兎角教材は多くなり勝ちになるものである。であるから、其の教材の選擇に當つては、要目の中に採り入れるに足るべき其の地方的特色を織り込むに適切な内容を考慮し、且つ其の校の教授及訓練時數を顧みて、其の必要と認める教材中より、更に最も必要な事項を精選し、所定の時間中に充分研究せしめ得られるやうに要目を決定し作成しなければならぬ。

2 教授及訓練細目の作成 其の學校に於ける教授及訓練要目が出来上つたならば、次には教授及訓練細目を作成して置かねばならぬ。細目とは要目の内容を示すものであつて、更に教授及訓練の時期を定め、時數を配當し、他科目要目との連絡を明かにし、地方的特色を盛り込み、主力點を明示し、注意事項を掲げる等、一目して其の教材の教授及訓練上の方針を樹てることが出来れば作成されたものである。從來この細目は何處の學校でも調製されては居るが、申譯的のもので、實際の教授及訓練上大したる効果を擧ぐることの出来ない様なものゝ調製されて居る嫌がないでもなかつた。かくの如き細目であつては、何も貴重の時間と努力と苦心とを抛つて調製する迄の必要はないのである。教授及訓練が學校の重要な仕事で、細目は實に其の重要な仕事を豫定し指導する處の細案なのである。かかるが故に細目は學校の生命を表したものと云つてもよいと思ふのである。なぜならば學校に於ける

教授及訓練は、この細目によつて按配されて行くべきものであるからである。實に細目は國家經綸に於ける豫算にも比すべきものであつて、學校に於てはこの細目作成に對し、學校長は勿論のこと全校職員を擧げて、渾身の精神と努力とを捧げて之に當り、完璧を期さねばならないのである。かくして出来上つた細目であつてこそ、初めて教員としての職責を完うするに足る指針ともなることが出来よう。職を青年學校教育に奉ずる諸君は反省して頂きたいものである。

## 第二節 教科書

女子青年學校の教科書は坊間發賣のものが數種あり、一長一短がありて、今その何れがよしとも判定が出来ないが、地方の學校で之を採用する場合には、申すまでもなくそれ〴〵自校に適當と思はれるものを十分に調査して採用して居られるが、今後ともさうするより外に道はあるまいと思ふ。元來青年學校は、其の學校の特質上、教科書は自校にて編纂したものを使ふと言ふ風にすることが、最も其の理想に近きものであらう。併し一學校にて教科書を編むと言ふことは容易の業ではなく、言ふことは出来ても、實現することは、頗る至難の事であると言はねばならない。地方の青年學校研究會などでは、國定教科書の編纂を希望される向もあるやうであるが、義務教育となれば、修身及公民科は、國定とされる豫定であるけれども、當分普通學科の教科書と共に檢定制度によることにされ、

其の他の教科書は當分檢定を行はないことにされるとのことであるから、當分はそれら檢定を受けた坊間販賣の教科書等を使用するより外道はないと思ふのである。文部省よりは既に各科目の要目が發表されたのであるから、坊間販賣の教科書も多少内容の相違はあるにしても、其の要目的骨子は變らないことと思ふから、從來に比して多少選擇し易いことと思ふ。但し實際之を自校に採用する場合には、前にも述べた如くよく其の内容を調査して、我が町村の生活に恰當するもの、よし恰當と迄は行かなくとも、なるだけ、我が町村生活に近きもので、自校の教育方針に近きものを採擇する様にしなければならぬと思ふ。何時の場合に於ても青年學校は、其の地方の生活本位、青年本位に立脚點を据ゑなければならぬのであるから、この本據に外れることのなき様充分の注意が必要なのである。従つて教科書中不要の課があつたり箇所があつたりした場合、之を取捨するに吝であつてはならない。と同時に補足しなければならぬ材料のあつた場合、これを取り入れるに聊かの躊躇があつてもならぬのである。要するに其の所定の要目に基いて、取捨補足その宜しきを得、以て其の校教科書たるの本質を全ふさせることにして行かねばならぬ。然るにこれ迄の學校では、この點に關する注意が甚だ缺けて居つて、恰かも小學校の國定教科書に於けるが如く、教科書本位の取扱ひをした嫌があるのであるから、此の點に深き注意を拂つて貰ひたいものである。

### 第三節 教材の研究

#### 一 各科目の要目及細目にある注意に精通すること

教授及訓練に當つてはよくその教材を研究

し、教材の内容に精通しなければならぬが、之が爲には根本的には文部省より示された要目について研究し、特にその注意事項に精通することが大切である。即ち各科目要目の前に示された一般的注意事項は言ふ迄もなく、要目の後に示された注意事項及各要目中に含まれて居る注意事項に甚深の注意が要るのである。蓋し注意事項は要目の使命に死活の息吹きを與ふるものであるからである。例へば本科第一年の「我等の郷土」なる教材に於て、注意事項の一として「協同生活の實際的指導並に訓練に特に注意すること」としてあるのであるが、我等の郷土生活なるものは、協同生活、郷土愛、國家愛なるものを如實に生活することによつて、初めて其の眞意義があらはれるものなのであつて、これを實際的生活の上に實行するにあらざれば、徒らに空理空論に奔り口先き上手の實意なき輕薄人士の養成に過ぎないやうになり了るの虞があるので、特に之を實行に結び付け、協同生活の眞味と其の眞義とを體得せしめんが爲に、特にこの注意を示されたものと思ふのである。右は僅かの一例を擧げたに過ぎないが、注意事項は總じて、かくの如く教材使命の死活問題に關する注意を喚起されたものであるから、深き關心を以て研究せられんことを望む次第である。かく要目に對して深く注意を拂ふと

同時に、此の要目に心血を注いで研究し完璧を期して作つた細目に就ても、十分の検討を拂ひ、教材の研究に資し、要目又は細目に於て訂正を要すべきところを發見せば、訂正しおき以て次の教材研究者に資するやうに致されたい。

**二 地方實際の調査と主力點の研究** 教材の内容を精細に研究することは、教授の行程に盛るべき正確なる内容と其の主力點とを掴むためである。而して其の主力點を掴み得たならば、之を地方の實際生活に結び付けて、正しき生活に對しては之に理論的基礎を與へ、改善を要するものに對しては改善の要因を明かにする様にして行かねばならぬ。是青年學校は地方の實際生活を如實に取扱ふ學校であるからである。例へば前例に擧げた「吾等の郷土」で言へば、其の教材の主力點なる、協同生活の眞義を明かにして、郷土愛、祖國愛を涵養すると共に、更に進んでは之を基礎として其の郷土の實際生活の上に検討を加へ、其の推賞進展を遂げしむべきものは之を奨め、改善を加ふべきものには改善を加へると言ふ風にすべきである。然るためには其の郷土の實際生活を調査し、其の地方の生活状態を知悉せねばならぬ。郷土調査必要の叫ばれる所以は、これ等のためなのである。

**三 教材の體験的研究** 教授及訓練の徹底をはかるには、其の教授及訓練に當る教師が、其の教材に對して體験的研究を遂げてかゝらねばならぬ。殊に觀察、實驗、實習を要する教材は、教師先づ觀察、實驗、實習をなして見て、教材に對する體験を得て居ることが大切である。譬へばそれが嘗て

經驗を有することであつても、授業前必ず少くとも一回は、觀察、實驗、實習をして置かねばならぬ。然らざれば思はざる失敗を招き、教授及訓練の効果を無効に終らしめることがあるものである。併し教材は體得したる後に授くべしと言ふことにしても、時によると是非授けねばならぬ教材であるに拘らず、まだ體験しないと云つた様な場合に逢着することがある。かゝる場合はよし體験がなくとも授けねばならぬ。然る時如何なる所置を執るべきか、私はこれに對して「體験的に研究して、後に授けよ」と云ふのである。體験的研究とは自己の既得の知識技能により、或は教科書参考書を仔細に研究し、體験したと同じ氣持になるまで研究することである。即ち體験したと同じ氣持になり得たならば、それは體験的に研究されたと言つても良いと思ふのである。然るにいくら参考書を參酌しても、既得の知識技能から推測しても、疑問が氷解せず、體験的氣持になれない場合は、更に經驗者、先輩等に對して經驗談を聞き、或は指導を受けると言つた風に、熱心なる研究を遂げて、體験したと同じ氣持になり、確信を以て教壇に立つべきである。凡そ教授及訓練は確信があつて初めて徹底する。確信なき教授及訓練は決して成功するものではない。私が體験的研究を主張するのは實にこゝに其の根柢があるのである。

#### 第四節 指導案の作成と其の準備

一 指導案の作成 教授及訓練をなすに當つては其の指導案を作成しなければならぬ。即ち教材に對しては先づ多面的研究をする。而して其の研究に基づいて主眼點をつかみ、順序を立て、教材全體の統合をはかる。然る後生徒の經驗を基礎にして授くべきか、或は豫め生徒に調査を命ずべきかを考へ、其の決定したる方法により、それ／＼教授及訓練上の方案を考へる。更に一問一答を想定して、教材全體に就いての整理方を考究する。尙實行上の指導の要否等をも考慮して、教材取扱上の一貫したる方案を練る。斯くの如く一つの教材につき、其の教授すべき事項と、其の整理の順序と實行指導上等に就き考究し、授業の順序を正しく記録したものが指導案なのである。指導案はずつと前に作成して置いてよい。前年のものを引張り出して参考にしてもよい。或は他人の物を参考にしてもよい。併し其の何れをとるにしても一教材の授業に當つては、其の授業に着手する以前、自己の魂を打ち込んで編んだ新しい指導案を必ず持たねばならぬものである。

二 授業上の準備 授業上の準備は大體二つに分けて考へて見ることが出来る。一つは掛圖なり、模型なり標本なりを豫め蒐集して置いて、授業上の必要に従つて之を使用すると言ふ方面から見た授業上の準備である。これも誠に大切なことであつて、これ等は教授及訓練細目を本にして、それに要する種々の準備を整へて置いて、教授及訓練に便する様にしなければならぬと思ふ。更に他の一は一教材を授けるに當りての準備である。廣い意味から言つて見れば指導案を作成すると言ふことが既に

この方面の教授及訓練上の準備なのである。従つて掛圖なり、標本なりを整へて置くことや、觀察、實驗、實習の材料とする實物及その用具を整へることや、或は豫め調査を命ずることや皆是教授及訓練上の準備なのである。教授及訓練に準備の要することは、食事に炊爨の準備が要る、膳碗の調度が必要なる様なもので、缺くことの出来ない必然的條件なのである。而してこの準備には教師自身を下してなさねばならぬこと、生徒になさしめ得ること、ある。されば教授に當りてはそれ／＼其の方途を講じて、十分の準備を整へ、教室に臨んではだるみのない授業をする様にしたい。

青年學校の授業上の準備に就ては、種々の仕方があると思ふが、福岡縣宗像郡の農村青年學校に於て行つて居る仕方も一方法であつて、成績が良い様に思はれるから、参考迄に左に擧げて見る。宗像郡の農村青年學校は大體一週全一日の學校（低年は全二日の學校もあるが）であるが、各部落には公會堂があつて、部落の青年は其の公會堂に集つて、毎日日課を定め、規約を作つて切磋琢磨をして居る。例へば、月水金の三日を研究日、火木土の三日を作業日、日曜を讀書日又は娛樂日とする。研究日には青年學校で次の授業日にて研究すべき事項を、指導案（或る教材につき調査研究すべき問題を記したるもの）によつて研究する。故に研究に必要な参考書は大低部落の公會堂に備付けてある。字引もあれば各科の参考書もある。かやうにして學校にて學ぶべき事項を一生懸命に下調べをする。尤も研究が早く終れば文庫の本を読むこともあり、文を綴つたりすることもある。作業日には部落團

場のある所では、共同作業をすることもあるが、多くは藁細工、竹細工などをして居る。繩などは非常に奇麗に巻いて花の形などにして居る。讀書日には輪讀したり、所感を述べたりして楽しむ。娯樂日には一同娯樂をやると言ふ風に、支部長が主催者になつて、日割を決めて、眞面目にやつて居る。女子青年も之に準じて行つてゐる。學校に出席しては、斯様に公會堂で研究した事柄を發表して授業を受くるが故に、一週一日の學校であるに拘らず、其の學力は割合に良かつた。是皆部落研究の賜である。事情の許す處ではこの施設をして欲しいと思ふ。

### 第五節 教材の取扱方

一 生徒の経験を有する教材の取扱方 教材の中には、生徒が既に多少の経験を有する教材がある。かゝる教材に對しては生徒の経験を尋ね、其の答に應じて教授を進めるが良いと思ふ。経験を尋ね其の答に應じて教授を進めることは、活事實に出發し、教材を活かす一方法であるからである。青年學校の生徒は尋常小學校を卒へ、又は高等小學校を卒へた後直ちに實社會に出で實務に従事してゐる生徒であつて、社會の實際生活の幾分を味つて居るものなのである。であるから、想定が付く教材については、其の経験を尋ねつゝ、其の答に應じて教材を處理して行くと言ふことは、より効果的なことである。其の経験を尋ねてゐる事項中には、指導なくして所謂見聞して得たと云ふものもあり、或

は多少誤つてゐる既知觀念になつて居るものもあらう。これ等は何れも巧妙なる設問によつて引き出し、其の正しきは之を贊め、誤れるは之を正して行くと云ふ風にすることは、了得を容易且つ確實に、印象を深からしめるものである。

二 研究を命じたる教材の取扱方 教材中には豫め調査研究を命じ置き、その調査研究に基いて授業を進めることが、其の教材を生かし、研究心を鼓舞して、大いなる効果を齎らすものである。青年學校の生徒は調査研究といふことに於ては、自力によつて相當の處まで仕上げ得る實力を持つて居る者である。故に教師に於てこの方法をとることの可なりと思はれる教材は、斯の仕方によつて授業を進める方が、生徒自信も眞剣になり、授業も面白く行く許りでなく、生徒は眞實を窮めんとして家庭に於ても聞くが故に、兄弟、父母、祖父母等を刺戟して、一家全面的の研究となり、四方八面的に効果をもち來すことになる。例へば苗代についての授業ならば、苗代について調査研究すべき項目を、前の授業の終つた時に渡して、調査を命じ置き、次ぎの授業時間には、其の調査事項に基づき、一項目づつ、即問即答して、授業を進めて行くのである。これ等の仕方は青年學校の教授法としては、興味深き適當なる方法であると信するのである。

三 觀察及實驗實習に重きを置くべき教材の取扱方 青年學校の授業に於ては、觀察又は實驗實習に重きを置いて授くる様にして欲しいと、常に願つて居ることである。觀察せしむることの出来る



教材は、之を怠らずに是非觀察さして頂きたい。實驗實習すべき教材は努めて生徒になさしめるか、或は設備不十分にして生徒に實驗實習を課することが出来ない様な場合でも、少くとも教師に於て實驗實習を示す様にしたい。凡そ物事は觀察や實驗實習することに依つて始めて明確なる知識となり得るのである。觀察及實驗實習を抜きにして、茶碗は丸いと説明を與へても、茶碗に對する確實なる觀念とはならない。けれども實物なる茶碗を一寸一見させられただけで、既に觀念は明確さを増し更に手に持つて見、使つて見て一層其の確實性が濃さを増して來るのである。殊に職業科に關する教材は、觀察實驗實習に懇ねねばならぬ事項が極めて多い。家事及裁縫科の教材も亦觀察實驗實習を抜きにすることが出来ない材料である。かゝる教材は必ず觀察實驗實習を伴はしめて欲しい。それであれば本當の知識にはなり得ないからである。茄子と言ふ野菜はどの人にも知つて居られ、農村漁村を通じて、多かれ少かれ大抵は作つて居られるものであるが、さてその茄子が幹の何處に付いて居るかと言ふことになる、明かなる自信を持つて正しく答へ得らるゝ方が幾人あるであらうか、梅とか、柿とか、梨とか、林檎などは葉腋に生つて居るものであるから、茄子も同じく葉腋になるものと考えられるかも知らんが、大なる考へ違であつて、茄子は枝の中途に生るものなのである。これ等は明かに實驗觀察の不足から生じた誤りで、其の必要を證明する活材料なのである。故に實物を得られない場合がありとしたり、模型で示し、繪で見せると言ふ風にして、出来るだけ觀察實驗實習を省か

ない様にしなければならぬ。教師が觀察、實驗、實習を省くことは、思ひ過ぎによることが多い。即ち小學校で既に學んだことであるからとか、或は常識で知つて居るからとか、教師が生徒の心を付度して觀察、實驗の繁を遁れんとする考に起因することが多い。さればこの點に大に戒心を加へて、青年學校の教授及訓練には、必ず觀察實驗實習は相伴ふべき作業である、と言ふ迄に深い關心を結び付けて、教授及訓練に當つて欲しいのである。これが爲には教師自身に於ても觀察實驗實習の心がけが必要であり、且つ教授及訓練に際しては、之が準備に注意し一寸之を試みおくことが大切である。自分は度々之を行つて居るから大丈夫であると思つて居ることも、往々にしてイザ實驗となると狂ひが出來て中々甘く行かない場合があるものである。授業に望んでそんなことが起ると非常に時間を不經濟にする許りでなく、授業上の徹底を缺くことになるのであるから、生徒に授くる前に於て教師は先づ實驗して見て、然る後に生徒に臨むやうにして頂きたいものである。或る學校でアルコールランプを使ふ場合になつた所が、教師が狼狽し出して、彼處、此處と探し廻り始めた。見て居る者も生徒も怪げんな顔をして、呆氣にとられて居ると、他の教師が氣が付いて燐寸を持つて來て呉れた。燐寸を忘れたがために、それがもとなつて折角の授業を臺なしにして了つたのであつた。これ等のことは授業前一寸アルコールランプに火を點じて實驗して見て置けば、この失敗は見ないですむのであつたがと思ふと、氣の毒でたまらない感じを懷いたのであつた。

**四 沿革的教材の取扱方**

教材中に於て歴史的沿革を有つものは、その進化發展した順序を追ふて授業するやうにして欲しい。例へば家事用の機具に就ても種々の發達の沿革あり、衣服に就ても用布、仕立方等のも沿革あり、職業の教材に發達なるとの沿革あるものが多い。尙農業に例せば苗代は昔は通し苗代であつたが、それが短冊苗代に改良し、折衷苗代となり、更に今日の苗代栽培法と進化發展して來たのであるから其の順序を追ふて授ける様にし、教材の變遷改良の順を追ふて授けるやうにし、生徒の研究心を鼓舞して、更に研究に依つては一段と改善さるべきものなることを知らしめて、創作的萌芽を培ふことにされたいものである。教材中には是等の歴史的沿革を有するものが少くないのであるが、教科書とか、参考書と言ふものの中には、現状を説明するだけのものが多く、これ等沿革的材料を提供して居るものが少ないのであるから、教師は廣く材料を蒐集して、これ等の教材を補ひ以て其の教授及訓練に當らねばならぬ。

**五 經濟との連絡に注意すること**

青年學校に於て生産に關する事項を授くる場合には經濟を離れざる様連絡をつけて授けて欲しい。これまでの農業學校等に於ては、生産技術に關することは、生産技術に關することのみを授け、農業經濟に關することは、經濟の時間に授けると言ふやうに、離れ／＼に授けて居た所が多い様であるが、青年學校に於ては、生産を經濟的になさしめる考で、經濟と相離れざる様に關聯せしめて取扱つて欲しいと思ふのである。例へば農産製造を授ける場合にも、其

の製造に關する原料、機具、製法に止まらず、販賣法、販路等より更に荷造り法、荷送りの仕方、價格換算の仕方等に到る迄、尙進んでは協同經營のことにまで、一つの農産製造品について、其の生産に關することのみに止めずに經濟的關係を關聯せしめて授ける様に致されたいのである。かく授けることは、農業と實際的生活との關係を密接ならしめ、其の關係を理解せしめるに尤も近い行き道であるからである。

**六 研究及工夫心の涵養**

創造的文化への大なる貢獻である。その大なる創造を多く持つとき、國民は大なる矜持を感じる。蓋し國民として文化への大なる貢獻をなしたことを感ずるからである。而して創造は研究及工夫心の所産である。茲に於てか研究心、工夫心の啓培が重要性を持つことになる。人は漫然として物に對する時何等の感興も起らないが、細微なる事實に心をとめて注意するとき、異常の緊張と興趣とを覺えるものである。異常の緊張と興趣とを感ずるとき、そこに研究心が悖然と起り、工夫心が芽ぐむ。されば研究心と工夫心とを啓培せんと欲せば、微細なる事實に關心を持たせる様にするのである。多くの生徒はこの微細な事實に關心を持つことを知らない。且つ劣等生と稱されるもの程この心的作用が緩慢である。故に有ゆる機會を捉へて、細事に心向けさせる訓練を行はなければならぬ。そして習性たらしむる底の練習を積ませることである。物事に對して漫然看過する放漫性を矯め得たならば、研究心、工夫心の啓培には半分成功したと見てよいと思ふ。自覺が細微に

入るとき力強い研究心が頭を擡げ、而してそれが工夫心となり、創造となつてあらはれる。家事及職業に關するの教材は實驗實習を相伴ふものが多い故に、この心的訓練をなさしめるに最も好都合である。蓋し作業は形式陶冶として、心情の内面的訓練に大なる影響を與ふるものであるからである。且つ職業科は活事實を教材として取扱ふが故に、研究心工夫心に刺戟を與ふることが多く、又まともに其の必要を感じさせる。されば職業科に限らず、機會のある限り、研究心と工夫心に意を用ひ、其の啓培に資する様、教授と訓練とを進められたいと希望する。

**七 自習態度の養成** 自學自習は小學校でも重要視される問題であるが、況して青年學校は相當の學力を持つ生徒なのであるから、自學自習に最も重きを置くべきものなることは論ずるまでもない。たゞ注意することは自學自習を奨励するために課題などを課して重き負擔とならざるやうにすることが、特に注意して頂きたい。眞の餘暇を利用して負擔にならぬやうに自ら進んで學習するやうに奨励すべきである。教科書を用ひるとしたら、少くとも其の素讀位は自分で自習せしむべきである。殊に青年學校は毎週一日なり二日なりの晝間、或は毎週隔夜、或は四夜なりに開校するのであるから、授業の開始までには家業の傍らに教科書の素讀位は出來得ることゝ考へられるのであるが、さて實際は中々さう甘くは行かない。家業上の關係からも支障が來るが、自習には辭書なり參考書なりの用意がなくてはならない。この用意が缺けて居ると言ふことが自學自習を不可能ならしめるものになる。然

るに辭書、參考書等を各自に備へしめると言ふことは至難のことであるから、何等かの方法によつて、學校に相當的の辭書、參考書等を用意し、之を自習用に充てる必要がある。尤も青年學校の教師は骨を折つて、次回の教材に對する自習手引なるものを自製し、謄寫刷りにして生徒各自に配布すれば、各家庭に於ての自習も可能となる。

自習問題に關聯して辭書使用法の修得である。慣れてしまへば何でもないが、初心者には可なり骨の折れることである。辭書の使用に慣れしめて自學自習の態度を養ふことは最も大切である。辭書の使用法に慣れると好學心は勃然と興る。この好學心こそは總て終生を通じての研究心となり、創造となるのである。

**八 指導の對象を優等生に置かざること** 青年學校の教材は、確實なる習得たらしめ應用自在たらしめねばならぬ。多くを習得せしめんとすることは教師の老婆心で、あながち悪いとは言へないが、その爲淺きに失し、確實性を缺くことは大に戒心せねばならぬ。何事によらず、深くして確實なる觀念が造り上げられて、然る後應用自在なることが出來る。自在なる應用が出來る所に創造が生れる。吾人の終局の仕事は創造を目指してである。凡ての生徒にこの目的を達成せしめる様指導して行くべきである。學級教授（集團教授）は多數を一團とするものなるが故に、兎角優等生が目に入り易い。そして劣等生は捨てられ勝ちである。教師が骨が折れるからである。然し青年學校はかくあつてはな

らない。劣等生の一人と雖も確實な習得たらしむべく努力が續けられねばならぬ。されば青年學校は個別的教授訓練で進むべきである。優等生は自習力が盛であるから、是等には應用材を多分に課して自習せしめ、教師は専ら劣等生に向つて全力を注ぐべきである。窮極の場合は個人個人に手を採つて教授し、訓練して行く様にせねばならぬ。低能児は元より同一には出來ない。是等は多く病的なるもので、教材を別選して特別取扱ひに入るべきものである。然らざる者は發育に遲速の差あるに過ぎないのであるから、あせらず、急がず、徐々と其の啓發に當れば、相當の處まで引き上げ得らるゝものである。劣等生は多分に手を加へらるべきものである。これ青年學校は個別的教授訓練で進むべしと主張する所以である。

#### 九 整理整頓に注意すること

教室の整理整頓は申すに及ばず、實習地等の作業後の整理整頓、自己用具の整理整頓より、記帳、學習事項の整理整頓まで、學校生活としての整理整頓は比較的に多量である。是等の作業を完全に行はしめることは、相當に骨の折れることである。骨の折れることではあるが、その持ち來らず効果を思ふとき、骨が折れてもやらせねばならぬ。作業の精神に及ぼす形式陶冶の効果は驚くべきものがある。實際教室掃除の一事でさへ、根氣よく之を訓練付けて見ると其の効果は驚くべきものがある。論より證據實行して見て欲しい。元より短日には出來上らない。且つ綿密な指導が要り、學習事項等にも關聯せしめて指導せねばならぬ。教室掃除が生徒自身で、細密な

點にまで行き届いて、完全に出來上る頃には、學業成績の上にも相當の影響が現れて來るのである。況して學校生活の凡ての整理整頓が完全に近く行はるゝ様になつたら、其の効果は實に大なるものがあると思ふのである。而して其の整理整頓は一身上の整理整頓となり、一家の整理整頓となり、國家社會の整理整頓の基礎をなすものとなるのである。整理整頓の作用を國家社會の上よりながめるとき、人生の大半は整理整頓によつて保持されて居ると言つても誤りではないと思ふ。青年學校が整理整頓を重視せねばならぬことは、これで分ると思ふのである。

#### 第六節 實習の指導

女子青年學校に於て實習を指導するには、先づ其の學校に於て課するを家事及裁縫科、職業科の實施要目に就き、其の學校に於て課すべき實習事項を學年毎に調査する要がある。此の調査物は所謂實習要目である。之を調査するには、學校に於て指導すべき實習作業、家庭或は工場(又は商店、漁場)に於ての實習作業、見學せしむべき事項、調査せしむべき事項等に分ちて行ひ、然る後之を實際の情況に鑑み學年毎に之を月別に配當し、之が指導上の注意を記入しおき、以て其の學校實習指導上の指針とするものを作製する要がある。此の作製したるものは私は名けて實習曆と稱してゐる。

かく實習曆を作製したならば、常にこの實習曆に依り、尙地方の實際情況を鑑み、其の實習指導事

項に關し、十分の準備をなして之を指導するやうに致したいのである。兎角實習の準備は後れ勝ちになつて、住々にして其の時期を失する場合が少くないのであるが、かくては職業の教育の効果を十分に收め難い次第だ、よく實習曆に注意し、事前に十分の準備を整へおき、作業も見學も調査も其の時期を失せず爲さしむるやうに致すやうに留意し、實習の効果を十分に收むるやうに致したいと思ふ次第である。

## 第四章 女子青年學校の設備

### 第一節 學校の設置と設備

女子青年學校は男子部女子部として一校に設けられる場合が多く、しかも獨立校舎を持ちて特設せられるものが少く、多くは小學校に併設せられてゐる。特設せられる場合は、校地、校舎、運動場、實習場等一通りの建物を要し、其の備品も一通り設備することを要するが、併設學校の場合には、校舎、運動場、其の他に於ても共用し得るのであるから、其の併設學校の設備が十分の場合には、特に青年學校用として設備を要するもの丈にてよい。

女子青年學校は併設したとしても女子は晝間教授をなすを普通とするのであるから、特に専用教室の設備を要する。生徒数が少い學校であれば教室は裁縫室と兼用しても間に合せ得られることもあるが、多い場合は教室の外に、青年學校の女子教育に於ては、家事と裁縫の指導には大に力を入れるべきものであるから、裁縫と家事の實地を教授する教室丈は之を設け、之に要する教授及訓練上の備品丈は、力めて之を整備する要があると思ふ。

## 第二節 裁縫に關する設備

一 裁縫室 裁縫室は疊敷の作法室と兼用のものでもよいと思ふ。併し又特別に設け得らるれば尙よろしい。少し學級數の多い學校になると、作法室と兼用のもの丈にては間にあはぬと思はれるから、かかる場合には矢張り裁縫室は裁縫室として設くる必要がある。

而して裁縫の教室は、生徒が此の室に入れば、自然に裁縫學習と云ふ氣分になり得るやうに、整理しておきたい。即ち標本戸棚、陳列戸棚のやうな必要のものを据ゑつけ、戸棚の中には標本を順序よく列べ、その他の裁縫用具も整頓しておけるやうな廣さを必要とする。大體四間に五間の普通教室でも間にあふであらうが、生徒が多い場合には五間に六間の教室を要する。光線は何れの教室でも同様であるが、左右後の三方から入り、明るいことを必要とする。今日では殆んど無くなつた様に思はれるが、南向の校舎で南側に廊下の設けられたものがあつた。これは採光の工合が、北側廊下のものに比して甚だわるい。斯様な教室では曇天又は降雨の場合には、眼の衛生上宜しくないことは申すまでもない。修繕し得られるならば、之を改善するやうにしたい。

## 二 裁縫用具

和服裁縫用具としては、大體左の如きものを備ふればよからうと思ふ。

裁縫用机は生徒數だけ。鋏、鋏板、火熨斗等は三人か若しくは九人につき一挺位の割合に備へたな

らば宜しからん、而して此等は學校の備品として、整へおきたい。

鋏、尺度、筥等は生徒各自に持たしめておくも、場合によりては生徒に貸すこともある故、少しは備品としておきたい。

生徒各自に持たしむべきものは、右の外裁縫箱、針さし、糸巻、指貫(金製より鞣皮製がよい)、針等である。

洋服裁縫用具、裁縫の教材は、要目に示して居るのであるが、地方に於て須要なる通常衣服の裁ち方、縫ひ方等に習熟せしむる爲であり、今日では農村でも児童生徒の洋服を着て居るものが相當にあり、また婦人もエプロン等を用ひてゐるから、これ等の縫方位は知らしめておく方がよい、それ故多少洋服裁縫用具を備へて生徒に學習せしめる必要がある。之が用具としては第一ミシン、それから、鋏、仕事臺、アイロン、火のし板、火のし臺等が入る。

右の中一番大切のものはミシンであるが、従來は米國製のシンガーミシンに限られた様であつたが、數年前から國産のミシンが出で、之は決して外國製に劣らぬもので、實際に使用して見た裁縫教師の人達などが、之を稱讚して居つた。尙附屬品なども外國に劣らぬ。而して價は雲泥の相違がある。

ミシンの如き高價のものを民家で一々備え附けることは困難であらうと思ふ故、要目で示してゐる教材の洋服は手縫でも授くることとしてゐるのであるが、また必要な場合が出来た時には卒業後でも

學校へ借りに來るがよい。又學校でも卒業後たりとも便宜をはかるべきであると思ふ。

ミシンは手入れをよく行はないと、工合をわるくするから、生徒を指導して手入を十分に行はしむるやうにしたい。尙細かい附屬は紛失し易いから、使用後には必ず調べしむることを怠らぬやうに指導されたい。

**三 標本** 教師が直接指導すれば、標本は要らぬ様に考へる人もあるが、標本の觀察によつて、自得して理解する場合が少くないのであるから、教師は標本を作つて備ふるやうに致されたい。裁縫に關係して、織物の名稱、品質等を知らしむる爲に織物標本の必要がある。之はあまり大きなものでなければ、呉服屋より容易に集め得られることと思ふ。

**四 掛圖** 理解しにくい様な部分、又は煩雜な部分を擴大したり、その工程を示したり、或は色別にして明瞭ならしめることは、指導上大切のことである。斯樣の場合に掛圖の必要が起るのである。これ等は必要に應じて教師が製作するがよい。

**五 戸棚及其その他** 標本戸棚は硝子戸にして、外から直に見えるやうに作る。標本は無論丁寧に取扱はねばならぬが、之は必要に應じて、自由に觀察させるがよいと思ふ。然るに教師によると、大切にすると云ふ意味からか、周圍から眺めさせるだけで、手にとつて見ることをゆるさぬことがあるけれども、標本も結局は生徒の智識技能を發達せしめる爲のものなることを考へたならば、生徒に充

分觀察し得るやうにするがよい。

戸棚の大きさは、幅一間に高さ四尺位のものを重ねたのがよい。深さはあまり深くない方がよいかと思ふ、併し陳列戸棚と並べて置く場合には、大きさは此等と同一がよい。然らざれば、据ゑつけた時に揃はないと不便である。

陳列戸棚、生徒の製作品を入れておいて、相互に作品を見ることの出来る様にする。戸棚の個數は多ければ多い程便利であらうが、標本や製作品が順序よくおかれ得る程度がよい。黑板、霧吹、衣紋竿及折れた針を一所に入れおく様な箱が必要である。

### 第三節 家事に關する設備

**一 家事室** 家事室は併設校と兼用し得らるれば、それにて可なるも、無ければ設備するを要する。室の大きさは、生徒數により一教室内外の室とし、床はタ、キ又は板張りとし、流し割烹用の机、戸棚、籠等を備付くこととする。

(一) 「流し」は臺所の戸棚その他を据ゑつけぬ一方へ設ける。流しは木造、木造に亞鉛張をしたもの、コンクリート製などあるが、その中成るべく清潔が保ち得られると思ふもので作るがよい。尤も清潔は使用後の掃除の如何によるものであるから、よく生徒に後始末をさせること。又水がよく流れ

ないでは腐朽しやすいから傾斜をつけること。流した水は一定の所に溜め、毎日汲み出すがよい。

(二) 机は疊一枚位の大ききで、二人宛向ひあひ、一脚を四人で使用し得られる様にし、各自の分に引出しをつけて、各自分擔の食器その他を入れ置くやうにする。

(三) 戸棚は裁縫用と同等位の大ききで重ねたものを二組位あるを要する。バケツは使用する水を汲む爲に備へておく、水槽をこしらへて、これから鐵管で引いてもよろしいが、井戸水の場合には冬などは直接汲んで使用する方があたゝかい、水槽の汲み置きは却つて甚しく寒冷である。

(四) 竈は室の一隅か又は隣室に設備するを要する。主として炊飯用、多人數の御菜煮用のものにてよく、尙低くして洗濯用釜のものを附設することも工夫すべきことと思ふ。

(五) 井戸水には鐵分の含有が多きに失して、飲料に適せぬ様なものもある、斯る場合には、濾過装置をなして用ゐるがよい。

## 二 洗濯用具

(一) 洗濯板 今更説明するまでもなく、板に横筋の刻みを入れたもので、洗濯物を擦り洗ふに用ひる。亞鉛板のものもあるが普通は前者である。刻目は直線の外曲線に入れたものもある。

(二) 洗濯用ブラシ 刈萱の根、馬の尾毛、棕櫚の毛、護謨製等がある。刈萱のものは木綿ものに、馬の尾毛製のもの、絹や毛織物を洗ふに用ひるによろしい。

(三) 釜 洗濯物を煮洗ひする場合に用ひるもの、普通炊事用のものでもよろしいが、鐵製のもの、餘程使ひ込んだものでないと、鐵氣が出て色を黒くすることがあるから、琺瑯引か、アルミニウム製の釜ならば安全である。

(四) 乾物竿 乾物をする爲に杭を建て、之に二段或は三段の支へる所を作り、之に竿を架す。竿は使用後は軒下かその他の所へ、仕舞ひ置かぬと早く腐朽する。

(五) 鹽 鹽は木製のもの、亞鉛製等のものとあるが、生徒用には木製の方が宜しい様に思ふ。

(六) 張板 張板は朴の木を用ひるがよい。之ならば狂はない、此の板の兩端には棧を打ちつけておくがよい。かくしておくとは垣根その他へ立てかける場合に、板が垣根等に觸れないで、布を汚す心配はない。又板の上方の角は丸く削り、長い布を張る時裏まで折曲げても、曲り目のつかぬ様にすることがよい。

(七) 伸子 伸子張に用ひる。

(八) 其の他、洗濯又は衣服の保存、器物の手入等に必要なる藥品、揮發油、樟腦、ナフタリン、アンモニヤ水、洗濯曹達、重炭酸曹達、石鹼、漂白粉、生麩、姫糊、布海苔、アルコール、亞麻仁油、テレピン油、蜜臘、鯨油、ヒマシ油等を備へて置くやうにする。

## 三 割烹用具

普通の青年學校に於ては、左記位のを生徒數に應じて適當の數づつ備ふるやう





櫛 膳

皿・その他日本料理に必要な食器

盆  
ナイフ及ホーク

コーヒー茶碗及皿

#### 第四節 職業科に關する設備

女子青年學校を、獨立校舍を設けて特設する場合には、其の課する職業科の實習をなるべくなさしむるやうに、實習設備をなす必要があることは云ふまでもない。

併設したる場合には、併設校の男子用のものを併用せしめて指導する場合は少くないことと思はれるが、特に女子のみに課するものに就ては、之が設備をなすの要があると思はれる。かかる場合には、努めて之を設備するやうに致したい。例へばタイプライティングを女生徒のみに課する場合に、之が設備をなすの類である。

また男生徒に課すると共に女生徒にも課する場合には、女子に適する仕事の方面を分擔せしめ實習せしめてよろしい。例へば農業に於て田植、除草、果樹の袋張り、袋かけ、茶摘、養蠶の飼育、小家畜の飼養、農産製造等のやうな女子に適する仕事、工業に於て紡績、製絲又は織物等を課する場合には主として女子に適する仕事に就て實習せしめて可なるべく、商業の中小商業に於ては、女子も男子

と同様に實踐の指導があるべく、水産業に於ては、水産物の販賣、製造加工の仕事に就き、女子に適する仕事の實習をなさしむるの要があらうと思はれる。尙漁村の青年學校に於ては、女子には水産と共に農業を課する場合があるが、かかる場合には出来る丈の設備をなし、實習に重きをおきて之を課し、漁村農事改良の先驅たらしむる要がある。

## 第五章 女子青年學校の職業指導

### 第一節 女子職業指導の必要

一 職業婦人の發生と進出 日本に於ける職業婦人の發生は、明治二年に於て後の東京帝國大學醫學部所屬病院で、看護婦を募集したのが、我が國初めての看護婦募集であつて、職業婦人發生の始まりでもあつた様である。と稱されてゐる。その後追々進んで今日に至つたのであるが、婦人が斯く新たに社會的な地位につき得た結果、婦人の間に於ける自覺も高まつて來て、其處には又實際上自己の力の不足に對する認識も生じて、男女共學の機運を作るとか、女子の専門學校の必要を生ずるとか、大學の聽講權を得ようとする運動を起すとか云ふことになつて現はれて來て居る。此等の實現により婦人の地位も高まることになり、女醫、女作家、美術家も出來また、自動車の運轉手、車掌等の如き男子の職業分野まで進出するやうになつたのである。

世界戰中歐洲では男子は戰場へ行つて、彈丸の犠牲になる者が多いから、あとに残つた婦人がすべての産業部門、すべての職業分野に入り込んで男子に代つて活動したため、婦人の地位は大に開けて來て、西歐に於ては婦人參政權獲得の大きな動機とさへなつたのであるが、此の影響は日本へも及ぼさざるを得ない、大正九年に初めて東京市街自動車の婦人車掌の數十名が採用されてから、今日では普通のやうになつてゐる。その後或る市では女子の視學が出來、或る縣では女子の小學校長が任命されたり、或る省では女子の吏員の任命もあるやうになつた。

今日では高等女學校の卒業生は、卒業後直に結婚すると云ふ氣風が、段々薄れて或者は傳手を求めて就職したり、或者は更に高等程度の教育を受ける爲に上級の學校に進むと云ふ様な傾向を現はして來てゐる。これは女子が天職を完うせんとの爲よりは、寧ろ職業戰線へ進出せんが爲の希望による爲と思ふのである。故に女子の職業戰線への進出は決して一時的の現象ではない。將來も婦人の職業戰線への進出は高まるとも決して減退する様なことは無いと思はれる。デパートや、官廳や、會社などで婦人の求人廣告でも出せば、應募人員は募集人員の數十倍否數百倍の多數に達する程である。數年前東京の或る大百貨店で千人ばかりの求人依頼を、東京府職業紹介所にした處が、數日ならぬに希望者は一萬二千餘人もあつたと云ふので驚いてあつたが、今日でも變りはない。斯様に今日の婦人が職業に對して熱意を有してゐるのは、尋常一様でないことが知れる。從來とても農家の婦人などは、男子と同様筋肉勞働に従事して居つて、決して遊んでゐるやうな閑日月はない。特に養蠶期などに至つては、むしろ男子以上に働くのである。

今職業有業者の男女數及其の比較について示せば左の如くである。

女子青年學校の經營

(昭和五年國勢調査結果の概観)

職	業	總	男	女	男百ニ付女	人口千中
農耕に從事する者	總	二九,三〇,五五〇	一九,〇八九,二五〇	一〇,三一一,三〇〇	五三・〇七	一,〇〇〇
商業的職業		一三,五七五,一七〇	七,四七九,一七〇	六,〇九五,〇〇〇	八一・四九	四六五
接客業に從事する者		三,二六三,〇九〇	二,四九七,〇九〇	七六六,〇〇〇	三〇・六八	一一二
紡織工業に從事する者		一,一四三,〇一〇	四四七,〇三〇	六九六,〇〇〇	一三七・一五	三九
運輸に從事する者		一,〇三三,四五〇	四六九,四五〇	五六四,〇〇〇	一二五・八七	三五
土木建築に從事する者		九三九,五四〇	九〇九,五四〇	三〇,〇〇〇	三・三〇	三三
家事使用人		九二,一四〇	九〇八,一四〇	四,〇〇〇	〇・四四	三
木竹草蔓類に關する製造に從事する者		八〇六,〇〇〇	八七,〇〇〇	七一九,〇〇〇	八二六・四五	二八
金屬工業・機械器具製造・造船・運搬用具製造に從事の者		六八四,八七〇	六三四,八七〇	六〇,〇〇〇	九・六〇	三三
漁業に從事する者		六六九,九六〇	六四九,九六〇	二〇,〇〇〇	三・七二	二二
其の他の有業者		五六八,〇四〇	五二一,〇一〇	四七,〇〇〇	九・〇二	一九
飲食料品・嗜好品製造に從事する者		五六一,〇〇〇	四六六,九八〇	九四,〇二〇	二〇・一三	一九
		四八一,〇五〇	三八五,〇五〇	九六,〇〇〇	三三・六九	一六

被服身裝品製造に從事する者	四六〇,三九〇	三〇三,三九〇	一五七,〇〇〇	五二・七五	一六
書記的職業	四三四,〇五〇	三九六,〇三〇	三八,〇〇〇	九・五九	一五
官吏・公吏・雇傭員	四二七,一六〇	三九七,一六〇	三〇,〇〇〇	七・五五	一五
教育に從事する者	三三三,〇四〇	二九,〇四〇	一〇六,〇〇〇	四八・三九	一一
蠶業に從事する者	三三〇,〇〇〇	八三,〇〇〇	二七,〇〇〇	二七三・五三	一一
紙工業印刷に從事する者	二五九,八七〇	二三三,八七〇	二六,〇〇〇	一一・二	九
陸海現役軍人	二五三,六三〇	二五三,六三〇	—	—	九
醫療に從事する者	二四一,一六〇	一三五,一五〇	一〇六,〇一〇	七八・四三	八
窯業・土石加工に從事する者	二二八,〇五〇	一八三,〇五〇	三五,〇〇〇	一九・二	七
其の他の工業的職業	二〇四,七三〇	一七八,七三〇	二六,〇〇〇	一四・五五	七
採取に從事する者	一七六,四〇〇	一四五,〇四〇	三一,〇〇〇	二一・三七	六
林業に從事する者	一七三,〇一〇	一四四,一〇〇	二九,〇〇〇	二二・四	六
通信に從事する者	一六九,〇二〇	一八,一二〇	五,〇〇〇	四二・一八	六
宗教家	一六九,〇二〇	三三,〇二〇	三五,〇〇〇	二六・三	六
瓦斯・電氣・水道業に從事する者	一五八,〇三〇	一五七,〇三〇	一,〇〇〇	〇・六四	五
化學製品の製造に從事する者	一三七,〇〇〇	一八〇,〇〇〇	一九,〇一〇	一〇・六六	四
記者・著述家・藝術家・遊藝家	一三五,〇〇〇	九八,〇〇〇	二七,〇〇〇	二七・五五	四

職	業	總	數	男	女	男百ニ付女	人口千中
畜産に從事する者		六八、八五〇	八四、八五〇	一四、〇〇〇	一六・五〇	三	
金融保険に從事する者		五七、〇〇〇	五三、〇〇〇	五、〇〇〇	九・三	二	
其の他の自由業		五二、〇〇〇	四七、〇〇〇	四、〇〇〇	九・五	二	
精巧工業に從事する者		五〇、〇〇〇	四八、〇〇〇	二、〇〇〇	四・七	二	
採鑛に從事する者		三一、〇〇〇	二八、〇〇〇	三、〇〇〇	一〇・七	一	
土石採取に從事する者		二八、三〇〇	二四、二〇〇	四、〇〇〇	一六・五	一	
皮革・骨羽織品類製造に從事する者		二七、〇〇〇	三三、〇〇〇	五、〇〇〇	三・七	一	
製鹽に從事する者		二四、〇〇〇	一九、〇〇〇	五、〇〇〇	二六・三	一	
法律に從事する者		五、〇〇〇	五、〇〇〇	—	—	〇	
石油鑛業に從事する者		一、〇〇〇	一、〇〇〇	—	—	〇	

右の表によつて見ると、養蠶業などは女の従業者の数が三倍にも近く、教育に從事するものは、男の約半數、農耕に從事するものは、男の百人に對し女は八一人餘である。接客業や紡織工業に從事する者は男子よりもズツト多い。

従前は無かつた官吏・公吏などにも、今日は婦人が加はる様になつた。前記の表によると、男子に

比較して現在は甚だ少數ではあるけれども、之は次第に多くなるであらうと考へられる。陸海軍の軍人だけは婦人が無いけれども、世界大戦の際、スペインの内亂、現在の支那軍中には、婦人も軍人として働いてゐるやうに新聞に見えて居る。併し我が國では將來も婦人を軍隊に入れ戦闘に從事せしむるには至るまいと思はれるが、後方勤務などには、或は用ゐるやうになることがあるやも知れぬと思はれる。

尙右の表によると、法務に從事する者はまだ婦人に無いけれども、先般既に婦人辯護士に關する規程も出來、昨年十月頃の新聞には之に合格したる三名の女子があり、やがて女辯護士も出來るとして、法服や冠りを如何にすべきかなど新聞紙を賑はしてゐた記事もあつた。から、その中に法務に關する者にも、婦人が進出するであらうと思ふ。

醫療に從事する者も、男百人につき女七八人強と云ふ割合であるから、之も相當に多い。或る婦人の患者で女醫に診察してもらつた處、大層親切でよろしかつたと申してゐた。婦人は性質として、やさしいものであるから、特に親切にするのでなくても、男子よりは親切らしくも感ずるであらうが、患者に快感を與へると云ふことは、既にそれだけ病苦を一時的なり軽減せしめることになる。辯護士なども、いかめしい男子に恐るゝ聞くよりは、物柔なる女子に依頼する方が婦人などとしては、特に氣やすくあるから、之も追々社會より歡迎されるであらうと考へられるのである。

婦人も一個の社會人として、何等か自己の技量によつて、或は何等かの勞力によつて、明朗快適なる社會生活を營むために、身を投ずると云ふことは、婦人の世界に新しい展開として、大に喜ぶべきことであると信ずる。故に今日の若き日本女性に取つては、職業問題は非常に重要性を持つやうになつて來たのである。

#### 職業戦線へ進出の理由

女子の職業中には、産婆、看護婦、保姆などのやうに、從來婦人の職業の様に定まつて居り、又特に婦人の方が男子に比して適當して居る職業もあるから、此の方面に女子の職業として展開するは勿論であるが、近來は男子と同様に工場にも、商店にも、街頭にも多數の婦人が活動するやうになり、或は官廳にも勤める者もあるやうになつて來た。何故斯様になつて來たかと云ふに、その主なる理由は、大體左記の如くであらうと見られる。

(1) 人智の進歩による機械の利用のために分業が行はれ、作業が單純簡單になつたこと。即ち分業が行はれることになり、作業全部に關する智識技能はなくとも、一部分に對する技能さへあれば、直に作業に従事することが出来るから、就業迄に練習の爲、多くの時日を要する必要がない。従つて女子も職業戦線へ進出しやすくなつたのである。

(2) 産業の經營が大規模になり、多數の従業者を必要とするやうになつたこと。

今日都市の膨脹の有様を見るに、多くは工業の發展に基く、其處には多くの職工が集る、製糸、紡

績等の工場などには多數の女工を要する。故に自然に職業婦人が生ずるやうになるのである。

(3) 文化の進歩に伴ひ生活程度が向上して、生活費が増加したこと。

昔日は生活程度が低かつたから、男子だけの勤勞で、一家を扶養し得たから、婦人はあまり外にまで出て、生活資料を得る爲に職を求めないでも濟んだものであつたが、今日は之と異り、生活費を多く要するが故に、單に男子の扶養のみに依頼し難く、所謂夫婦共稼ぎをせざるを得ない者が多くなつた。小學校教員同士の夫婦、官吏や會社員の妻の教員、その他夫には夫としての職業ある者の妻の、看護婦や産婆などになり居るもの少くないのは、之生活程度が向上した結果、自然の勢として見るべきものである。

(4) 教育普及の結果として、婦人も社會的活動に参加し、社會に直接貢獻しなくてはならぬと自覺して來たこと。

(5) 家庭生活が簡易になり、婦人の家庭に於ける負擔が著しく軽減されたこと。

農村に於ては今日に至るも、家庭生活が簡易にはならず、依然として炊事、育児、被服の調製、老人の世話等頗る多忙であるけれども、都市にては婦人の勞働に便利のやうな設備が出來て居るから職業に従事することが比較的可能である。併し之も生活向上の結果婦人も働かねば生活の安定が得られぬからであるが、都市には職業婦人の爲に、託兒所が設けられてある所も多いから、不在中も安心

して仕事が出来る。又食堂とかその他食品が簡易に得られるから、婦人が比較的朝夕の勞少くして、食事も事足るのである。

以上述べた如き理由によつて、今日は婦人の職業戦線への進出が盛になつたのである。今後も此の趨勢は一層盛になるべきものと見られるのである。

## 第二節 女子青年學校の職業指導

一 青年學校に於ける職業指導 青年學校に於ける職業指導に關し、文部省主催職業指導調査協議會に於て、調査されて答申されたものがあるが、青年學校に關するものであるから、女子青年學校だけに限つたものではなく、男子青年學校に關することのあるのは勿論であり、且つ男子は各種の職業に従事してゐるのであるから、従つて男子に關することが多いのであるが、女子青年指導上にも參考になる點が尠くないのであるから、答申全部を採録して左に示さう。

### 青年學校に於ける職業指導施設要項

青年學校は、男女一般青年を對象とし、其の國民的資質の水準を向上せしめやうとする。青年期教育の中樞機關である。而して生徒の年齢は、一面人生に於ける基礎確立、立志發憤の時期であるが、他面動もすれば思想の動搖を來し、其の歸趨に迷ふ危険期である。

生徒の大部分は既に一定の實務に就き、國家産業の第一線に活動して居るとは言ふものゝ、知識や經驗が未だ十分でなく、其の實務たるや、凡て生涯繼續的に遂行せらるべきものはかりではなくして、轉職、失業の餘儀なき事情に至るものもあり、又現に何等の實務に携つて居らぬものもめる等、其の生活情態は各種各様である。故に其等の教養上、職業指導が緊切であることは言を俟たない。

されば青年學校に於ける職業指導は、如上の見地に立脚し、就勞青年に對する保護輔導を主眼とすべきものであるけれども、未だ就職して居らない者に對する適職への指導、更に失業者に對する再就職への指導等をも、併せて考慮しなければならない。

随つて青年學校に於ける職業指導實施に際しては、左記要項に留意するが適當である。

### (一)

青年學校に於ける職業指導は、青年學校の特質に基き次の如き方策を講ずべきこと。

- (1) 普通科 本科及研究科等課程別編制の旨趣に基き、夫れ／＼適當なる指導方針を樹立すること
- イ 普通科生徒に對しては、尋常小學校の職業指導と緊密なる聯携の上實施すること
- ロ 本科及研究科の生徒に對しては、高等小學校の職業指導と緊密なる聯携の上實施すること
- (2) 各教授及訓練科目の取扱、特に修身及公民科、職業科に於ては、常に職業指導を念慮に置きて取扱を爲すこと

- (3) 生徒の生活情態に應じて適當なる指導をなすこと
- イ 既に就職せる生徒に對しては、其の保護輔導をなすを以て主眼とすること
- ロ 未だ就職せざる生徒に對しては、適職への指導をなすを以て主眼とすること
- ハ 失職せる生徒に對しては、更に適職への指導をなすを以て主眼とすること
- (4) 指導の實際に於ては、個別的指導に努むべきこと
- (5) 生徒心身發達の傾向に顧み、自己指導を重んずべきこと
- (6) 關係諸方面との聯携を圖ること
- イ 父兄保護者、雇傭主及後援會、青年學校に關する委員會等との聯携
- ロ 職業紹介機關との緊密なる聯携
- ハ 雇傭主團體、產業的諸團體等との聯携
- ニ 青年學校相互の聯携
- ホ 青年團との聯携
- (7) 實施上特に左記の諸點に留意すること
- イ 職業指導をして學校全體の組織的活動たらしめ、全職員協力して其の機能發揮に努むること
- ロ 特に青年學校専任教員をして其の中心指導者たらしむること

- ハ 職業指導に關する相談施設を設くること
- ニ 職業指導に青年學校手帳を利用すること

(II)

青年學校に於ける職業指導は、環境並に學校の種別に應じて左記の如き方策を講ずること

農村青年學校

(一) 職業精神の涵養

- (1) 農業報國の精神を涵養して農村生活の眞價を感得せしむること
  - (2) 愛郷心の養成に努むること
  - (3) 協同生活の訓練に依りて自治の本義を體得せしむること
  - (4) 我が國家族制度の長所を發揮せしむること
  - (5) 勤儉の美風を涵養すること
  - (6) 農業進展の熱意を振起せしむること
  - (7) 教練の生活化を圖り規律、責任、計劃、協同等の習慣を養ふこと
- (二) 職業知識及技能の體得
- (1) 知識技能の體得は、生徒の實際生活に即して指導すること



(2) 經濟常識を啓培し特に農村と都市との調和的發達に鑑み農業と他の職業との關係につき理解せしむること

(3) 農家經營を一層合理的ならしむるやう努力すること

(4) 共同研究又は見學等の方法に依り實踐的指導に努むること

(5) 農業以外の職業に従事する青年に對しては、職業研究の機會を與へ個別的に指導すること

(三) 體位の向上

(1) 農業生活に伴ふ身體上の固癖を豫防矯正する爲、適切なる運動を奨励すること

(2) 身體検査の結果に基き、自覺的に體位の向上を圖らしむること

(3) 農家經濟の實際に應じて廉價にして滋養價多き食物を攝取せしめ、特に偏食に陥らざるやう留意すること。

(四) 離村青年の指導

(1) 離村青年の量に關しては、村の實情に基き計畫を樹て、勞働力減退の憂なき範圍に止むべきこと

(2) 農村の中堅たり得べき人物は成るべく離村せしめざること

(3) 離村青年に對しては、相談施設を設け、出先地方の實情に應じて適當なる指導をなすこと

(4) 職業紹介機關と密接なる聯携を保ち、就職先と十分なる聯絡をとらしむべきこと

(5) 離村青年に對しては、就職先の青年學校と聯携を保ち輔導を全うせしむべきこと

都市青年學校

(一) 職業精神の涵養

(1) 都市生活者の通弊たる個人主義的傾向を矯め、協同互助の精神を涵養すること

(2) 功利的、打算的傾向を戒め、健全なる人生觀に立脚して國家永遠の發達に貢獻するの覺悟を持たしむること

(3) 愛市の精神を涵養し、自己の職業を通じて都市の發達に寄與せしむること

(4) 主従關係の美點を認識せしめ、協力一致業務の進展を圖らしむること

(5) 輕佻浮華の惡風を去り、奢侈享樂の弊を避け、勤勞愛好の習慣を養ひ質實剛健なる生活を鼓吹すること

(二) 職業知識及技能の體得

(1) 職業に關する知識技能は、都市の情況を參酌し、成るべく實際的に授くること

(2) 各自既得の職業體驗を整理し、職業生活一般への關係を理解せしむること

(3) 職業將來の進展に伴ひ、自己の職分を遺憾なく果さしむる爲、自發的研究の習慣を養成せしむること

- (4) 生徒をして各種業態につき研究せしめ、相互啓發を行はしむること
- (5) 共同又は業態別に職業見學の機會を作り適當なる指導を行ふこと

(三) 體位の向上

- (1) 都市の職業生活の實情に鑑み、之に適應せしむる爲、健康と體力との増進に努力せしむること
- (2) 職業衛生に關する知識を授け、各自保健に留意せしむること

(四) 選職、就職指導

- (1) 未就職者に對しては、高等小學校に於ける職業指導を參酌して適當なる指導をなすべきこと
- (2) 轉職希望者に就ては轉職の可否と利害とを周到に吟味し、適當なる指導を行ふこと
- (3) 失業者又は轉職者の指導に際しては、成るべく過去の職業的體驗を活用し得るやう適當なる指導を行ふこと

(五) 就職者の保護

- (1) 就勞青年の健康保全の爲、勤務過勞に陥らしめざるやう法規に依り適當なる方途を講ずること
- (2) 學校は常に生徒の勤務先、雇傭主と聯携し、生徒の愛護輔導に關し協力を求むること

(六) 其他

- (1) 職業科の施設は學校所在地區の事情と生徒通學の情況とに顧み、隣接學校と協定の上適當に分

化せしむること

- (2) 農村又は他地方より移入せる者に對しては、特に當該都市の特性を把握せしめ、都市生活に適應するやう指導すること

女子青年學校

- (1) 日本婦人としての地位を考慮し、徒に男性の模倣に趨ることなく、女子の本分を自覺し、女子に相應しき職業を選定せしむること

(2) 家務、家業に對する女子の任務を會得せしむること

(3) 子女の職業指導に關し母として心得べき一般的教養を得しむること

(4) 家庭生活特に結婚との關係を考慮して指導すること

(5) 女子は職業生活より受くる身體的、精神的影響甚大なるを以て、その選職竝に就職上に十分な注意を拂ひ、特に職業衛生に留意せしむると共に女子就勞者保護の施設を促すこと

(6) 女子の職業生活には誘惑多きを以て、身を誤らしめざるやう堅實なる意志の修練に努むべきこと

(7) 女子に適當なる職業及女子にてもなし得る職業につき豫め知らしめ置くこと

私立青年學校

- (1) 私立青年學校に於ては、國民的教養を高むるに努むることは勿論なるも、兼ねて従業員養成機關としての使命をも發揮せしむること
- (2) 私立青年學校は、生徒日常の職業的體驗に即し、其の實際的知識技能の習得練磨に努むること
- (3) 私立青年學校の職業科は生徒の職種に應じ、成るべく專業的に指導すると共に業務に關する一般的知見の啓培に留意すること
- (4) 青年學校の教育を全からしむる爲、教員をして現場職員と協力せしむるは固より、現場職員をも再教育して、教育上の協力者たるの自覺を持たしむること
- (5) 中小商工業の爲には、成るべく同業組合其他雇傭主團體をして青年學校を經營せしむるやう補助獎勵すること

## 其の他

- (1) 青年學校の教員に對し、職業指導に關する理解と素養を與ふる爲、適當なる施設を講ずること
- (2) 青年學校生徒の健康保全の爲、就職者に對し就業時間中就學の便を圖らしむること但し此の場合に於ても所定の賃銀を減額せざること

## 二 婦人の天職

以上述べたるが如く婦人の職業も頗る多い。又婦人は種々の事情からして、各方面の職業に従事するものもあるべけれども、婦人は天職として夫を助け母となり家庭を處理し、子

女の教育に當るべき將來を有するは明かである。稀には前に述べた様に、家庭婦人となるならば、結婚しないなどと云ふ婦人もないではないが、それは天理に戻ることであつて感心なことではない。果して終身それが實行出来るものであるや否やは頗る疑問である。たとへ數十人中職業婦人として一生を捧げる者がありとするも、それは甚だ少いと云はねばならぬ。

然れば如何なる職業に従事するも、婦人は常に志操を堅固に持し、將來母となるも差支ないだけに修養を怠らざるを要する。日本婦人としては、夫を助け家運の隆昌を圖る爲には、先づ良妻となるべく、子女を養育せんが爲には、賢母とならねばならぬ。此の心掛は如何なる婦人についても必要ではあるけれども、特に職業婦人は、その仕事の繁忙なるが爲に知らず知らず、修養の怠り勝になるものであるから、充分に意を注がねばならない。

## 第六章 特殊訓練施設

青年學校教育の目的を達成する爲の訓練施設として、青年學寮の施設を奨励してゐる次第であるが、次第に廣く行はれるやうになり、府縣に依りては其の經營標準を示し奨励してゐるところもある。左に其の二三を擧げて例示する故參考として研究せられて、之が實施を期せられんことを望む次第である。けれども初めに於ては、數日の宿泊による教師と生徒との寢食を共にする單なる宿泊訓練の如きものより實施せられ、指導の體驗と實施の効果とに鑑みられ、然る後其の學校の事情に適切なる施設を實施せられるやうにと切望する次第である。

### 第一節 青年學寮の經營標準（鹿兒島縣）

一、學校の經營は町村の實情に即してなすべきもので其の郷土色の豊かな獨創的經營が望ましい。茲に示せるは大體の標準に過ぎぬ。従つて之に凝り劃一的弊に陥らざるやう注意されたい。

農村を主體としての標準を示せるを以て都市に於ては之を斟酌して適切なる經營法を立案されたる。

### 二、青年學寮の必要

青年學校の本旨に立脚した教育の効果は、從來の一般的學校教育と現在の様な青年學校の教育制度に於ては到底満足に擧げ得べきものでないと思ふ。即ち學寮はこの青年學校教育の缺陷を補ふに極めて必要な設備である。青年學校には農場あり家畜あり温床あり寸時の油斷もなく、二六時中繼續的觀察、調査、研究が必要である。家畜や作物と共に生活して初めて眞の合理的經營が出来る。又生徒と寢食を共にし共に働き共に學ぶことによつて、師弟及生徒間の情誼は益々親密を加へ精神的陶冶、人格的陶冶が徹底して行はれ個性に培はれた教育がなされる。即ち學寮は綜合的教育をなすにも必要である。

### 三、青年學寮の經營の目的

- (一) 教師及生徒の人格的接觸に依り精神教育をなす。
  - (二) 先輩及び生徒相互の切磋琢磨に依り自治的修養をなす。
  - (三) 勤勞愛好の精神の涵養をなす。
  - (四) 經濟的生活に依り全人教育をなす。
  - (五) 家庭生活の實踐指導をなす。
- 四、學寮の廣さ、間取、建築費

學寮の廣さ、間取は土地の狀況や經營の方針等に依つて異なるべきであるが、曩に本縣が示せる設置標準は左の通りである。

職員宿泊室	四坪
生徒宿泊室	一四坪
炊事室	二坪

計二〇坪（坪當四〇圓計八〇〇圓）

右の學寮の建物は校舍に隣接して設置し、農具作業場を學校と共用する場合の最小限度を示せるものにして經濟上許されるれば、作業場、浴殿、倉庫、物置、農産加工室、便所等は是非必要である。

出來得れば畜舎、堆肥舎、餌料準備室等の特設する。之に依つて初めて學寮經營の目的が達成される。其の廣さ等は一標準農家に大體準じて可である。

### 五、學寮の施設

#### (一) 農業實習地

學寮の目的を徹底するには相當面積の農場を有することは是非必要である。其の面積に就ては町村の事情に依りて異なるが、若し學校の隣接地に農場が意の如く得らるゝとすれば、其の町村の農家一戸平均以上の土地を經營し、然らざる所に在つては適當の面積の土地を求め高度集約的經營をなす。

#### (二) 家畜

家畜の種類及頭数を如何にするかの問題は、之も亦其の町村の實情に依つて異なるは勿論で、標準農家に準じ種類及頭数を決定するは最も適當かと思はれる。

農場經營には必ず家畜を使用することに依り其の經營が合理化して有利である。然し動物の飼育は非常なる難事である。之が飼育に當つては慎重なる調査研究と努力が最も肝要である。

#### 三、農具

1 特設すべき農具 主要なる農具（例へば鋤、肥料桶、肥料策）は當直班の人員數だけ備ふる必要がある。然らば如何なる農具を備ふべきか、之も學寮經營の方針等に依つて異なるもので一概に標準を決定することは困難である。要は學寮の經營の進展の上に支障なき程度の農具を特設することにある。

今相當の農場を有し當直班の人員を五人とした場合には是非特設する必要ありと認むる農具の種類及數量を示せば次の通りである。

鋤	五	レ	キ	二	ホ	四
シヨール	二	肥料	桶	四荷	肥	杓
間繩	(六〇尋)	鎌	打	五	鉈	一
砥石	二	藁	槌	二	牛鞍(馬鞍)	一

犁	一	馬	一	移	五
策	五	蓑	一	傘	一
卷尺	一	荷車	一	リヤカー	一
唐箕	一	脱穀機	一	扇風機	一
切籾	一	又	一	席	二〇
唐蓐	一	三	一〇	剪	一
				定	二
				鉄	

右の外夜間作業又は雨天作業用として、製蕨機、製繩機、依編機、製蕨機等を備へ、又農産製造用として味噌樽三、醬油樽二、漬物樽五樽以上を備へ置くは必要である。

2 學校と共通して可なる農具 特に高價にして臨時使用する如き農具は共通とする。左に主なるものを掲ぐ。

臺秤 一斗枰、一升枰以下各種、發動機、唐箕、脱穀機、除草器(田打車) 土入器 噴霧機 藥劑調製桶、田植繩等

四、什器 其他

食器五人前 火鉢一釜(大中小)三、鍋二、十能一、火箸二、杓子一、手洗器一、洗面器二、オモドシ二、馬穴五、湯沸一、洗桶二、急須一、棕櫚箒二、食臺一、下駄五、蚊帳二、電燈三、黑板(大小)

二、書籍棚一、机五、神棚一、花瓶一、椅子五、箒五、タワシ二、草履(便所用)一、夜具五人前、洗濯桶一、竿五、時計一

以上の外家畜用具養鶏養蜂用具(一式)を必要とするも、之は學校に依つて適宜備へられたい。六、當直班の編成

(一) 當直班の人員は一家の人員即ち生徒四名、職員一名、計五人位を適當とする。三名以下にて亦七八名以上にても其の結果は面白くない。

右は平常の場合を示せるものであるが、或特殊な目的の爲に多數の宿泊訓練を行ふ場合でも、二十名位を限度とされたい。

(二) 宿泊する生徒の種別

全校の生徒に特定の學級に、又特殊の生徒數名に、男女共に實施する等、現在種々の方法に依つて實施されつゝあるが、最も無難にして實施の容易なるは全校の生徒に年數回實施することである。之は單に學寮生活の如何なるものなるかを體驗し得る程度のものである。眞の學寮經營の目的を達するには之では物足らぬ感がある。

種々町村の事情にも依るが、出來得れば特定の學級に實施し、成るべく一人の宿泊日數を延長すべきである。又女子にも實施すべきであるが、女子の場合は女教師が其の指導に當り、其の宿泊人員は

男子より増加するも支障はない。

(三) 特別宿泊訓練

學寮は生徒の外卒業生等に就き、特別の宿泊訓練を行ふことに依つて益々學寮の價値を高めるものであるから、農閑期中臨時に行ふやうにする。

七、當直日數

(一) 生徒 一當直日數も二泊三日制、三泊四日制、七泊八日制、一泊二日制など種々の方法に依つて實施されつゝあるが、内二泊三日制は最も普通である。

中堅青年を養成する目的を以て行ふ場合は、日數を増し七泊八日制位が最も理想である。

(二) 職員 二泊三日位の短期間の場合は職員も連續生徒同様宿泊すべきである。七泊八日位の如く比較的長期間の場合には、職員は交替し各職員の人格に接し指導を仰ぐが良く、此の場合主任教員は可成長期間宿泊し指導上の骨と經營上の骨を捉へることがよい。

備考 教師の一泊制は從來の宿直の如き嫌ひあり、眞の學寮の目的を達するには二泊三日制位が至當である。

(三) 學寮の附近に主任の住宅を設立すれば、學寮經營上萬事に好都合である。

八、經費の支辨法

町村の事情に依つて異なるも相當面積の農場を學寮に附屬して得らるゝ場合は、自給自足を本體と

する最も僅少の經費を以て經營することは論ずるまでもないけれども、一般に實施容易なるは學校の一般農場收入を之に振向け得るやうに當局の許可を得、薪、炭、電燈費其他什器類を村補助に仰ぐの法である。

備考 食用米を持參せしめ副食物其他を町村費に仰ぐ方法もあるが、之では學寮の眞の目的は達成されない。

九、一日の行事時間割

一日中の行事及時間割は、附屬農場の有無、家畜の有無、經營の方針等に依つて異なり、時間割は夏と冬とに依つて異なるが、一般的行事及順序を示せば次の通りである。

- 1 午前五時 起床、點呼、體操
- 2 午前五時十五分—同六時四十分 作業(室内外美化、家畜手入飼料給與炊事草刈等)
- 3 午前六時四十分—同六時五十分 洗面
- 4 午前六時五十分—同七時十分 國旗掲揚、國家奉唱、遙拜、神前行事(禮拜、朗誦、靜座、作業打合)
- 5 午前七時十分—同八時 朝食、新聞閱覽
- 6 午前八時—同八時三十分 自習
- 7 午前八時三十分 登校(以下學校行事に一致)又は作業(出校日以外の生徒)

- 8 午後零時—同零時三十分 晝食、飼料給與
- 9 午後零時三十分—四時 授業又は作業
- 10 午後四時—歸寮
- 11 午後四時—同六時 作業（農場、家畜、管理、飼料準備、炊事）
- 12 日没—國旗降納
- 13 午後六時—同七時 入浴
- 14 午後七時—同七時三十分 夕食
- 15 午後七時三十分—同九時三十分 自習及作業
- 16 午後九時三十分—同十時 日誌記入、作業打合、朗誦朗詠、反省、禮拜、校內巡視、就床、

## 一〇、學寮經營の力點

學寮の教育的効果に就ては今更云々する必要はないが、一度之が經營を誤る時は其の影響する所は洵に甚大で取捨し得可からざる問題を惹起する。故に之が經營に當つては慎重なる注意と大なる努力を要する事は俟たぬ所である。

- (一) 教師が自ら骨を勞し心を苦しめ艱難の先きに立ち、不言實行身を以て指導すること。
- (二) 學寮の經營は簡單に行かぬ。極めて重大なる仕事で當直教員の如きも單なる宿直ではない。

校長も他職員同様當直し、經營上の要點を取得するやう努むること。

(三) 何の事業も要は人の問題である。學寮の經營も其の主任の圓熟せる人格と不斷の努力の如何に依つて左右される。主任に適任者を得るやう考慮すること。

(四) 計畫を周到にし、規律的生活をなさしむると共に記帳を正確にし、常に結果を明瞭にするこ  
と。

(五) 勤勞を通して寮生の人格陶冶をなすこと。

(六) 寮生活が家庭生活に浸潤するやう努むること。

十一、其の他學寮經營上参考となる事項

(一) 當直班の交替は全部一時に交替せしむるよりも前班と後班とに分ち、經驗者を一部殘留して交替せしむるがよい。交替の時刻は土地の情況に依り適當に定める。

七泊八日制の場合は、日曜日を避け月曜日等の出校日に交替せしむる。

一部制の宿泊は農閑期に、二部制は農繁期に實施する如くする。

(二) 學寮が校地内に設置しある場合は、學寮當直教員は學校宿直職員としての任務をも果す様に  
する。

(三) 寮に備ふべき帳簿 學寮日誌、學寮教育計畫（献立を含む）、寮生日誌、備品臺帳、會計簿、



家畜日誌、農場日誌、其の他。

## 第二節 共働の家に就て (京都府船井郡下和知村青年學校)

「人の一生を支配する理想は青年時代に養はれる」と思慮をここに致します時、個人的にも國家的にも青年教育の重要性は實に偉大であります。

本校は曩きに村長さん、校長さんから申されました如く本村の實情に鑑みまして、今を去る三年前、農民魂の養成と腕の教育(「何を知つて居るか」と云ふよりも「何を成すことが出来るか」)を目指して當時から申しますと學校教育としては全く型破りの特殊施設を致したのであります。

先づ普通農家を借り受けまして、限りある財源で、自作農家を標準としての住宅改善の範を示し、耕地は水田八〇アール桑園二〇アール蔬菜園一〇アール果樹園三〇アールと畜牛、山羊、鶏等家畜を飼ひ、又養蠶或は農産加工等所謂多角形の農家經營を致し一ヶ年の粗生産額一千二百圓を上げて居ります。

之が經營は戸主格が小職であり家族として助手一名、それに生徒四名宛を年中一日一泊或は農閑期は二泊三日交替の宿泊訓練で女生徒も一週二回(火、金)は宿泊するのであります。

起床は四時半直ちに農装となり、朝草刈りに、掃除に、炊事にと朝の作業を各々分擔し、冷水摩擦後「働く心」を朗唱しつゝ、毎日大國旗を掲揚し遙拜し、ラヂオ體操後朝食を済まし、晝は流汗主義による作業に従事し夜は食後三十分諸帳簿整理、今日の反省、明日の作業を豫定協議決定し、一時間勉強、懇談娛樂に一時間を與へ生徒の死亡者を祭る佛壇も設けてありますので、修證義を唱へて普通十時の就床であります。男子も炊事萬端を自らすることに依つて、お母さんの作つて下さつた食事に對して決して不足も云へないと申してゐます。

又本校は六尺禪を奨励致しまして所謂「禪をしめて作業に従事する」ことに致して居ますが、兼ねて作業は朗らかに明るい氣持ちで愉快に従事する事に努めてゐます。

又此の青年道場に、青年學校信用購買販賣利用組合を生徒職員によつて設立し、信用は毎月三十錢以上の貯金、購買は學用品及日用品、販賣は學校及家庭に於ける生産物販賣、利用方面では荷車、噴霧器等の貸出し、理髮器を備へて各自散髪をして三錢位の利用費を納める等、以て産業組合の精神と實務の訓練を致して居ます。之を要するに本村自力經濟更生計畫を基準とし、ペスタロッヂの「作業なくんば智識なし」二宮先生の「天津日の恵み置く無盡藏歟で掘り出せ鎌で刈り取れ」の御遺訓をモットーと致しまして、此の秋此の際眞に奮闘一番徹底的に斯界の振興を計らんとするものであります。

### 『共働の家』

一、立派な役立つ人になり度い

- 一、氣持の良い生活を致し度い
- 一、快樂な流汗勤勞に親み度い

宿 訓

二宮尊徳先生遺訓 天つ日の恵み積み置く無盡蔵 鍬で掘り出せ鎌で刈り取れ

宿 泊 訓 練 (二例……四月)

五時三十分 起床	
五時四十分 遙拜、體操	
五時五十分 冷水摩擦、朝の行事	
六時三十分 朝食	
七時三十分 雑事	
八 時 交替、作業	
十二 時 晝食	
一 時 研究	
五 時 歸舍、雑事	
六時三十分 入浴	
七 時 夕食	
七時三十分 帳簿整理	
八 時 自習	
九 時 懇談、娛樂團樂	
十 時 就寢	

當番役割	會計係 一名	養畜係 一名
	圃場係 一名	炊事係 一名

家庭的な學校

- 一、起 床——他の方より早く目を覺まし元氣よく起き上りませう。

- 一、寢 具——お天氣のよい日には日光消毒を致しませう。
- 一、遙 拜——東天に向ひ、天皇陛下に心からなる朝の御挨拶を申し上げます。
- 一、體 操——自然の靈氣をうんと吸ひ込みます。
- 一、冷水摩擦——心身を清め身體の健康を計りませう。
- 一、美化作業——汚はしい所を美しくするほど麗はしい仕事はありません。進んでやりませう、總べて清潔、整頓に力めませう。
- 一、食 事——感謝を捧げませう、活動の原動力です、よく噛みます。
- 一、研 究——面白く研究致しませう、お互は常に「ノート」と「ペンシル」に入れておきませう。
- 一、作 業——作業でも自分のものにしてやりませう、面白くなります、立派に出来ます、早く出来上ります (お互に仕事に追はれず、仕事を追ふて行きませう)。
- 一、家 畜——家族として取り扱つてやりませう (私達の爲めの家畜です)。
- 一、入 浴——お風呂の中で洗ひません、後の人に迷惑です、(心の垢も序に洗ひ流しませう)。
- 一、生活の整理——日誌を書きとめ、その他農業簿記を整理しませう (一應今日全體を反省します)。
- 一、娛 樂——一家の中から快活な笑聲の起るのは愉快です。
- 一、就 寢——一日の生活を感謝し、長上に挨拶を致しませう、火の仕末、戸締等一應見ます 安心して、お休みなさい。

第三節 我が校に於ける生徒宿泊訓練施設の概要 (島根縣八束郡玉湯村立青年學校)

## 一、目的

當校宿泊訓練は、我が國往時に於ける塾教育の精神に基き感化教育を主體としたもので、師弟朝夕起居寢食を共にし、農耕炊の體驗生活を通じて、膝下指導爐邊垂訓の教育に依りて生活指導を行ひ、以て百姓魂の鍊成、婦徳の涵養を圖る。抑々農村指導の第一要諦は、所謂農民魂、百姓魂を鍊成する事である。換言すれば百姓生活に徹したる農民を養成する事である。農民としての信念、堅實なる人生觀が確立するにより、農村讚美、愛業力行の實が舉り、生産に對する眞の喜悅も味得され、隣保扶助、同胞相愛の情誼にも徹して來る。

農村に於ける青年學校經營の中心目標も亦此所に在らねばならぬ。

鐵は赤熱せる時に鍛えてこそ其の眞價を遺憾なく發揮する。青年は身體的に精力最も旺盛で、如何なる鍛鍊にも堪え得ると同時に、精神的には求知心強く徹底的に事理を究明し新知識を欲求して止まぬ。殊に感激性に富み破邪顯正の意氣盛にして實行力に富む。此の心身發達の最も旺盛なる時に、徹底的に指導訓育し鍛鍊を行ふ事は極めて肝要な事であり、人格と人格との接觸する所必ずや靈と靈との閃がある。

宿泊訓練は本校教育の一重要施設である。

## 二、指導の中心目標

## 1 心身鍛鍊と勤勞訓練

農場農舍等の經營管理は、宿泊訓練に依つて其の完璧が期せられる。之等の作業に對し全身全靈を捧げ、眞に流汗土に親む勤勞の體驗を爲さしむる事に依て、勤勞愛好の精神を涵養し、健全なる職業意識を養ふと共に、時に閑墾其の他の鍛鍊的作業を實行せしめ、以て強固なる意志と剛健なる身體を養ふ。

## 2 協同社會性の陶冶

宿泊生一體となつて、規律生活の内に互に責務を重んじ和衷協同全力を盡し、秩序正しき中に家族的の麗しき勞働氣を醸成して團體的共同生活を營ましむる事に依て、隣保互助同胞相愛の精神を涵養し、以て協同社會性の陶冶を圖る。

## 3、個別適性の教育

一回の宿泊生は少數である。従つて個性の觀察調査を克く行ひ得るを以て、最も力強く個別指導を行ふ。

特に男子に對しては生徒各自の家庭に於ける農業經營の實際に關し徹底的の指導を行ふ。

## 4 婦徳の涵養

良妻にして賢母たる事は日本女性の一大使命であつて、又女性天賦の性能である。此の性能を陶冶

し發揮せしむる事は女子教育の目標でなくてはならぬ。家庭は凡ゆる人類活動の心臓であり、源泉である。一家團欒の内に一日の活動の疲を癒し明日の戦闘力を養はしむる者こそ、實に溫良貞淑なる一家の主婦である。實に妻たり母たる女性こそ、我が日本家庭の内面的中樞であり、此の女性の隠れたる力こそ健全なる家庭建設の礎である。

師弟寢食を共にし、人格的接觸に依る感化指導は勿論、寮の家族との間に或は生徒相互の間に於ける人格と、人格との接觸に依りて、愈々情誼を溫め、互に切磋しつゝ、圓滿なる婦徳の修練を行ふ。

#### 5 家政の総合的修練

徒らに學科を分ち、其の綜合を缺き觀念偏重記憶萬能に陥入るの弊を避け、實習體驗を中心として総合的に指導訓育することは、教育の全野に於て肝要の事であるが、特に家政的方面に於て一層切實に之を痛感するのである。

青年學校の最終年次の生徒（女子）は、目近に結婚期を控へ、近く家庭の人となり家政全般の中心的立場に於て活動すべき者である。従つて斯種教育は、特に創作的に生活改善を實現し得べき素地を確實に養ふ事が緊要である。實際に他人の家庭に生活し、其の家風に接し之を尊重しつゝ、一家の主婦として、家政全般に關し総合的に實際修練を行ふ。

#### 三、施設の種別

##### 1 學校宿泊訓練（男女共）

學校内に設けたる宿泊室に於て行ふ。

##### 2 家庭寮（女子のみ）

民家を借受け行ふ。

#### 四 施設の改革

##### 1 學校宿泊訓練

昭和十年年度當初學校内の一部に押入付六疊一室の宿泊所を新設し、寢具の設備を整へて實施して今日に至る。

##### 2 家庭寮

昭和九年一月の創設で、爾來毎年一月より三月に至る農閑期に於て實施する。

#### 五 施設の實際

##### 1 學校宿泊訓練

生徒は普通四人を以て一組とするを標準とし、輪番に宿泊せしめ、一名の組長を置く。

現在は毎月十回乃至十五回（男子）實施する。將來は毎週五回位行ふ豫定。女子は毎月三回乃至四回。交代時は普通午後四時乃至五時とするも、翌日が教授及訓練日なる時は始業前を以て終る。

#### 第六章 女子特殊訓練施設

炊事は一人又は二人の當番生を定めて之に當らしめ、毎食事毎に交迭勤務せしめる。

日課

朝の行事

起床(午前四時半乃至五時、季節に依り異る)―洗面、室内外の清掃、神社參拜、宮城遙拜。

朝の作業―家畜の飼育管理、草刈、農場作業。

食 事―午前七時乃至七時半。食事五觀朗唱(毎食)

午前中の行事

農場作業、開墾作業、其の他の作業

晝食(正午)午後一時迄休憩

午後 の 行事

農場作業、講話等―夕食午後六時又は七時

夜の 行事

各自の研究、講話、座談、ラヂオ聴取、反省日誌記帳、報徳訓、心の力齊唱、靜座、校舎内外の巡視、就寢(午後十時乃至十時半)―以上時に多少の變更を行ふ事あり

女子は家庭寮の方法を參酌して行ふ。

營―年額凡そ五〇圓(内、三〇圓、村費支出。二〇圓、農場收入)

飯米は生徒各自持參。副食物―農場收穫物農産加工品を主とし時季に依り多少購入する。

調味料―學校に於て製造せる味噌醬油を用ふ。

2 家庭寮

普通の民家を借り家庭の一切を開放提供を受け各室及家具類等自由に使用することを得  
本施設は當校と女子青年團の共催を以て行ふ

寮生は當校専修科生(本科卒業生)及團員にて一回に六名を收容する  
一回の期間は一週間(將來は十日にする豫定)。

○寮生は開校の朝夜具及裁縫用品、其の他日用雜具を携帶入寮する  
第一日の始め開寮式を行ふ。之には村當局、寮の家族及學校長並に關係職員列席、左の順序に依り行ふ

- 一、一同着席―互禮
- 二、開寮之挨拶
- 三、學校長訓示
- 主任教員の指示注意
- 四、村長祝辭
- 五、寮家の主人之挨拶

○寮の家族及職員、寮生の炊事は固より家庭への來客の送迎、取次、接待、農事作業、清掃作業、育兒の世話、家族に對する按摩、裁縫、其の他消費經濟の研究等、凡て主婦的立場に在つて、家政全般の綜合的實際訓練を行ふ。

課 程(別紙第一號表參照)

女子青年學校の經營

經 費—寮生の負擔、一回に白米三升、野菜若干、雜費五十錢  
 本施設經費—村費十圓、女子青年團より二十圓、本年度より村婦人會及愛國婦人會玉湯分會合同にて十圓の助成金ある筈。

調味料—醬油味は噲學校に於て製造せしものを用ふ。  
 寮生心得

- 一、責任觀念を持って
- 一、自發的に親切を盡せ
- 一、仕事は求め敏速に
- 一、返事は早く明瞭に
- 一、禮儀正しく朗かに

第一號表 寮生活課程表

日	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十	第十一	第十二
寮	入	寮	寮	寮	寮	寮	寮	寮	寮	寮	寮	寮
式	寮	寮	寮	寮	寮	寮	寮	寮	寮	寮	寮	寮
備	備	備	備	備	備	備	備	備	備	備	備	備
息	息	息	息	息	息	息	息	息	息	息	息	息
備	備	備	備	備	備	備	備	備	備	備	備	備
休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休	休
業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業
就	就	就	就	就	就	就	就	就	就	就	就	就
寢	寢	寢	寢	寢	寢	寢	寢	寢	寢	寢	寢	寢

日	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七
食	食	食	食	食	食	食	食
事	事	事	事	事	事	事	事
裁	裁	裁	裁	裁	裁	裁	裁
縫	縫	縫	縫	縫	縫	縫	縫
備	備	備	備	備	備	備	備
農	農	農	農	農	農	農	農
事	事	事	事	事	事	事	事
作	作	作	作	作	作	作	作
業	業	業	業	業	業	業	業
考	考	考	考	考	考	考	考
日	日	日	日	日	日	日	日
誌	誌	誌	誌	誌	誌	誌	誌
八	八	八	八	八	八	八	八
別	別	別	別	別	別	別	別
紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙
二	二	二	二	二	二	二	二
號	號	號	號	號	號	號	號
表	表	表	表	表	表	表	表

第六章 女子特殊訓練施設

二名の家政當番を置き、炊事、風呂の準備片付、來客の送迎接待等に當らしめ、其の餘暇に定めたる課業を行はしむ。尙夜業時間には當番生は家族の就寢の用意、家人の按摩等を行ふ。家政當番以外の者は豫定の課業を行ひ、適宜必要に應じ當番生の援助を爲す。夜業は主として藁細工を行ふ。本課定は時により多少の變更をなすことあり。

第二號表

重要記事	作業状況				家庭寮 月 日 天
	前午	午後	夜業	夜業	
	献立 (前人)				
當番	朝				天
	晝				
當番	夜				天
	合計				
當番	(一人前)				天
當番	割				天

参考 自昭和十一年二月二十八日 家庭寮献立表 (十七人前)

月日	朝	晝	間食	夕	當番	副食品代
二月二十二日	一、味噌汁 高菜、豆腐 一、煮豆 一、漬物 澤庵漬	ライスカレー 牛肉 一五〇匁 馬鈴薯、葱頭、人參	野菜 小豆 納豆 茶	一、菓子椀 蒟蒻、油揚、牛蒡 カマボコ 一、酢物 大根、人參	舟木 原田	七六錢
二月二十三日	一、味噌汁 高菜、豆腐 一、煮豆 一、漬物 澤庵漬	一、煮物 公魚、昆布卷 一、煮膾 一、漬物	野菜 小豆 納豆 茶	青年團一夜講習炊事 方	金織 吉野	四四
二月二十四日	一、圓子煮 大根、葱 一、漬物 味噌漬 澤庵漬	一、ト、ロ汁 大根、葱 一、菠薐草ヒタシ 一、公魚付焼	オシル粉	一、赤飯 赤貝、牛蒡、人參 油揚、セリ 一、澄汁 豆腐、菠薐草 一、膾 大根、人參	湯原 山本	一、一六

日 五 十 二	日 六 十 二	日 七 十 二	日 八 十 二
一、味噌汁 蕪、葱 一、豆腐ノ味淋煮 一、漬物 澤庵漬	一、團子煮 甘藷、大根 一、大根オロシ 一、漬物 味噌漬、澤庵	一、味噌汁 馬鈴薯、大根、葱 一、煮豆 一、漬物 澤庵	一、味噌汁 寒ツク大根 青菜 一、煮メ 干瓢、カマボコ
一、煮メ 油揚巻煮 金平蒟蒻 一、鰯ノ醬油漬 一、漬物	一、澄汁 セリ、卵、オサツ 一、鰯ノ醬油漬	一、味噌汁 殘物 一、煮豆 一、漬物	一、手打ソバ 一、煮メ 刻スルメ、干大根
オハギ 大根膾	煎餅 番茶		散シ壽司
一、澄汁 葱頭、馬鈴薯 一、煮豆 來客料理、煮メ、 鰯ノ醬油燒、イカ 煮付	一、味噌汁 魚アラ、カマボコ 豆腐、セリ 一、蒟蒻白和へ 一、酢物 寒ツクハリ〜	一、煮メ 乾瓢、長薯、蒲ボコ 一、酢物、長薯 一、茶碗ムシ ウドン、牛蒡、葱、 人参、牛肉、椎茸 吸物、來客用	
舟木 原田	金織 吉野	湯原 山本	舟木 原田
九四	八七	一、九〇	八六

## 第七章 女子青年學校の教員

### 第一節 青年學校の教員

青年學校は併設してゐる學校が多いので、教員も一般の學校と異つて兼任の教員が多く、専任の教員は至つて少い。中には専任の教員のないところもある。特設の獨立學校に於ては學校長の専任のところもあるが、併設學校に在りては殆ど全部が兼任校長である。教員も多數が兼任で、小學校其他の教員より兼務してゐるものが多く、また民間及町村吏員等の講師となつてゐるものもあり、更に他の學校に類例を見ざる指導員と稱する教員もある。指導員は青年學校教員たる資格のない教員であるが、其の多數は在郷軍人で教練指導に任じてゐる教員であるが、其他の科目を受持つ教員にも指導員たる教員のあることは勿論である。故に青年學校には學校長の外教員には教諭、助教諭、指導員、講師とあるのである。是等の教員は、多くは青年學校の教員としての養成を受けたものでないので、青年學校教育に就ての教育を受けたことがないので、青年學校教育の本旨も其の教育の目標をも十分に理解せず、尙其の受持つてゐる科目の教育精神をも知らずに教員になつてゐるのであつて、小學校より兼任されてゐる方々でさへ、小學校上級の児童や中等學校生徒を指導するやうな考を以て居られ



る方が少くないやうに思はれるのであるが、青年學校生徒は、實務生活が本務であつて、日々實務に當り社會生活をなし種々の經驗を持つて居り、所謂働きつつ學んで居るのであるから、學校生活を本務としてゐる生徒の取扱とは大に趣きを異にせねばならぬのである。故に青年學校教員たる人々は、青年學校教育の特質を十分に諒解することに努むると共に、青年學校教授及訓練科目要旨に就き、一通りの研究を積み尙要目に就てもよく其の制定の方針並に實施上の注意等を研究し、以て青年學校生徒に對し適切なる教育を施すやうにせねばならぬ。これ等に關しては、本書に於ても第一章より順次一通り説明を試みてゐる次第であるから、之を研究せられるやう望む次第である。

## 第二節 専任教員

### 一 専任教員

1 家事及裁縫専任教員 女子青年學校に於ける家事及裁縫科専任の教員は、他の教員の受持時數は、毎週數時間僅少なるに拘らず其の受持時數は其の學校に於ける教授及訓練時數の半ば以上を占め且つ専ら生徒教育の任に當つてゐるのであるから、女子青年學校の教育は自己の任であり、生徒婦徳の涵養は自己の責任であるとの覺悟を以て、よく校長を助けて其の教育に當らねばならない。その爲には第一に第一節に述べた青年學校教育に就き十分の研究を爲して、以て専任教員として任を盡さね

ばならぬ。それに就ては日々の教授及訓練に當る際に、よく女子青年の心情を思ひやり、まごころこめての指導と言ふことを第一の信條として授業に當られることが最も望ましいことである。以心傳心と言ふことは禪家の妙諦を悟る心境ばかりではない。先生の眞心込めた教授でなくては、眞の了解を得ることは難しいものである。つまり蕊と蕊との接觸で行かねばならぬ。生徒にも研究しようとする熱心さが燃え、先生にも眞から之を生徒のものにしようとする眞心の閃めく所に眞の理解が成立つ。千言萬語喋々囁々した處が、眞心を缺いては何等の効果も持ち來さぬ。故に教授にあたりては先づ生徒の心境を整理することである。雜念を拂ひ去つて唯一心、己の研究せんとすることに全身の勢力を集中させることである。或人は雜念拂拭法として首の運動を課するが良いと言つた。なる程やつて見ると効果はある。わい／＼言つて居た子供等はしんとする。この運動は生理上將心理上、如何なる關係あるかは未だ極めて居ないが、効果は確かにある。雜念は姿勢を端正にし、呼吸を整へることによつて影を潜めるものである。雜念を拂へば次に來るものは勢力の集中策である。勢力の集中策は教師の熱意より外にはない。燃える思ひを徐ろに、余は特に徐ろにと言ふ。態度、動作、言葉によつて、徐々と生徒の眞心の中に注ぎ込むのである。そして何等をも焼き盡さんずる熱意をさし加へて教授を進めて行くのである。教師が體驗に富めば富むほど、研究が深ければ深い程、愈々其の熱は度を加へ、學ぶ者をして自己を忘れさせ、唯研究その事のみ没入し了らしむるものである。教師の眞心熱

意がこの境地にまで到るとき、眞に教授は徹底するのである。而して家事及裁縫の技の熟達は出來上の立派なることであり、正しいことであり、早いことである。この三則揃つたとき、初めて熟達なる名を擅にすることが出来る。教授はこの境地に迄到らしむることを目當てとしなければならぬ。

裁縫には流派があり、そして其の流派の長所を主張して下らないものである。甚しいのになると感情に奔り他をけなして、獨り自ら高しとする者などもある。併しながら技に通じた者が虚心坦懐に、各流派を顧るとき、自ら其の長所は分るものである。今日は自己の流派にこだはることなく、各其の長所を採用することになつて居る。青年學校の教師は種々の流派を研究して、偏狹に陥ることなく、其の善なるものを採る様にして行きたいものである。殊に流派の異なる教員の後任になつた場合一層の注意が要る。生徒は大抵前の教師を信じて居るものであるから、變つたことを聞くと「何だ今度の先生は」と思ふものである。能く自分の流派に忠なる餘り、前の先生の遣り口を貶しなどでもする。「何だ今度の先生は、前の先生の悪口を言ふ」など、却つて自分の信用を失墜することになる。かかる場合は、かう言ふ二つの方法があるが、兩者の利害得失を比較すると斯くなる。大體に於て此の方が優つて居るから、自分はこの方法をとると言つた風に、能く説明して然る後に實施すべきである。殊に若い先生は呉れくも注意せねばならぬ。

## 2 職業科の専任教員

家事及裁縫科の専任教員は、女子青年教育を引受けてゐる如き自信を以て教

育に當らねばならぬやうに、職業科の専任教員は男子青年教育を引受けて居る如き信念を以て校長を助けて其の任に當り、且つ男子部女子部の學校に於て、女子の家事及裁縫擔任の専任教員を援助して、其の學校教育の振興を圖るやうに努めねばならぬ。別して其の受持の職業科に就ては、其の學校の職業科教育、生徒を通して家庭に及ぼし、其の地方に於ける職業教育の中心をなす自覺を持たねばならぬ職業科の教員はよろしくこの自覺の下に、献身的奉公を捧げること努力すべきである。實に地方の産業は青年學校職業教員の善導に依つて興り、其の怠惰に依つて廢ると云ふ意氣を以て、其の指導に任じて欲しい。高知縣、宮崎縣等の著しき産業進展は皆其の適例なのである。この適例を顧るとき職業教員の責任は、實に重且つ大と言はねばならぬ。されば職業教員たる者は先づ地方産業の内容を調査研究して、其の進展策を樹立することに努めねばならぬ。自ら振ふて其の調査研究に當り、或は生徒を指導して其の調査研究に當らしめ、之を分析し統名して産業の進展策を樹立し、之を青年指導の教材に使ひ、或は地方大衆への指導講演の材料とし、以て地方産業興隆の基礎を築き、三年計畫、五年計畫等の計畫案を作り上げて、市町村役場、農會、商工會、青年團會と連絡提携し、以て地方産業の進展興隆に貢献するの務めを果すべきである。

## 二 専任教員の心得

### 1 家事及裁縫科及職業科

實習の技能に自信あるべきこと、青年學校は實習を抜きにしては價値な

き學校である。實習的技能は青年學校の骨である。されば職業科教員及家事及裁縫科教員として青年學校に職を奉ずる程の者は、實習的技能に自信あるべき事が切要である。實習的技能は唯單に實習し得る技能ばかりの謂ではない。其の實施によりて得る結果即ち成果に關係を持たしむの謂なのである。故に實習的技能と言ふよりも或は體驗と言つた方が適當かとも思はるゝ。要するに實施によりて良果を結ばしめ得る技能なのである。不幸にして體驗を有せざる場合は、之を古老に聞き先輩に正し、或は參考書を繕きて、充分なる研究を遂げ、體驗したと同一の確信を堅持して生徒の指導に任ずべきである。

3 設備の補充製作 設備の完成は教育を充實せしめる上に極めて至大の關係を持つ。故に極力其の完成に力を注がねばならぬが、何せ設備は金の問題である。金の問題なるが故に其の必要を充分認めつつも、如何ともすることが出来ない場合がある。この間に處して家事及裁縫科及職業科教員の任務は、更に一つの重荷が加はる。設備の補充策これである。設備の補充策は青年學校に於ては、篤志家又は工場等に渡りをつけ、その家庭設備又は工場の設備を借りて實習せしめることである。かゝる場合は其の當事者に損失を及ぼさざる様、充分の注意と細案とを準備せねばならぬ。更に設備中には教師の考案により、或は勞力の提供により製作し得らるゝものがある。標本の製造、用具の破損修繕、廢物の利用等是である。かゝる物は教師自ら手を下して其の製作修繕に當り、或は生徒を指揮して其

の製作修繕に當らしめ、以つて不足せる設備の充實に努めねばならぬ。以上は家事及裁縫科及職業科の實科受持教員の附帯任務とも見るべき作業であるが、實際の業務に當る漁夫が、船具や漁具の修繕に當り、農夫が農具をつくるひ、工業者が工具の手入れをなし、家庭に於ける主婦が、種々の家事に當り且つ修繕をなすことは、當然すぎる程當然のことであつて、現在及將來ともそれ等の實務に従事する青年學校の生徒は、學校生活中に於て將にこの手腕の練磨に當るべく、青年學校の家事及裁縫科及職業科教員は自ら其の考案に工夫をこらすと共に、生徒を指導して其の技の練磨に當らしめることは、其の職責上當然のことなのである。(職業をここでは廣く仕事と解して女子の仕事の家事裁縫と女子の職業と見る)

4 勤勞の人たること 人生は何人も職業を持たねばならぬ。職業は生きんが爲の手段であり、否寧ろ人間の活動的天性に基く作業であるからである。されば職業は吾人の天性を満足させるものである。生存の意義を果させるものである。原始時代は職業なるものがなくて間に合つたであらうが、世の進化と共に職業なる名を負はずべき分業があらはれて、各其の職とする所に偏らねばならなくなつた。而して多年の職業的研鑽の結果は、其處に一つの規矩的準繩を生み、系統付けられ、理論づけられて、知的領分を形成し、所謂職業は學理的基礎の上に立つ様になつたのである。茲に於てか職業は學校教育の上に置かるゝことになり、益々微を極め、精を加へて、其の蘊奥を極めざれば止まざるに至つた。併しながら職業が如何に學理的基礎の上に置かるゝ様になつたとしても、實施實行と言ふこと

を離れては成り立たないのである。即ち學理と實行とは職業上の重要な因縁事をなすのである。然るに其の學理的研鑽の全盛なるにつれ、重要な因縁事をなす實行方面が閑却される様になり、理屈は積んで居ても、行が伴はなくなり、學的修業は出來て居ても腕のない人間が出來上つて仕舞つた。更に輕佻浮薄の風が是に合流して、五十圓の報酬では之以上は働けないなど、公然放言して憚からざる功利主義的人間を作り上げ、報酬の多寡に因つて行を二三にする底の徒が現るゝ世相を生むに至つた。職業の價値は天賦の本性を盡して生存の意義を果す所にある。其の本性を盡し其の意義を果す爲めには、最高限度の精力を傾注して努力を續けることである。是人間の社會に持つ義務なのである。この意義を覺りこの義務を果す所の人を、勤勞の人とは言ふのである。青年學校の教員は何人も皆此の勤勞の人でなければならぬ。とりわけ實務を指導する教員は、青年教育上宜しとする所の職業的訓練を荷ふ職掌であり、其の地方に於ける職業教育の中心をなすものであるから、一層この意義の深さを覺り、學校の經營に、教材の研究に、實習の指導に、日も尙足らざる底の勤勞者たることを要するのである。かくして其の導かるゝ青年は、職業人としての資格を體得し、國家社會に負ふ義務を果し得る所の立派なる人間として出來上るのである。

### 第三節 兼任教員

青年學校に於ては、専任教員が置かれて家事及裁縫科や職業科を擔任せらるれば、其の他の科目は兼任教員及教練指導員に依つて受持たれて居り、専任教員を置かざる場合は、全部の科目が兼任教員及教練指導員によつて受け持たれてゐる。これまでの青年學校の職員の中には、一般に青年學校の主旨を理解せず、普通學科擔任の教員は普通學科のみに責任がある如くに思ひ、職業科の教員は職業科丈けに骨を折り、家事及裁縫科、體操科及教練科の教員はそれ〴〵自己擔任時間の教授にのみ責任を保持して宜しいかの如く考へて、之を顧みないと言ふ傾きがある様に思はるのである。一片の理屈をこね上げればそんな風にも考へられるのであるが、學校生活と言ふものはそんなことでは成り立たない。青年學校に限らず、何仕事でも、何れの學校でも、打つて一丸となつて協力同心、即ち有機的關係に立つてこそ、初めて會社なり學校なりの眞價を上げることが出来るものである。況して青年學校は國民精神を作興し、共存共榮の眞義を味はしめ、地方産業の改善、進展、興隆を目指しての學校であるから、青年學校に職を奉ずる程の者は、學校長職員は申すに及ばず、小使の果てに至る迄良く其の本旨を理解し、學校に於て樹立したる進展策、改善策、興隆策に参加し、協力一致其の遂行に全幅の熱意を振ふ様にせねばならぬ。かくしてこそ初めて青年學校としての面目を、躍如たらしめることが出来るのである。

## 第四節 學校長の心得

一 學校長の責任 學校長は農村教育の生命である。學校の成果の學がると學がらざるとは、一に校長其の人を得ると得ざるとによると言つてよい。學校長たらんものは深くこの點に思ひをいたして、其の職責を全ふする爲に眞劍の努力を拂はれたい。學校長としては先づ第一に我が建國の精神を究明して、敬神崇祖の念に燃えねばならぬ。早且身を清めて、皇祖及祖先の神靈に日々冥護の感謝を捧げ、更に新なる加護を祈願し、心身を清淨にして業務に當るの信仰者たることを要する。信仰生活は日々之を繰返す處に妙諦があり、神意との接觸を如實に感得するものである。第二に修養第一の心掛けが要る。日々に起る有ゆる心身上の諸問題につき、修養第一の心掛けの下に、之に耐え、之を忍び、之を練り、之を所斷するの鍛鍊を積むことを忘れてはならぬ。修養は一時的のものではない。一生を通じての永續的勤行である。然る處に人格としての光が輝く。第三に學校長としての資格は謙遜辭讓たるべきことである。若ければ若い程銜ふ氣が強い。出來もせぬのに出來る振りをし、ありもせぬのに有る振りをし、そして威張つて見たくもなる。この氣が強ければ強い程、から威張りで、上べかざりで、眞實性が薄い。學校長としてはこの銜ふことが甚だしく禁物なのである。何事も控ひ目にして出しや張ることを慎むにある。併し注意せねばならぬことは、謙遜辭讓を卑屈とはき違ひぬこと

である。卑屈は出づべき所にも出ず、言ふべき場合にも言ひ得ざる引込思案者の持つ名なのである。長者を長者として崇め、先輩を先輩として尊敬し、同僚下輩に對しても辭を穿くし、行を篤ふすと雖も、言はざる可からざれば斷じて之を言ひ、行はざる可からざれば決然之を行ふ。と、言つたのが謙遜辭讓なのである。要するに謙遜辭讓は程よき節度あることである。第四に學校長としての資格は他人の長所を尊重することである。低能者にあらざる限り、人には何等かの長所があるものである。學校長はこの長所を見抜き、其の長所を尊重し、長所適應の仕事をして貰ふ様に仕向けることである。吾人は自己の長所に任ぜられる時、偉大の仕事が出來上る。學校生活は宜敷長所の持ち寄りで經營せらるべきものである。第五は職員教育である。私は學校長の資格として、特に職員教育なる一項を加へる。學校教育は如何なる手腕家でも一人では出來上らない。職員全體を打つて一丸とした有機的結合で當らねばならぬ。是職員教育を必要とする所以である。而して職員教育は學校長自ら實踐躬行して範を示すにある。百言千當の指示も一實行に及ばない。成熟者の教育は理屈では通らない。唯一の方法は實踐躬行にある。言ふ所、言はんと欲する所を先づ實行に現すにある。解説、訓言は第二の手段である。而して初めて職員の指導は徐るに出來上る。然れども職員の先頭に立つて、躬行實踐範を示すことは頗る難い、若い時代は何と言つても銜ふ氣に驅られ易い。孔子も五十にして天命を知ると言つた。五十を超えざる者は兎角右顧左眄して功利主義に立脚し、自己の體面維持か進展策にばかり

没頭し、外觀を装り立て、眞實味を缺くことが多い。かくては自己の地位を藉りて、威服することは出来やうが、心服を贏ち得ることは出来ぬ。職員教育は威服では物にならぬ、心服でなければならぬ。茲に於てか學校長は老練なる人格者を要するのである。

二 學校長は地方の理解者 學校長は職業科及家事裁縫科の教員及其の他の教員を率ひて地方の實狀を理解し、教育の進展策を講ずると共に、地方の經濟、風俗等の改善策に參畫し、地方の興隆經營に助力を惜しまぬ様にせねばならぬ。而して地方に於ける商工會議所、農會、水産會、産業組合等と聯絡提携し、其の趣旨の徹底をはかり、其の業務の伸張を助け、或は青年教育研究會、青年教育後援會等の設立を企圖して、地方の進展興隆をはかると共に、青年教育の振興に努めねばならぬ。

三 設備の充實を圖るべきこと 學校教育に於ける設備は經濟に係はるものなるが爲に、之が充實をはかることは容易のことではない。而して教育は觀察、實驗、實習に重點を置くことになつたが故に、愈々其の設備の必要性を加へ、設備の不完全は學校教育の成果の上に影響すること甚大なるものとなり、極力之が充實に努力せねばならなくなつた。殊に青年學校用としての實習設備、其他實習用具及各種の標本等は是非完備せねばならぬものであり、或は部落公會堂の設立等、地方教育上の設備は可なり重いものがある。學校長は是等の設備を充實を計るために渾身の努力を拂つて貰ひた

50

#### 四 職業科家事及裁縫科及教員に對する精神的援助

家事及裁縫科及職業科は専門的の素養がなければ其の教授に當ることは出来ない。従つて専門的の素養のない限り他の教員が臨時に之を受け持つと言ふことの出来ない科目である。而して家事及裁縫科及職業科の實習等は何れも豫定時間を超過して、生徒と共に人あとまで居残つて、其の後仕末に骨を折らねばならぬ科目である。とりわけ農業科の實習の如きは、其の日の中に結末を付けねばならぬ場合には、日の暮るゝ迄も實習に骨を折り、それから後仕末にかゝらねばならぬ様なことが度々ある。其の勞苦の多大なること、他の諸學科受持の場合と比較にならぬ程骨が折れるものである。されば學校長たる者はこの多大の勞苦を充分認め、之を慰藉し、出來得る限り校長も居残つて助力を與へ、同情と賞揚と激勵とを以て之に望むやうにして欲しい。人生意氣に感ずとは、劉備が三顧の知遇に、誠忠を抜きん出た孔明はかりではない。何人も至情に動かされざるものはないのである。かゝる精神的知遇にあつてこそ、日の暮るゝまでの努力も勞苦と思はなくなり、薄給に處しての献身的奉公も期待が出来るのである。かくてその努力の結果は好成绩を贏ち得て學校としての名聲も揚り、地方進展の基礎も鞏固となるのである。

### 女子青年學校の經營 終



# △ 高等學術書

## 高等程度參考書

著者	書名	型	送料	特	價
理第二高校教授 大石喬士	代數	菊	〇・二五〇	<p>著者の權威 本邦數理の府たる仙臺二高の數學主任全部の協力合著にて理論實際の兩方面共完備せる名著。</p> <p>内容特色 ①全冊互に相連關統一し而も各筆者が得意に向つて徹底す。②文部省高校要目に準據す。③理論的著作にして類書中の白眉。④多年の體験を合せ最も了解し易し。⑤最新發達の新數學の部分を挿入す。⑥あらゆる親切を盡し自學自習に便。⑦復習練習問題を多く載せて至便。⑧比較的安價にて學生教科書に最も適す。</p> <p>五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。</p>	〇・二五〇
理第二高校教授 市原哲士	三角法	菊	一・二五〇		〇・二五〇
理第二高校教授 田中保士	座標幾何學	菊	〇・二〇〇		〇・二〇〇
理第二高校教授 榮田博士	微分積分學 上卷	菊	〇・二五〇		〇・二五〇
理第二高校教授 榮田博士	微分積分學 下卷	菊	〇・二五〇		〇・二五〇
理高松商學士 北條時士	商業數學 上卷	菊	〇・二八〇		〇・二八〇
理高松商學士 北條時士	商業數學 下卷	菊	〇・二八〇		〇・二八〇
東京女高師教授 田中増太郎	微分積分網要	菊	〇・二〇〇		〇・二〇〇
東京女高師教授 田中増太郎	解析幾何網要	菊	〇・二五〇		〇・二五〇

新編權威 各專門的權威者が、生命傾倒の新研究の力作を各方面に渉り第一流書が相揃ふて連絡統一す。優秀權威の專門家が教育體験に基かれし著作本文主副の別、索引、脚註、試験問題等懇切紙質極上、製本優美、且堅牢而も比較的廉價。

東洋圖書は現代教育の羅針盤 (臺灣・山本英雄)……讀者の聲





魂の奉仕多謝多謝 (大阪府・鳥川清一氏)……讀者の聲

版十	版五	版五	版十	版十	版六	版十	版四	版五	版五	版十								
文部省督學官 篠原助市	東宮女高師教授 堀七藏	奈良女高師 神戶伊三郎	奈良女高師 神戶伊三郎	第二高校教授 吉井正士	第二高校教授 吉井正士	奈良女高師 西田與四郎	奈良女高師 西田與四郎	第二高校教授 工神門久太郎	文部省囑託 佐藤富治	奈良女高師 岩城準太郎								
理科教授原論	一般理科の教育	ゼネラル一般理科教育法	ゼネラル一般理科教育の實際	高等鑛物・地質學 上卷	高等鑛物・地質學 下卷	日本地理圖集	世界地理圖集	高等平面圖學	工場管理學	近代八大家文								
菊一〇・一六〇	菊一〇・一六〇	菊一〇・一六〇	菊一〇・一六〇	菊一〇・一六〇	菊一〇・一六〇	菊一〇・一六〇	菊一〇・一六〇	菊一〇・一六〇	菊一〇・一六〇	紙色一〇・一六〇								
現代教育界の所高所より理科教授の原論を詳決す。篠原博士は一言一句をも苟くもせぬ。研究者の本質を闡明し、教法と教材を懇説する。且小學校の理科の參考書。	ゼネラルサイエンスの主張を正しく研究し、十餘年の體験に基き懇説する。中學新理科改正要目。に基き眞體を懇説。	ゼネラルサイエンスの一般理科教育の實際案を示す。混沌とシエンスを要を得たときゼネラルサイエンスの最良參考書。	上卷鑛物・下卷地質學に分ち全體を總括的にす。高等學校・大學の教科書。大入學受驗者・高工業專門鑛山專門生徒、文檢參考書。著者は東北大學の覇者にて二高を兼任し、斯道に定評ある專門權威者。	地質構造圖各種分布圖産業圖交通圖等地方別の各種地圖四百餘種を集む。文檢必須。師範專攻科高等學生不可缺書。	世界各地方の自然地理・人文地理に必要なる圖六百餘種一目瞭然たる地圖集。中等高等學生必携地理學習者必須。	著者は斯界の大先輩にて二高の神門として定評の士、本書は邦文圖學の最高級書。工業家必携の書。高等學校教科書文檢受驗者、最新刊の立體圖學は應用圖學を含める本邦唯一の良書。説明懇切圖大且且澤山載せたるは一大特徴。	才力實際に各方面の工場管理法を指導されたる多年の體験的の著述。學生無二の參考書。工場經營者の好伴侶。	奈良女高師文科講義に基き精選敷衍された江戸文檢受驗者の參考書。	小説類・劇類・和歌・連歌・評論隨筆を中心にして室町文學の粹を集む。國文學史・文藝・講讀資料の三標準より選擇す。	待望の高等國文法新講出づ。新研究を新裝して完璧を期したる權威書。舊版を絶版して本書に組立て完成さる。重版亦重版の舊著に優る數等。高女・中學・實業の國文法教科書の高評と共に國文法教育界の第一人者。	著者は今日の口語法を實現されたる功勞者で本等教育の好參考書。國語法研究上不可缺の文獻。高等教育の現代日本の口語法研究上不可缺の文獻。高女・中學・實業の國文法教科書の高評と共に國文法教育界の第一人者。	支那歷代文學の特質と其發達變遷の由來を要領よく簡明に説かれたる名著。國語漢文專攻學生教科書文檢參考書。	支那歷代文學の代表的ものを原文のまま、精選し、適切なる頭註を加へ至便。支那文學の粹を網羅し、文檢受驗者必須。	著者は新文檢委員新書方手本の筆者。本書は書の良史上重要なものを平易に説明せる。天下一品の良書。文檢受驗必携。	文檢にはコツがある。著者の指導せる合格者實に九十名。最小の時間努力での合格秘訣を説く。高女卒業生を高等なる英文讀物の消化に導く。爲に其基礎知識を與へる良教科書。女專高女高等科用に最も適。	從來の型を破り眞に實際教育に苦しむ者の羅針盤となり行詰る教育事實の打開の鍵となる權威書【文部省推薦】	現代教育の重要問題を解決せる體験的の理論實際の合一の新講義。日本教育の樹立は著者永年の研究の結晶。	本書は教育學者渴望の名著にて編輯懇切。文檢必携。須良書。○關外小見出。○人名の原語生歿年。○註釋等獨特懇切を極む。

四

版三	版十	版八	版三	版三	版十	版十	版三	版三	版十	版十
奈良女高師 岩城準太郎	奈良女高師 岩城準太郎	奈良女高師 岩城準太郎	奈良女高師 岩城準太郎	奈良女高師 岩城準太郎	奈良女高師 岩城準太郎	奈良女高師 岩城準太郎	奈良女高師 岩城準太郎	奈良女高師 岩城準太郎	奈良女高師 岩城準太郎	奈良女高師 岩城準太郎
時町文學類選	高等國文法新講【品詞篇】	高等國文法新講【文章篇】	日本口語法【昭和版】	支那文學史	支那文學史	支那文學史	支那文學史	支那文學史	支那文學史	支那文學史
紙色一〇・一六〇	菊一〇・一六〇	菊一〇・一六〇	菊一〇・一六〇	菊一〇・一六〇	菊一〇・一六〇	菊一〇・一六〇	菊一〇・一六〇	菊一〇・一六〇	菊一〇・一六〇	菊一〇・一六〇
小説類・劇類・和歌・連歌・評論隨筆を中心にして室町文學の粹を集む。國文學史・文藝・講讀資料の三標準より選擇す。	待望の高等國文法新講出づ。新研究を新裝して完璧を期したる權威書。舊版を絶版して本書に組立て完成さる。重版亦重版の舊著に優る數等。高女・中學・實業の國文法教科書の高評と共に國文法教育界の第一人者。	著者は今日の口語法を實現されたる功勞者で本等教育の好參考書。國語法研究上不可缺の文獻。高等教育の現代日本の口語法研究上不可缺の文獻。高女・中學・實業の國文法教科書の高評と共に國文法教育界の第一人者。	支那歷代文學の特質と其發達變遷の由來を要領よく簡明に説かれたる名著。國語漢文專攻學生教科書文檢參考書。	支那歷代文學の代表的ものを原文のまま、精選し、適切なる頭註を加へ至便。支那文學の粹を網羅し、文檢受驗者必須。	著者は新文檢委員新書方手本の筆者。本書は書の良史上重要なものを平易に説明せる。天下一品の良書。文檢受驗必携。	文檢にはコツがある。著者の指導せる合格者實に九十名。最小の時間努力での合格秘訣を説く。高女卒業生を高等なる英文讀物の消化に導く。爲に其基礎知識を與へる良教科書。女專高女高等科用に最も適。	從來の型を破り眞に實際教育に苦しむ者の羅針盤となり行詰る教育事實の打開の鍵となる權威書【文部省推薦】	現代教育の重要問題を解決せる體験的の理論實際の合一の新講義。日本教育の樹立は著者永年の研究の結晶。	本書は教育學者渴望の名著にて編輯懇切。文檢必携。須良書。○關外小見出。○人名の原語生歿年。○註釋等獨特懇切を極む。	現代教育の重要問題を解決せる體験的の理論實際の合一の新講義。日本教育の樹立は著者永年の研究の結晶。

書籍豊富にして送本迅速確實に敬意を表す (岡山縣・三木正)……讀者の聲

五

貴社の發行書を種として日々の道に働いてゐます (高知縣・幸川三郎)……讀者の聲

六

版十二	東京高師教授 高階能順	版六十六	東京高師教授 關寛	版四	松江高師教授 伊藤藤	版二十	文檢修身檢定委員 吉田靜	版八	文部省事務官 山崎犀二	版三十	文部省教育調査部 船越源一	版五	京都帝大教授 宮本三郎	版八	東京高師教授 下田次郎	版三	東京高師教授 佐々木秀一				
治文	治文	教育等	教育等	新講	新講	倫理學上 より見たる	小學校 教育行政	公民科 新講	修身教育 原義	日本精神	西洋倫理學 史	倫理學	女子教育 學	女子法制・ 經濟學	女子教育 學	女子倫理 學					
菊	菊	菊	菊	菊	菊	菊	菊	菊	菊	菊	菊	菊	菊	菊	菊	菊					
〇三・五〇	〇三・五〇	〇三・五〇	〇三・五〇	〇三・五〇	〇三・五〇	〇三・五〇	〇三・五〇	〇三・五〇	〇三・五〇	〇三・五〇	〇三・五〇	〇三・五〇	〇三・五〇	〇三・五〇	〇三・五〇	〇三・五〇					
哲學體系と哲學史との融合統一せる本邦唯一の良書に採用される。高等學校・師範專攻科、女子專門校に多量採用される。	本書は高等學校、大學豫科、師範專攻科の教科書として採用された最良書。著者は本邦心理學泰斗として採用された最良書。著者は本邦心理學泰斗として採用された最良書。著者は本邦心理學泰斗として採用された最良書。	高等教育心理學の姉妹篇にて児童心理を詳述し、特に児童心理學の發達を力説す。師範專攻科、保姆科、文檢受檢用書。	著者は倫理學の新權威にて、本書は歸朝後最初の倫理學書である。體験とを重ねられし最新最良の倫理學書である。	人物傳とその學說とを巧に説き合せ殊に現代を詳述せるは本書の特色。高校諸専門教科用書文檢受檢参考書の王。	現代史の明星にて多年の蘊蓄を披瀝されし新學問化す。民族的國民的に成長せし日本精神を學問化する。	修身教育の本質を明かにし道徳教育の關係を述べ我が國の修身教育の眞理性を述ぶる等譽て見ざる修身原義である。	公民各教材の眞髓を把み根本的に精解し且其取法の權威者である。著者は公民科産みの親であり唯一法規其物の正解、立法的精神と理論的根據の詳代教育法規の原論。	指す本邦唯一の教科用書。欄外に赤刷を入れ註釋を施し懇切を極む。	國學院の泰斗下田博士が胎教、家庭教育、幼稚園、學校教育等の新教育を高等女子の爲に懇述されし力作名著。	序説本論に分ち倫理學の意義、正邪善惡、良心高等科教科書に適す。	1衣服の目的 2衣服の原料 3織物の選擇 4精練を系統的に精説す。7洗濯 8仕上の理論と實際を簡明に記す。	簡明直截な美學入門書。著者の講義體験に基き平易簡明に纏めたる良書にて參考繪多數索引付美學教科書に最適。	日本畫鑑賞の基礎を解説し日本畫技法の根本を闡明する。今日まで容易に得られざりし新資料前後五ヶ年に亘る力作。	石橋博士の最高榮譽を得たる名著にて絶版の所を新裝成る。邦文宗教文化史の唯一無二良書。	宗教の本質探究、宗教心の啓發涵養、宗教教育の基礎研究等々のため、現代の宗教心理學を廣く且深く要説する。	君臣各種の系譜を要領良く精練適度に選擇排列し萬人向携帶用とす。現に高師教科書に使用國史研究者の必携書。	音樂界の新權威者たる著者の新力作。1音樂の基礎知識 2和聲 3樂式 4管絃及有鍵樂器 5音樂術語に分ち詳解す。	在來の數字附低音の研究に加ふるに旋律を與へ書文檢受檢者必須書。新著作作曲家音樂學校教科書に採用される。	東西實業道徳研究の粹を集め獨特の見識を以て現代の實業道徳を詳述す。高商其他實業専門學校教科書に最適。	多年多くの著書に精説論述したる豊富な資料を壓縮したエキス。實業補習教員養成所並に師範學校の教科用書。	學級教育根本精神の變遷、補習教育制度の沿革を詳述す。青年教育大衆教育公民教育勸導等迄精説せる文獻である。

版三	奈良女高師教授 石澤吉磨	版四	奈良女高師教授 石澤吉磨	版五	奈良女高師教授 石澤吉磨	版六	奈良女高師教授 石澤吉磨	版八	東京音樂學校教授 眞篠俊雄	版四	東京音樂學校教授 眞篠俊雄	版五	文部省督學官 菰田萬一郎	版六	文部省實業補習 學前主事 岡篤郎	版四	文部省社會教育官 千葉敬止			
高等家 事原論	高等家 事原論	各論事 衣服要 義	各論事 衣服要 義	新美 學概論	新美 學概論	日本畫 と其技 法	日本畫 と其技 法	宗教文 化史	宗教文 化史	系譜精 表	系譜精 表	和聲の 實習問 題	和聲の 實習問 題	實業道 徳精義	實業道 徳精義	實業補 習教育 概論	實業補 習教育 概論	日本實 業補習 教育史	日本實 業補習 教育史	
菊	菊	菊	菊	菊	菊	菊	菊	菊	菊	菊	菊	菊	菊	菊	菊	菊	菊	菊	菊	菊
〇三・八〇	〇三・八〇	〇三・八〇	〇三・八〇	〇三・八〇	〇三・八〇	〇三・八〇	〇三・八〇	〇三・八〇	〇三・八〇	〇三・八〇	〇三・八〇	〇三・八〇	〇三・八〇	〇三・八〇	〇三・八〇	〇三・八〇	〇三・八〇	〇三・八〇	〇三・八〇	〇三・八〇
①緒論 ②住宅論 ③衣服論 ④食物論 ⑤經濟論に分ち説く。女高師女專の教科書参考書として特に力作さる。	①衣服の目的 ②衣服の原料 ③織物の選擇 ④精練を系統的に精説す。7洗濯 8仕上の理論と實際を簡明に記す。	簡明直截な美學入門書。著者の講義體験に基き平易簡明に纏めたる良書にて參考繪多數索引付美學教科書に最適。	日本畫鑑賞の基礎を解説し日本畫技法の根本を闡明する。今日まで容易に得られざりし新資料前後五ヶ年に亘る力作。	石橋博士の最高榮譽を得たる名著にて絶版の所を新裝成る。邦文宗教文化史の唯一無二良書。	宗教の本質探究、宗教心の啓發涵養、宗教教育の基礎研究等々のため、現代の宗教心理學を廣く且深く要説する。	君臣各種の系譜を要領良く精練適度に選擇排列し萬人向携帶用とす。現に高師教科書に使用國史研究者の必携書。	音樂界の新權威者たる著者の新力作。1音樂の基礎知識 2和聲 3樂式 4管絃及有鍵樂器 5音樂術語に分ち詳解す。	在來の數字附低音の研究に加ふるに旋律を與へ書文檢受檢者必須書。新著作作曲家音樂學校教科書に採用される。	東西實業道徳研究の粹を集め獨特の見識を以て現代の實業道徳を詳述す。高商其他實業専門學校教科書に最適。	多年多くの著書に精説論述したる豊富な資料を壓縮したエキス。實業補習教員養成所並に師範學校の教科用書。	學級教育根本精神の變遷、補習教育制度の沿革を詳述す。青年教育大衆教育公民教育勸導等迄精説せる文獻である。									

東洋圖書は學界關心の焦點出版界の第一位 (宮城縣・大友貞行)……讀者の聲

七







教育圖書は貸社が最も權威あるものを發行す(神奈川・鈴木愛三)……讀者の聲

版四十四	版四十	版二十	版十	版四	版四	版六	版六	版八	版八	版五	版六
奈良女高師訓導 山路兵一	奈良女高師訓導 山路兵一	奈良女高師訓導 山路兵一	奈良女高師訓導 山路兵一	文部省 千葉敬止	文部省 千葉敬止	東京女高師訓導 山内俊次	東京高師訓導 小林佐源治	東京高師訓導 小林佐源治	東京高師訓導 小林佐源治	奈良女高師訓導 山路・清水・河野 秋田・岩瀬・池内	奈良女高師訓導 山路・清水・河野 秋田・岩瀬・池内
遊びより 尋四の學級經營	生活 尋五の學級經營	生活 尋六の學級經營	職業 高一・二の學級經營	農村 高一の學級經營	農村 高一の學級經營	作業 複式學級經營	複式 尋一・二の學級經營	複式 尋三・四の學級經營	複式 尋五・六の學級經營	各特別教室の經營	各特別教室の經營
四三・五〇 〇・一六〇	四三・五〇 〇・一六〇	四三・五〇 〇・一六〇	四三・五〇 〇・一六〇	四三・五〇 〇・一六〇	四三・五〇 〇・一六〇	四三・五〇 〇・一六〇	四三・五〇 〇・一六〇	四三・五〇 〇・一六〇	四三・五〇 〇・一六〇	四三・五〇 〇・一六〇	四三・五〇 〇・一六〇
尋三・四は學校内に於ける中堅學級であり其の學級經營は最も肝要である。	尋五・六は學年系統線上の高學年部である。正に實社會の實生活を唯一の生活場學習題材として成長しようとする子供たちである。此の學年をよりよく指導することは義務教育を完成する所以で、本書は其の實際記録である。	高一・二男女各學級の經營に關する理論と實際を説き盡した體験書にて高等小學に於ける職業教育解決の鍵。	高小入學は尋卒の五割五分、中學入學者の三倍である。高小卒業者は各社會に實際的に働く人である。高小は特に農村に發達し其卒業生は農村を背負ひ事實上國家の中堅である。本書は農村高小教育の良指針書。	作業主義教育は兒童の自學自習を本位とす。複式教育の劃期的革新を述べ更生法に及び自覺的考察實現法を説く。	尋一・二の學級經營一尋一・二複式經營法と各科指導法詳示。尋一・二・三の場合を添ふ。尋三・四の學級經營一尋三・四の複式經營法と各科指導法詳示。尋四・五・六の場合を添ふ。尋五・六の學級經營一尋五・六の複式經營法と複式各科指導法詳示。六年單級經營法を添ふ。「特色」1實際的に全問題を解決2統一あること3單級、二級制の複式全部を懇説す。	尋一より高二迄の各學年普通教室經營法を體験的に基き分擔力作されたる名著。教室經營方針其他大小の問題を解決す。	環境整理の観點に立ち1風致園2動物飼育園3教材目録等4經濟等に及ぶ。挿畫一百餘、實際的目録的に詳示す。	新學藝會の經營法を堀主事始め全訓導協力一致して著者はこれに一大力作。具體的實際的に挿畫多數挿入せる良書。	補習學校研究の爲洋行し其實際經營に成功されたる權威者。實業補習教育は愈々內容充實期に入る。本書は其解決書。	「補習學校經營原論」に基きその實際篇として具體的經營案を記述。兩書相俟つて補習學校經營の雙璧をなす。	體験的經營案を記述。兩書相俟つて補習學校經營の雙璧をなす。

版七	版七	版五	版六	版六	版七	版七	版六	版六	版七	版七	版五	版六
奈良女高師前訓導 野中吉光	廣島高師訓導 堀之内恒夫	廣島高師訓導 堀之内恒夫	廣島高師訓導 堀之内恒夫	廣島高師訓導 堀之内恒夫	廣島高師訓導 堀之内恒夫	廣島高師訓導 堀之内恒夫	東京女高師教授 堀中圓三郎	東京女高師教授 堀中圓三郎	文部省實業 補習教育主事 菅野隆	文部省實業 補習教育主事 菅野隆	文部省實業 補習教育主事 菅野隆	愛媛師範教諭 田中圓三郎
修身學習の根本と其の實際	修身教育原論【増訂版】	修身新指導書 卷一	修身新指導書 卷二	修身新指導書 卷三	修身新指導書 卷四	修身新指導書 卷五	學校園の新經營	學校園の新經營	學藝會の新經營	學藝會の新經營	補習學校經營の實際	補習學校經營の實際
四三・五〇 〇・一六〇	四三・五〇 〇・一六〇	四三・五〇 〇・一六〇	四三・五〇 〇・一六〇	四三・五〇 〇・一六〇	四三・五〇 〇・一六〇	四三・五〇 〇・一六〇	四三・五〇 〇・一六〇	四三・五〇 〇・一六〇	四三・五〇 〇・一六〇	四三・五〇 〇・一六〇	四三・五〇 〇・一六〇	四三・五〇 〇・一六〇
根柢を近代の倫理に置き兒童本位に實生活に觸れた修身學習の大記録。惱みに悩んだ實際教育の間に築き上げられた。	例話訓辭格言道歌作法法的教材等の本質を明か實際問題を解決す。最後に取扱の原理と。	著者堀之内先生は明朗玉の如き人格者にて本邦の研究者である。	現代道徳の理論を背景に新修身書編纂方針の根本に於て最も理解ある良法を懇説。特別攝影の寫を以て著者獨特の作法を示しその實際指導法を詳述す。本書一冊よく修身指導上の萬事解決す各卷共教室掲載用美麗なる附録付。	尋三・四は特に苦心せる實際記録。抽象的な示されし良書である。	獨特の資料公開。文部省修身書編纂委員たる著者が長年月瀧著の天下一品的好資料を披瀝する難解のものには閣下便する爲、漢文には譯	環堵整理の観點に立ち1風致園2動物飼育園3教材目録等4經濟等に及ぶ。挿畫一百餘、實際的目録的に詳示す。	新學藝會の經營法を堀主事始め全訓導協力一致して著者はこれに一大力作。具體的實際的に挿畫多數挿入せる良書。	補習學校研究の爲洋行し其實際經營に成功されたる權威者。實業補習教育は愈々內容充實期に入る。本書は其解決書。	「補習學校經營原論」に基きその實際篇として具體的經營案を記述。兩書相俟つて補習學校經營の雙璧をなす。	體験的經營案を記述。兩書相俟つて補習學校經營の雙璧をなす。	體験的經營案を記述。兩書相俟つて補習學校經營の雙璧をなす。	體験的經營案を記述。兩書相俟つて補習學校經營の雙璧をなす。

修身・公民參考書

權威ある著者  
必要不可欠の内容

東洋圖書の書籍は頼母しき良師なり(朝鮮・金在河)……讀者の聲

東洋圖書の書物は安心して讀めます (岡山縣・森崎勉)……讀者の聲

東京高師訓導 吉野島次郎	廣島文理大教授 文清原貞雄	東洋大學教授 關寬之	東京帝大教授 文深作安士文	廣島高師教授 大槻正一	奈良女高師教授 小川正行	栃木師範主事 鈴木善一郎	奈良女高師訓導 野中吉清光	文部省前督學官 松江萬一	東京女高師教授 下田次士郎	東京女高師教授 下田博次士郎	東京高師前訓導 相島龜三郎
修養小學 例話原據と其解説	日本精神概説	兒童宗敎教育	我國體觀念の發達	最近國體明徴	最近訓練原論	現代實踐訓練法	式辭・訓話精義	勅語詔書精義	現代訓實話集 第一卷	現代訓實話集 第二卷	現代國民作法精義
菊 〇・三〇〇	菊 〇・三〇〇	菊 〇・三〇〇	菊 〇・三〇〇	菊 〇・三〇〇	菊 〇・三〇〇	菊 〇・三〇〇	菊 〇・三〇〇	菊 〇・三〇〇	菊 〇・三〇〇	菊 〇・三〇〇	菊 〇・三〇〇
文、難語句注意事項。異説等には註を加へ参考資料を添ふ。修身科以外の訓話にも必須。	我國史の特色を明示し祖國の優秀さを見直させ日本精神を精細明確に把握させ非常時敎育の根本を確立する良書。	兒童生徒の宗敎敎育を如何にすべきかを根本的に解決された名著である。宗敎敎育は修身科最近の重要問題。	我國體觀念の發達を具體的に叙述し國民道徳の根本となる中心問題。	先づ日本精神を哲學上より考察して之を究明し而して國體明徴に及び其の本義を明にして國民の方途を指示する。	洋の東西を通じ訓練の良書なき折柄造詣深き著者が蘊蓄を傾倒せる一大快著。國體訓練を力説せるは實に本書の特色。	現代學校敎育に於ける缺陷方面の訓練に付私の實踐訓練……として著者が其の學校に於て實踐せる具體的實録。	平素の敎授に祝祭日に凡そ學校生活に必要な例資料等を詳示す。	建國の神勅を始め明治大正昭和の勅語詔書全部五十有餘の讀み方、字義、大意を詳述し修身國史國語等と聯關す。	本書は東京女高師の生徒に「其の生涯に於て最も感動した體驗實話」を自筆させて整理し先生の麗筆を以て輕快微妙な名文に書き改めた實話集である。一つ一つが非常に良い話で引用應用の途多く家庭學校圖書館の好讀物である。	昭和新时代的男女長幼の作法を挿繪寫眞百餘を入れ懇切丁寧に詳解す。兒童の作法を添へ作法敎育の良法を説く。	

奈良女高師教授 中草イチネカ	廣島高師前教授 天王子範辰次郎	奈良女高師訓導 岩瀬六郎	大阪市敎育部長 岡篤郎	文部省圖書前監修 官第五高校現敎授 八波則吉	奈良女高師訓導 河野伊三郎	奈良女高師訓導 河野伊三郎	東京女高師訓導 坂本豊	奈良女高師訓導 河野伊三郎	文部省 社會敎育局	奈良女高師教授 岩城準太郎
寫眞に作法實習記録	小學校に於ける公民敎育	實察的 小學校の公民敎育	高等 修身の公民的研究	國語敎育大道	國語敎育新論	國語學習上の諸問題と其の答	追體驗の讀方敎育	心の讀方指導實録	話法と朗讀法	表現と鑑賞
菊 〇・三〇〇	菊 〇・三〇〇	菊 〇・三〇〇	菊 〇・三〇〇	菊 〇・三〇〇	菊 〇・三〇〇	菊 〇・三〇〇	菊 〇・三〇〇	菊 〇・三〇〇	菊 〇・三〇〇	菊 〇・三〇〇
我が國古來より傳はる作法中特に古典的代表たる理法の凡てを精述す。	公民敎育は今や國民敎育普通敎育の重要問題に於て正に實行の機である。本書は著者の各所に於ける體驗を披瀝す。	本書の理論や主張でなく實際的指針であり直ぐ効果を示せる最新研究。各科別に具體的郷土的高等小學に於ける公民敎育は焦眉の重要問題。本書は修身男女の各書に付具體的に要旨要項を参考資料と掲げ詳説す。	國語讀本を編纂し劃時代的功績を残したる著者の最近研究で一段高き觀點より時勢を救ひ重要問題を説ける名著である。根本より派生する大小幾多の問題を明解す。	國語學習上あらゆる問題について多年研究され面に亘る具體事例集である。形式内容取扱上各方面に實地の本道に導く。あらゆる讀方思潮は追體驗の讀方敎育に於ては眞に讀む力を養成し體験實踐により奏効す。	會心の微笑を味ひ得た指導の詳録にて指導案指導經過感想及批評等詳述。他人の名記録迄添へあらゆる敎材に及ぶ。	折口信夫、加藤咄堂、久留島武彦始八先生の共著各種話法朗讀法の本義を明かにし其實際方法を具體的に詳解する。	創作と批評、表現と鑑賞の二者を一に渾融して説いた文學的新作品觀。永年練られた文章であつて國語良參考書。			

常讀は新聞から、學識は東洋圖書から (神奈川縣・相澤義雄)……讀者の聲



貴社の事業は眞、親、新、深、信なり (徳島縣・岡谷永一)……讀者の聲

版五	版六	版七	版八	版九	版十	版十一	版十二	版十三	版十四	版十五	版十六	版十七	版十八	版十九	版二十
木枝 増一	東京高師教授 法政大學教授 小林好日	東京高師前訓導 馬淵 冷佑	東京高師前訓導 馬淵 冷佑	東京高師前訓導 馬淵 冷佑	東京高師前訓導 馬淵 冷佑	東京高師前訓導 馬淵 冷佑	東京高師前訓導 馬淵 冷佑	東京高師前訓導 馬淵 冷佑	東京高師前訓導 馬淵 冷佑	東京高師前訓導 馬淵 冷佑	東京高師前訓導 馬淵 冷佑	東京高師前訓導 馬淵 冷佑	東京高師前訓導 馬淵 冷佑	東京高師前訓導 馬淵 冷佑	東京高師前訓導 馬淵 冷佑
臨時國語 調査會發表	國語 資料	小學 讀方	小學 讀方	小學 讀方	小學 讀方	小學 讀方	小學 讀方	小學 讀方	小學 讀方	小學 讀方	小學 讀方	小學 讀方	小學 讀方	小學 讀方	小學 讀方
漢字 漢名 整理案	現代 詩鑑賞	教育書	教育書	教育書	教育書	教育書	教育書	教育書	教育書	教育書	教育書	教育書	教育書	教育書	教育書
菊 〇・二〇〇	菊 〇・二〇〇	菊 〇・二五〇	菊 〇・二五〇	菊 〇・二五〇	菊 〇・二五〇	菊 〇・二五〇	菊 〇・二五〇	菊 〇・二五〇	菊 〇・二五〇	菊 〇・二五〇	菊 〇・二五〇	菊 〇・二五〇	菊 〇・二五〇	菊 〇・二五〇	菊 〇・二五〇
文部省臨時國語調査會が發表したるもの、國語研究者の女として至便至寶書。教師、高師文科生、高師文科生の必携書。	文學は人生の表現批判省察である。詩の味ひ方を研究したる良書。民謡、短歌等現代詩の諸方面	馬淵氏は新讀本精選の第一人者。新讀本に就ては國語教育實際家中唯一人の特別精通の權威者で永年の蘊蓄を悉く本書に傾倒せる卓絶の大力作である。	新讀本は必ず本書から。最も確かな最も精しい最も良い難問皆解決の新讀本の解説原論。1編纂方針2教材機構圖精解3各教材を日本精神に結合し教法を精説4指導細目掲載(模範教授細目)5朗讀法を一層正確に實際的に懇説6補充文7重要な素材とその出典を詳示する等天下	一品の寶典である。	機構圖は著者の創案にて特製五色刷にて新讀本研究並に教材研究に至便。	大附録。卷一片假名表、卷二漢字表、卷三平假名表漢字表、卷四漢字表讀本題材表、卷五、卷六、卷七、卷八、卷九、漢字表各二枚宛添ふ。	附録漢字表は二枚共模造紙全紙に印刷して教室の後方よりも見易くし書風は書方手本と同風とす。従つて全部讀本漢字の手本となる。	著者は全国各地の招聘により各種の研究會に臨み講習講演に専らなく又新讀本の實地授業の指導をなす。依て其の説く所地方的實狀に即す。	改正新讀本につき最も特色ある具體的指導書にて面目一新して卓絶す。						

版七	版六	版六	版六	版六	版六	版六	版六	版六	版六	版六	版六	版六	版六	版六	版六
奈良女高師訓導 河野伊三郎	奈良女高師訓導 河野伊三郎	奈良女高師訓導 河野伊三郎	奈良女高師訓導 河野伊三郎	奈良女高師訓導 河野伊三郎	奈良女高師訓導 河野伊三郎	奈良女高師訓導 河野伊三郎	奈良女高師訓導 河野伊三郎	奈良女高師訓導 河野伊三郎	奈良女高師訓導 河野伊三郎	奈良女高師訓導 河野伊三郎	奈良女高師訓導 河野伊三郎	奈良女高師訓導 河野伊三郎	奈良女高師訓導 河野伊三郎	奈良女高師訓導 河野伊三郎	奈良女高師訓導 河野伊三郎
小學國語讀本指導精案	小學國語讀本指導精案	小學國語讀本指導精案	小學國語讀本指導精案	小學國語讀本指導精案	小學國語讀本指導精案	小學國語讀本指導精案	小學國語讀本指導精案	小學國語讀本指導精案	小學國語讀本指導精案	小學國語讀本指導精案	小學國語讀本指導精案	小學國語讀本指導精案	小學國語讀本指導精案	小學國語讀本指導精案	小學國語讀本指導精案
菊 〇・二五〇	菊 〇・二五〇	菊 〇・二五〇	菊 〇・二五〇	菊 〇・二五〇	菊 〇・二五〇	菊 〇・二五〇	菊 〇・二五〇	菊 〇・二五〇	菊 〇・二五〇	菊 〇・二五〇	菊 〇・二五〇	菊 〇・二五〇	菊 〇・二五〇	菊 〇・二五〇	菊 〇・二五〇
教材は各方面から教法は各種の場合を實際的具體的に示し懇切に記述す。大附録片假名表平假名表讀本漢字表は未曾有の特別奉仕にて其儘書方手本とも成り至便。文章より入る初歩教授の真髓披露に努め、其の他教法精説、指導詳解を本位とし、あらゆる問題に觸れ懇説す。學習の要點と指導の方案詳解國語讀本の各課に付教材の批判吟味より指導方面の實際迄懇切に詳述す。新文章觀たる教材觀照を重視す。從來の日常的時間配當的類書と面目を異にしたる眞の新讀本指導精案である。	讀本教育は即ち眞の人間教育。著者は我國語の實際教育界の權威で、常に讀方は文章を透して其の中に吾等人間の心界に起る現象を見出し獲得せしめる迄に至らねばならぬとさる。本書は其の見地より教材解説を最も重視し懇説す。教師自身の文章觀照養成指導書。本書は又其の意匠より指導者たる教師の文章觀照養成の唯一の良師である。	本書の主眼點 現代文學の上に立ち教材の要點を「本課學習の要點」の項下に詳述し、文の教育價值から見て教材美と人間性との融合を説き、或は人間としての情趣生活を高調し感發生活を稱へて教材に對する指導者の文章觀照見識を高めること努力した。	指導法の案出 教材の取扱は「學習指導方法」の項下に指導者が自ら適切なる方法を案出するやう或は教材により或は児童によりて工夫し創作する餘地あるやうに記述す。	尋常科の十二巻に次ぎ更に高等科の四巻につき一層探究詳述されたる良書にて懇切丁寧而も要領を得易き指導書。											

百獸の王は獅子にして百獸の王は東洋圖書の書籍たるの感あり (新潟縣・中野正榮)……讀者の聲 一九

東洋圖書は教育界に缺くべからざる會社なり、感謝に堪えず (臺灣・施淡松)……讀者の聲

二〇

版六	版七	版六	版七	版五	版五	版三	版三	版四	版四
奈良女高師訓導 河野伊三郎	奈良女高師訓導 河野伊三郎	奈良女高師訓導 河野伊三郎	奈良女高師訓導 河野伊三郎	奈良女高師訓導 山路兵一	奈良女高師訓導 河野伊三郎	奈良女高師訓導 秋田喜三郎	奈良女高師訓導 秋田喜三郎	奈良女高師訓導 秋田喜三郎	奈良女高師訓導 秋田喜三郎
綴方學習上の諸問題 と其 解答	綴方學習上の諸問題 と其 解答	綴方學習上の諸問題 と其 解答	綴方學習上の諸問題 と其 解答	綴方學習上の諸問題 と其 解答	綴方學習上の諸問題 と其 解答	綴方學習上の諸問題 と其 解答	綴方學習上の諸問題 と其 解答	綴方學習上の諸問題 と其 解答	綴方學習上の諸問題 と其 解答
菊 二〇・一〇	菊 二〇・一〇	菊 二〇・一〇	菊 二〇・一〇	菊 二〇・一〇	菊 二〇・一〇	菊 二〇・一〇	菊 二〇・一〇	菊 二〇・一〇	菊 二〇・一〇

本書の完成と讀書趣味の啓培とを二大眼目として、新時代の文章観の上に立つて教材を解説し、教法を説く。各課毎に語句文章の形式方面並に教材の研究より指導方案の實際まで懇述する。此の種の類本多しと雖も、具體的実践的の知り得るは本書のみ高等小綴方學習法の課題法、系統案、自由選題法等の變遷を重ね、生活表現を基調とするに至つた過程を詳述し、實際指導す。

綴方學習指導上の難題は悉く擧げて一々懇切に解決する。二十年の教壇生活間に蒐集された實際問題の解決。

理論篇たる「綴方新學習法」の實際篇で尋一より尋六まで完成す。現時綴方教育の基調である生活表現の綴方の實際指導の新方案を詳示す。即ち從來の缺陷たる外部的規定の拘束を解除し、純眞なる態度を以て表現し得る内部的指導の方案を具現したるものにて從來の指導方案たる教授細目又は系統案或は指導體系に代るべきものである。

學習課程案には學習要項・環境・參考文題等を掲げ且多くの參考文例を示す尋一より尋六に至る各巻とも綴方學習課程、綴方學習指導の要諦、綴方學習指導の實際の三篇に分ち詳説す。

兒童の文に基いて指導したる實際記録は教壇上唯一無二の良師友である。

版一	版九	版八	版五	版五	版三	版三	版三	版三	版三
專檢・文檢合格者 小林忠雄	愛知縣津島高女教諭 鈴木羽村	奈良女高師訓導 岩瀬六郎	東京青山師範教諭 齊藏梅雄	奈良女高師校長 横山榮次先生	高塚竹堂先生高弟 三宅弼	甲子書道會總務 竹田津永安	甲子書道會總務 竹田津永安	甲子書道會總務 竹田津永安	甲子書道會總務 竹田津永安
文檢國語科精義	文檢習字科精義	書方學習原論	硬毛新書方教育精義	硬毛新しい書方學習法	小書方手本新指導書	小書方手本新指導書	小書方手本新指導書	小書方手本新指導書	小書方手本新指導書
菊 二〇・一〇	菊 二〇・一〇	菊 二〇・一〇	菊 二〇・一〇	菊 二〇・一〇	菊 二〇・一〇	菊 二〇・一〇	菊 二〇・一〇	菊 二〇・一〇	菊 二〇・一〇

數多き類書の全長所を網羅し、更に著者が小學卒業後、早くも專檢、續いて文檢を突破した獨特の文檢現を披露す。

文檢には要領とコツがある。著者の指導した會員から六十餘名の合格者を出した。本書は最も能率的な合格の鍵。

著者永年書道を研究し且實際指導したる體驗に基き現時の問題たる鉛筆、ペン、毛筆の三種を具體的に詳説す。

深き體驗と確たる識見を以て自ら體系付けられたる硬毛新書方教育を詳説す。統一あり而も直ちに實行し得る良書。

硬毛併用は新時代の要求で、之が書方學習革新の第一使命。書方練習時間内に多くの効果を擧ぐ之が第二使命。書方練習時間内に多くの効果を擧ぐ之が第二使命。書方練習時間内に多くの効果を擧ぐ之が第二使命。

本書は乙種手本の指導原論にて乙種手本筆者高塚竹堂先生に指導を受け懇説す。特製教材主眼點一覽表を添ふ。

新書方手本は本の體裁・教材・書風等劃時代的の一大革新をなした。従つて之が取扱法も亦大革命を必要とす。

本書は最も信頼すべきその指導原論。本書一冊よく教材・書法・指導法等のあらゆる難問皆解決の良書にて1書道を背景とし2書道の本質に基き3手本編纂方針に則り4手本筆者の用筆法結構法書道觀等を研究し5之に著者多年の實地指導の體驗を加へて最も具體的最も實際的に解説す。6且手本一頁分宛を掲げ之に骨法筆順用筆結構法等を記入したるものを挿入す。これ本書創始の妙案である。7實際活用のために指導細目を具體的に示し8教授者に必要なる學書法を述べ等最良の參考。

貴社の多年教育界に貢献せる功績に對し深甚の謝意を表します (山梨縣・深山淳)……讀者の聲 二一

教育圖書に於ては東洋圖書が斷然地方の人氣をリードして居る (徳島縣・佐々善作)……讀者の聲 二二

版十	版十	版九十	版九十	版九十	版九十	版九十	版八十	版八十	版八十	版五十	版五	版六	版六	
甲子書道會總務 竹田津永安	奈良女高師訓導 河野伊三郎	奈良女高師訓導 河野伊三郎	奈良女高師訓導 河野伊三郎	奈良女高師訓導 河野伊三郎	奈良女高師訓導 河野伊三郎	奈良女高師訓導 河野伊三郎	甲子書道會總務 竹田津永安	甲子書道會總務 竹田津永安	甲子書道會總務 竹田津永安	成城小學校訓導 奥野庄太郎	成城小學校訓導 奥野庄太郎	東京女高師訓導 岩下吉術	東京女高師訓導 岩下吉術	
小學書方手本新指導書 甲種用 菊三・八〇	小學書方手本指導精案 菊一甲種用 菊一・五〇	小學書方手本指導精案 菊二上甲種用 菊二・三〇	小學書方手本指導精案 菊二下甲種用 菊二・二〇	小學書方手本指導精案 菊三上甲種用 菊三・一〇	小學書方手本指導精案 菊三下甲種用 菊三・〇〇	小學書方手本指導精案 菊三下甲種併用 菊三・二〇	高等書方手本新指導書 菊一男 菊一・三〇	高等書方手本新指導書 菊二男 菊二・三〇	小學書方手本新指導書 菊女併用 菊一・三〇	鉛筆書方練習帖 菊二用 菊二・二〇	話方教育の原理と實際 菊三・五〇	話方教育の原理と實際 菊三・五〇	聽方教育の原理と實際 菊三・五〇	
大附録。書方指導掛圖、教室揭示教授用、新聞二枚大、手本と同數各十五枚、新案折疊式箱入安價と至便に驚異の大歡迎を受く。零五上には基本點畫と鑑賞教材を加へ愈々完成を期す。	著者は國語三分野の讀方級方及び書方の各に造詣深く殊に書方は定評の權威にて本書はその新力作である。	書道専門家の説を巧に採り入れ而も初等教育的見地に立つて之を活かし 童の書方涵養に重點を置く教育の最新最良の新指導書である。	本書 總論と各論とに分ち總論に於ては書方上の問題特に教授法を述べ各論に於ては指導上の精案を具述す。	甲種手本を主にして乙種手本を併述し徹底的に解説す。尙全十五頁に渉りて解説入の甲種手本解説頁と乙種手本解説頁の各二枚を添へ、兩者比較研究上唯一無二の新良書。	國定手本筆者鈴木翠軒、比田井小翠の兩先生並手本主任官各務監修官より直接教を受け、教材の正確精説を期し、教法の實際的懇説を旨とせる良書。第一篇總説、第二篇細説、第三篇餘説に分ち男子用を主とし女子用を副とす。	1. 基本・練習・應用文字とを別つ。 2. 手本文字、渡書文字を青色となす。 3. 隨意練習、視寫、聽寫自運欄を設く。	話方及び聽方の研究書は從來絶無なりしが茲に穩健なる實際的の參考を示さる。著者は定評ある研究家。初めて體系づけられ初等教育界を裨益し昭和教育史に残さるべき特色ある良書。	各學年別、各學期別、各題目別に精述す。作業主義の實際的指導案にて尋一より尋六までの實際的指導案を公開さる。	メイトル法、實驗實測の取扱、代數的取扱等々、新方面まで開拓す。	各學年の教材配當に廣く外國の例を採り算術遊戯の諸種を引例した新書にて算術參考書中類例なき新種である。	算術教育に要する設備の新研究にて徒に金をかける意味に非ず。活用本位の眞設備を示し直ちに算術教材の系統を明かにし學年別に算術學習の診斷と對策とを説く。漸明的直觀的作業的取扱を各方面より考察す。	算術教育界の權威清水先生の獨創的體験的研究に導き導き四以上の指導法學習發展の實際自發學習指導を解決す。	著者自身の實地授業を主に全國參觀指導を副に各學年各教材に涉る實際研究指導案指導經過批評の實際感想等詳記せる良書。	新算術の本山奈良女高師に於て新算術の本尊として二十餘年來研究體験の資料豐富なる新指導書である。1. 適切な教法 2. 具體的な活用補材の満載 3. 各章末に總括と考査案を特設 4. 指導細目を具體的に掲載 5. 各教材に毎時刻の指導精案を満載す 6. 教師用書の要項全部を織込み完成 7. 新算術書の問題を解決し得る様にし難行苦行の血と汗の滲む魂の指導案。

算術參考書

版五	版二十	版二十	版六	版六	版十	版十	版十	版十
東京高師教授 佐藤良一郎	東京高師訓導 岩下吉術	東京高師訓導 岩下吉術	東京女高師訓導 岩下吉術	東京女高師訓導 岩下吉術	東京女高師訓導 岩下吉術	東京女高師訓導 岩下吉術	東京女高師訓導 岩下吉術	東京女高師訓導 岩下吉術
算術教育新論 菊三・三〇	算術學習指導法 菊四・八〇	算術學習指導法 菊四・八〇	算術學習の設備と活用 菊三・八〇	算術學習の設備と活用 菊三・八〇	算術學習の設備と活用 菊三・八〇	算術學習の設備と活用 菊三・八〇	算術學習の設備と活用 菊三・八〇	算術學習の設備と活用 菊三・八〇
最近十年算術研究授業實録 菊三・八〇	算術學習の診斷と其對策 菊三・八〇	算術學習の診斷と其對策 菊三・八〇	算術學習の設備と活用 菊三・八〇	算術學習の設備と活用 菊三・八〇	算術學習の設備と活用 菊三・八〇	算術學習の設備と活用 菊三・八〇	算術學習の設備と活用 菊三・八〇	算術學習の設備と活用 菊三・八〇
算術新指導書 菊二上 菊二・五〇	算術新指導書 菊二下 菊二・三〇	算術新指導書 菊二上 菊二・五〇	算術新指導書 菊二下 菊二・三〇	算術新指導書 菊二上 菊二・五〇	算術新指導書 菊二下 菊二・三〇	算術新指導書 菊二上 菊二・五〇	算術新指導書 菊二下 菊二・三〇	算術新指導書 菊二上 菊二・五〇

教育上の證明書として東洋圖書のあることを非常に力強く思ふ (兵庫縣・上田章子)……讀者の聲 二三



御社は常に帝國教育の向ふべき方向の新たな指針書を發行され感謝にたえず (秋田縣・高橋芳) 二六

版五	版八	版八	版八	版八	版八	版八	版八	版五
清水 甚吉	奈良女高師訓導	清水 甚吉	清水 甚吉	清水 甚吉	清水 甚吉	清水 甚吉	清水 甚吉	奈良女高師訓導
地理學習指導法精義	新地理教育	新地理指導の實際	新地理指導の實際	新地理指導の實際	新地理指導の實際	新地理指導の實際	新地理指導の實際	地理學習指導法精義
〇・一〇〇	〇・一〇〇	〇・一〇〇	〇・一〇〇	〇・一〇〇	〇・一〇〇	〇・一〇〇	〇・一〇〇	〇・一〇〇
著者が二十餘年間の専ら研究されたる實験を經てし最近研究の學習法を緯とし、その藪蓄を披瀝し盡されたる名著。	尋四に至る迄の地理教育を考へ其具體案を示さず五以上の正科の準備を詳述。	尋五用は昭和十年改訂書につき尋六用は昭和十一年改訂書につき(一)教材の主眼(二)環境の整理(三)學習事項の解説1教材の説明と參考資料2挿畫の解説3地理的用語の解説4附圖との連絡(四)學習問題に分ちて詳解精述す。	各課に於ける要項を指導精神・學習環境・指導要項の教材要説・挿畫の説明と取り入る2地理的用語の1最新の圖表統計を多く取り入る2地理的用語の3自然地理と人文地理の關係の比較材料を豊富に4自然地理の人文地理の關係の比較材料を豊富に5通論學習態度の建設の關係につき特に意圖す。	先生が多年實際に指導せられた體験の結晶。加ふるに自然科學の本質を明かにし科學學習の寶庫を開かせる。	理論と實際を巧に取合せた穩健着實の著書。月は本問題の長所を説き、實際問題のみを力説せる。	理科教育を徹底させるために眞の教育的設備を詳細に活用し本位に課費を非ず特別教室、普通教室設備の良參考。	小學校の各種教材につき林伯爵親しく指導の下に十餘年間百餘回の理科教授の實際の記録。尋四尋五尋六高等一二のあらゆる教材に互り模範的指導記録。第一指導案、第二教授の經過、第三質問解答、第四批評の順に詳録す。	著者が二十餘年間の専ら研究されたる實験を經てし最近研究の學習法を緯とし、その藪蓄を披瀝し盡されたる名著。

### 理科參考書

版五	版六	版五	版一十	版三十	版三十	版三十	版三十	版三十
堀林 七博太郎	堀林 七博太郎	桑原 理助	大浦 茂樹	奈良女高師訓導	奈良女高師訓導	奈良女高師訓導	奈良女高師訓導	奈良女高師訓導
理科指導壹百回 下巻	理科指導壹百回 上巻	理科教育の設備と活用	理科學習指導實録	理科學習原論	理科學習指導實録	理科指導壹百回 下巻	理科指導壹百回 上巻	理科指導壹百回 下巻
菊 〇・三〇〇	菊 〇・三〇〇	吳 〇・二八〇	吳 〇・三〇〇	菊 〇・三〇〇	菊 〇・三〇〇	菊 〇・三〇〇	菊 〇・三〇〇	菊 〇・三〇〇
著者は二十餘年間の専ら研究されたる實験を經てし最近研究の學習法を緯とし、その藪蓄を披瀝し盡されたる名著。	著者は二十餘年間の専ら研究されたる實験を經てし最近研究の學習法を緯とし、その藪蓄を披瀝し盡されたる名著。	先生が多年實際に指導せられた體験の結晶。加ふるに自然科學の本質を明かにし科學學習の寶庫を開かせる。	理論と實際を巧に取合せた穩健着實の著書。月は本問題の長所を説き、實際問題のみを力説せる。	理科教育を徹底させるために眞の教育的設備を詳細に活用し本位に課費を非ず特別教室、普通教室設備の良參考。	小學校の各種教材につき林伯爵親しく指導の下に十餘年間百餘回の理科教授の實際の記録。尋四尋五尋六高等一二のあらゆる教材に互り模範的指導記録。第一指導案、第二教授の經過、第三質問解答、第四批評の順に詳録す。	先生が多年實際に指導せられた體験の結晶。加ふるに自然科學の本質を明かにし科學學習の寶庫を開かせる。	理論と實際を巧に取合せた穩健着實の著書。月は本問題の長所を説き、實際問題のみを力説せる。	理科教育を徹底させるために眞の教育的設備を詳細に活用し本位に課費を非ず特別教室、普通教室設備の良參考。

版六	版七	版六	版八	版八	版五	版四	版七	版六	版五
中川 逢吉	官道 馨	奈良女高師訓導	奈良女高師訓導	奈良女高師訓導	奈良女高師訓導	奈良女高師訓導	奈良女高師訓導	奈良女高師訓導	奈良女高師訓導
生物學史物語	化學史物語	理科學習各論 尋六	理科學習各論 尋五	理科學習各論 尋四	理科學習各論 尋四	理科學習各論 尋四	理科學習各論 尋四	理科學習各論 尋四	理科學習各論 尋四
菊 〇・一〇〇	菊 〇・一〇〇	菊 〇・一〇〇	菊 〇・一〇〇	菊 〇・一〇〇	菊 〇・一〇〇	菊 〇・一〇〇	菊 〇・一〇〇	菊 〇・一〇〇	菊 〇・一〇〇
著者は二十餘年間の専ら研究されたる實験を經てし最近研究の學習法を緯とし、その藪蓄を披瀝し盡されたる名著。	著者は二十餘年間の専ら研究されたる實験を經てし最近研究の學習法を緯とし、その藪蓄を披瀝し盡されたる名著。	著者は二十餘年間の専ら研究されたる實験を經てし最近研究の學習法を緯とし、その藪蓄を披瀝し盡されたる名著。	著者は二十餘年間の専ら研究されたる實験を經てし最近研究の學習法を緯とし、その藪蓄を披瀝し盡されたる名著。	著者は二十餘年間の専ら研究されたる實験を經てし最近研究の學習法を緯とし、その藪蓄を披瀝し盡されたる名著。	著者は二十餘年間の専ら研究されたる實験を經てし最近研究の學習法を緯とし、その藪蓄を披瀝し盡されたる名著。	著者は二十餘年間の専ら研究されたる實験を經てし最近研究の學習法を緯とし、その藪蓄を披瀝し盡されたる名著。	著者は二十餘年間の専ら研究されたる實験を經てし最近研究の學習法を緯とし、その藪蓄を披瀝し盡されたる名著。	著者は二十餘年間の専ら研究されたる實験を經てし最近研究の學習法を緯とし、その藪蓄を披瀝し盡されたる名著。	著者は二十餘年間の専ら研究されたる實験を經てし最近研究の學習法を緯とし、その藪蓄を披瀝し盡されたる名著。

### 音楽・體操參考書

最新教育思潮が御發行圖書に窺はれ購讀の我々に非常に有益です(富山縣・河合直治)……讀者の聲 二七

教育關係の圖書は貴社が最も權威あるものを發行する (神奈川縣・鈴木愛三)……讀者の聲

版八十	東京高師訓導 青柳善吾	音樂教育概論	菊 〇三・八〇	先生多年の研究の唱歌教授並に音樂教育に關する意見は悉く本書に收めらる。本書は先生の唯一の力作名著である。
版七十	奈良女高師 幾尾訓導	私の音樂教育	菊 〇三・八〇	私の唱歌教授出で、茲に十年その姉妹篇にして、待望の現代音樂原論。音樂隆昌時代に於ける音樂の最良教育書。
版一五	奈良女高師 幾尾訓導	私の唱歌教授	菊 〇三・八〇	唱歌教授界の第一人者たる先生の力作にて、創始の本譜教授法、タクト法、作曲指導法等寫眞を以て悉く説明し盡さる。
版四	奈良女高師 幾尾訓導	私の基本練習	菊 〇三・八〇	唱歌教育三十年の最大力點を闡明する。前者私の唱歌教授、私の音樂教育の姉妹篇。唱歌力の陶治、唱歌力涵養の鍵。
版新	奈良女高師 幾尾訓導	私の讀譜力養成法	菊 〇三・八〇	著者は讀譜力養成に獨特の力量を有せらる。本書は其の蘊蓄を披瀝されし體驗書、唱歌指導上唯一の參考。
版五	東京音樂學校教授 高折宮次	ピアノ新教本	菊 〇三・八〇	パイエル其他多數の物より其長所を巧みに採入れ、段階的に排列せる良著。
版三	東京音樂學校教授 草川宣俊	オルガン新教本	菊 〇三・八〇	本書の特色は祝祭日の歌を織込む。2マーチ採用、3各國々歌挿入。4大音樂家の肖像を添ふ。5無聲鍵盤を添ふ。
版三	奈良女高師 幾尾訓導	旋律作曲法	菊 〇三・八〇	普通作曲法の入門書として誰人にも分り易く著ひはされたる初等作曲法、手引、曲の作り方、味伴奏は音樂の普及音樂の進歩と共に一般的となつた。本書はその入門書にて誰もが試み得るやう詳示解説す。
版十	奈良女高師 幾尾訓導	伴奏の附け方	菊 〇三・八〇	一名本譜ヨメルと稱し、本譜の讀譜力、記譜力養成に此上なき良カード。幾尾式唱歌教授の秘訣は本書にある。
版三	奈良女高師 幾尾訓導	練習幾尾式カード	菊 〇三・八〇	兒童作曲を載せて先生の手所とす。兒童作曲模範集を載す。本譜練習幾尾式カードを全部本譜に譯して掲載。
版三	奈良女高師 幾尾訓導	新高等唱歌指導書	菊 〇三・八〇	新高等小學唱歌の編纂趣旨を闡明し教材選擇の實際的取扱指導書。

版七	東京高師訓導 齋藤薰雄	最近體育諸問題の解決	菊 〇三・八〇	眞の日本體育建設を力説し其の方法を説き適切なる實際的現代體育を懇説す。新體操諸問題を闡明し活用案を具述す。
版重	奈良女高師訓導 川口英明	體育學習の實際	菊 〇三・八〇	舊來の體操を體育と改稱して其の範圍を擴め受動的の教授を發動的の學習となし、劃一的のものを個別的となす。
版新	官田覺造	十二年體操教授要目	菊 〇三・八〇	1 要目改正の重點、2 全教材の系統的項目的分類表、3 始終の姿勢、4 全部の號令、6 小學校の各學年別教材配當表を加ふ。
版新	官田覺造	改正學校體操	菊 〇三・八〇	改正體操要目に精通せる第一人者魂の力作。獨切第一の良心的名著。
版新	官田覺造	課程精説 改正學校遊戯及競技	菊 〇三・八〇	改正學校體操と姉妹篇にて獨特新工夫の挿畫三〇〇餘挿入。各種遊戯用全曲譜滿載絶對無比。
版五	官田覺造	倒立轉廻運動	菊 〇三・八〇	新體操の妙所なる巧敏運動の粹を集む。體操新要目の最難材料唯一の指針書、指導過程を圖解し初心者にも分り易くす。
版新	官田覺造	尋一の體育經營	菊 〇三・八〇	尋一體操最新最良の指導書。新教授要目の活用指針。官田先生全魂傾倒の實際書。
版新	高野弘三郎	小劍道指導書	菊 〇三・八〇	劍聖高野大先生が七十年の體験を披瀝されし少年劍道唯一の指南書にて百十餘の挿畫を入れ懇説されし無二の良書。
版四	奈良女高師 長田博	幼稚園 說話遊戯	菊 〇三・八〇	兒童の見た物や動物や事柄を必要に応じて動作を載せ、劇的發展能力向上に資す。實際篇四十を載せ、劇的發展能力向上に資す。實際篇四十
版新	三浦ひろ	女性體育とダンス	菊 〇三・八〇	著者は改正體操要目の前委員、文檢前委員にて女性の純化にありと力説さる。ダンスの生命は感情の純化にありと力説さる。
版一十	奈良女高師助教授 御内田政重	教育ダンス	菊 〇三・八〇	尋一から高女まで五十七種、寫眞版百餘を挿入最も精進の良書。樂譜三十餘種を添へ類書中
版重	奈良女高師教師 新井つた	體育としての薙刀	菊 〇三・八〇	長くも其の眞髓を記録、百五十餘の寫眞を用ひ開祖が其の眞髓を記録、百五十餘の寫眞を用ひ會得し易く記述す。

どの書を見ても東洋圖書の主義方針が遺憾なく發揮されてゐる (滋賀縣・鹽見元)……讀者の聲 二九

やすくてよいのが東洋圖書（愛媛縣・大河内瑞學）……讀者の聲

圖書・手工參考書

Table with columns for book title, author, and price. Includes titles like '東京高師教授 文檢試験委員 板倉贊治' and '奈良女高師 會根 榮'.

成るべき者 必要不可欠の内容

Table with columns for book title, author, and price. Includes titles like '奈良女高師 廣井 曹一' and '東京高師 廣井 曹一'.

貴社の良書は春風の如し讀者萬民生育す（秋田縣・戸島勝治）……讀者の聲

貴社並びに貴社發行書には非常な恩恵を受けております (滋賀縣・岡松良平)……讀者の聲

裁縫・家事參考書

版二十	版六	版七	版一十	刊新	版一十	編版十	版七十	版六十	版九十	版五十
奈良女高師前教授 錦織 竹香	奈良女高師訓導 中澤 かすめ	廣島高師訓導 石田 ひろ	東京女高師訓導 松尾 まきを	奈良女高師訓導 酒井 のぶ子	奈良女高師教授 米澤外四先生	奈良女高師教授 米澤外四先生	奈良女高師教授 米澤外四先生	奈良女高師教授 米澤外四先生	奈良女高師教授 米澤外四先生	奈良女高師教授 米澤外四先生
今古	に依る	裁縫教育の諸問題	裁縫學習の根本と其實際	裁縫學習の根本と其實際	裁縫精義	裁縫精義	裁縫精義	裁縫精義	裁縫精義	裁縫精義
菊 〇三・三〇	菊 〇三・三〇	菊 〇三・三〇	菊 〇三・三〇	菊 〇三・三〇	菊 〇三・三〇	菊 〇三・三〇	菊 〇三・三〇	菊 〇三・三〇	菊 〇三・三〇	菊 〇三・三〇
多量の挿畫を以て我が古今男女の服装を研究したる増訂版の刊行	整理の技に力作する。多年裁縫指導に苦しみ體驗を重んじに力作する。	①裁縫教育改善の諸問題②裁縫指導實際の諸問題③裁縫設備の諸問題④裁縫指導者⑤環境	裁縫新教育法の実験的指針で、新しき學習指導の原理及び方法と兒童心理に適合したる教材配列とは本書の特色。	裁縫に基く最新の裁縫學習指導原論。局部でな體的に全體論的指針。	裁縫に基く最新の裁縫學習指導原論。局部でな體的に全體論的指針。	裁縫に基く最新の裁縫學習指導原論。局部でな體的に全體論的指針。	裁縫に基く最新の裁縫學習指導原論。局部でな體的に全體論的指針。	裁縫に基く最新の裁縫學習指導原論。局部でな體的に全體論的指針。	裁縫に基く最新の裁縫學習指導原論。局部でな體的に全體論的指針。	裁縫に基く最新の裁縫學習指導原論。局部でな體的に全體論的指針。

權威ある著者  
選された内容  
必要不可欠の良書

版八	版十二	版四	版八	版八	版十	版五
奈良女高師教授 石澤 吉磨	奈良女高師教授 石澤 吉磨	奈良女高師訓導 溝上 泰子	奈良女高師訓導 溝上 泰子	奈良女高師訓導 溝上 泰子	奈良女高師訓導 溝上 泰子	奈良女高師教授 須山 法香齋
家事新指導法 第二學年用	家事新指導法 第一學年用	私の家事教育	家事指導の實際	家事學習上の諸問題	花の活け方	入り花の活け方
菊 〇三・八〇	菊 〇三・八〇	菊 〇三・八〇	菊 〇三・八〇	菊 〇三・八〇	菊 〇三・八〇	菊 〇三・八〇
新編定家教科書の最新指導書。1.學習指導論を述べ2.各教材の教材觀・目的・主眼點・指導準備・指導法・參考事項等實際的に解決指示す。本邦權威者の力作にて断然卓絶せる新良書。	農村に生れ農村に育ち、而も深く體驗の家事教育實際記。理論篇・實際篇に別ち農村家事科の方途と方案を明示す。	現代家事教育の根本を探究して而して實際教育に築かれたる新著。	法を樹立された新體験記録。家事科主任六ヶ年に實地調査の報告。	本著は働く教育の立場よりした新名著1.指導案内2.實習指導3.料理指導4.洗濯實習5.住宅見學等特色多き實際指導書。	上類切なき良書。	家事學習の各方面大小幾多の事實問題につき詳細懇切なる解決を與へられたもので、家事學習帯し得る美本。

農業・商業參考書

權威ある著者  
選された内容  
必要不可欠の良書

貴社の教育書は安價で内容豊富良書なものです (埼玉縣・加藤謙吉)……讀者の聲





東洋圖書社の出版と聞けば其の本に一段と光輝がある (富山縣・布本良雄)……讀者の聲 五六

東京女高師教授 前附屬幼稚園主事 堀 七	奈良女高師教授 附屬幼稚園主事 森川 正雄	奈良女高師教授 附屬幼稚園主事 森川 正雄	倉橋惣三先生序 内山 憲堂	大阪家なき幼稚園 園長 大毎 碩問 橋詰 良
幼稚園保育の諸問題	用母 教 育 學	幼稚園 育 兒 法	兒童話の話方と實例	家なき幼稚園と實際
四六〇・二六〇	菊 〇・三〇〇	菊 〇・三〇〇	菊 〇・二八〇	四六〇・二六〇

隨筆雜書參考書

第五高校教授 八波 則吉	第五高校教授 八波 則吉	山形高校長 佐野 保太郎	久留島 武彦	三浦 藤作	三浦 藤作
高きに登る	身邊雜話	啞の寢言	久留島名話集	實演學校劇	實演學校劇
四六〇・二六〇	四六〇・二六〇	四六〇・二六〇	型中 〇・二五〇	型中 〇・二五〇	型中 〇・二五〇

教育週報社長 爲藤 五郎	奈良女高師前教官 永田 與三郎	文學博士 青木 直子	文部省前學生課長 松江 萬一郎	東京市地理 教育研究會	大阪市長 大尾 眞三郎	奈良女高師前教諭 及川 久太郎
教育週報	青年教師時代	母より先生へ	思想と自己創造	大東京物語	大大阪物語	兒童の物理學
四六〇・二六〇	四六〇・二六〇	四六〇・二六〇	四六〇・二六〇	四六〇・二六〇	四六〇・二六〇	四六〇・二六〇

兒童百科全書

兒童の物理學

この書は、兒童の創作、學校劇の模範、各學年の兒童の實演に適するものを集むる、兒童の實生活に適切なものを探る、教科書と關係なくとも興味のあるものを探る、普通の兒童劇の外小劇に類するもの戸外劇に類するものラヂオドラマ其他あらゆる種類を網羅す6發達程度を顧み餘り長時間に亘るものを選じた7指導書が自由に活用し得るやうに8舞臺裝置小道具扮装等は極めて大體の示唆を與へた。

文學小説は菊地寛、教育小説は志垣寛とは昭和の定評、人間味の培養には小説を讀むべきである。記者界大先達の熱筆になる教育小説。本書は如斯く。教育小説にて現實界のモデル三十餘人昭々たる教育論界の重鎮渡部先生の生々しき苦闘史、魅力迫力に富む實録であり教育文學である。朝日新聞毎日新聞の經濟欄を寫眞として引用し類なき分り易き良書。著者の體験より教育的の說明振りを以てせる比に造育てあける情熱の炬火であると。子供問題に對するの名著。

新社會に適應する眞生活建設の指針書現代青年の久しく渴望して滿されざりし總てを暗示し昭和の科學的等各方面の挿畫を多く挿入し、地理的科學的等各方面の挿畫を多く挿入し、自然人文的科學的等各方面の挿畫を多く挿入し、自保たしめし良書。詳述し小學校教材と連絡を以て立體大版を説く。

●權威ある著者  
●精選された内容  
●必要不可欠の良書

東洋圖書は教育關係書籍について本邦第一の會社と信ず (山形縣・澤口健次)……讀者の聲 三七



